

令和7年（2025年）版

消 防 年 報



豊中市消防局

はじめに

豊中消防は、昭和２３年に地域に密着した自治体消防として発足以来、社会情勢の急速な変化に機敏に対応しつつ、地域社会の安全確保のために、組織、施設、装備など、消防防災体制の充実・強化に不断の努力を積み重ね、着実に発展を遂げてまいりました。

この年報は、本市における消防防災活動の概要をとりまとめ、消防行政の運営資料とするとともに、消防行政を広く一般に紹介することを目的として編集しております。

本年報を通じ、消防行政に対する御理解と御支援を賜りますとともに、参考資料としてご活用いただければ幸いです。

令和８年７月

豊中市消防局

目 次

豊中市・能勢町の概況

❖ 豊中市・能勢町の位置.....	6
-------------------	---

主な消防施策

❖ 最近の取組み.....	7
マイナ救急実証事業を開始	
北大阪消防指令センターの運用開始	
豊中市災害対応ドローン隊「KITE	
(カイト)」の運用を開始	
大阪・関西万博へ職員を派遣	
❖ 「救命力世界一」の取組みの推進	9
市立豊中病院と消防局救急隊の連携	
を強化	
応急手当普及啓発事業	
シニア救命講習	
応急手当普及啓発講習会実施状況	
ジュニア救命サポーター事業	
市民救命サポーター制度	
映像通信システム「Live119」	
❖ 防火対策の強化	11
住宅用火災警報器の設置対策	
市内在住・在勤外国人への防火防災	
研修会	
❖ 地域防災力の育成	12
『防災訓練ハンドブック』を活用し	
た防災訓練の実施	
❖ 防火・防災広報の取組み.....	12
消防ふれあいフェスタの開催	
防火作品の応募と表彰式の開催	
❖ 消防体制の強化	14
大阪国際空港航空機事故対策総合	
訓練の実施	
実戦ポンプ操法大会の実施	
消防・救急救命基金	

消 防 の 現 況

❖ 消防の概況.....	16
❖ 消防局・消防署・分署・出張所の配置図	17
❖ 消防庁舎の現況.....	18
❖ 消防局・消防署の組織.....	19
❖ 事務分掌.....	20
❖ 消防職員.....	23
所属別・階級別職員数	
年齢別・階級別職員数	
勤続年数別・階級別職員数	
職員研修派遣状況	
資格取得状況	
❖ 予算.....	29
当初予算	
消防費当初予算の内訳	
消防費財源内訳（当初予算）	
令和8年度消防施設整備費執行予定	

災 害 へ の 備 え

❖ 消防機械.....	30
消防自動車の配置状況	
主力機械保有台数の推移	
❖ 特殊災害対策	32
特殊災害対策専門班	
特殊災害対策専門班担当一覧	
❖ 避難行動要支援者対策	33
一声訪問事業	
❖ 応急救護所用資機材.....	34
❖ 飲料水兼用耐震性貯水槽設置場所資機材	34
❖ 災害対応用資機材	35
❖ 北大阪消防指令センター	36
広域消防指令情報システム	
消防専用無線電話装置（能勢町含む。）	
各種電話回線等	
災害通報	
携帯電話等による119番通報	
多言語サービス「多言語通訳センタ	
ー」	
119番受信状況	

病院照会	
聴覚障がい者『災害受付専用 FAX』	
緊急通報システム NET119・メール	
119番通報システム	
119救命サポートチーム	
❖消防水利.....	40
消防水利の現況	
開発にかかる新設消防水利の設置状況	
❖消防相互応援体制.....	41
消防相互応援協定等締結状況	

災 害 の 概 況

❖火災.....	45
火災概況	
月別の火災件数	
時間帯別の火災件数	
出火原因別の火災件数	
指揮調査隊	
特別消火隊「FAST（ファスト）」	
❖救急.....	49
救急概況	
病院収容所要時間別搬送人員	
救急救命士の活動状況	
豊中市内救急告示医療機関	
救急の高度化	
指導救命士	
❖救助.....	52
救助概況	
救助訓練	
救助隊員の訓練実施状況	
高度救助隊「HEART（ハート）」	
国際消防救助隊（IRT）“愛ある手”	
メキシコ地震に対する国際消防救助隊（IRT-JF）への隊員派遣	

災害を未然に防ぐ

❖火災予防思想の普及.....	56
普及啓発	
❖防火管理制度.....	56
❖防火対象物.....	57
❖中高層対象物.....	58
❖建築確認等の同意.....	59
❖消防用設備等の審査と検査.....	59
消防用設備等設置状況	

❖危険物の規制.....	60
危険物安全対策	
危険物施設の現況	
少量危険物等の貯蔵・取扱いの現況	
❖危険物保安監督者.....	61
消防法に基づく届出	
仮貯蔵・仮取扱い	
危険物施設の設置許可・完成検査等	
❖保安3法の規制.....	62
保安3法の安全対策	
保安3法施設の現況	
火薬類取締法施設	
高压ガス保安法施設	
液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律施設	
❖保安3法施設の設置許可・完成検査等.....	63
火薬類取締法	
高压ガス保安法	
液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律	
❖査察（立入検査）.....	64
防火対象物の立入検査	
危険物施設の立入検査	
火薬類取締法施設の立入検査	
高压ガス保安法施設の立入検査	
液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律施設の立入検査	
査察推進員の配置	
予防技術資格者認定職員数	
❖火災予防条例による規制.....	66
火災予防条例に基づく届出等受理状況	
❖消防訓練指導状況.....	66
❖幼児や児童に対する防火・防災教育.....	67
幼年消防クラブ	
幼年消防クラブの現況	
少年消防クラブ	
❖地域防災力の育成.....	69
女性防火クラブ	
女性防火クラブの現況	
主な活動実績	
自主防災組織の訓練	
自主防災組織の訓練実施状況	
消防防災協力事業所登録制度	
消防防災協力事業所登録状況	
消防防災協力事業所等訓練指導状況	

❖ 消防音楽隊.....	7 2
沿革	
出演内容	
隊員構成	

消 防 団

❖ 組織.....	7 6
人員・機械	
階級別団員数	
年齢別・階級別団員数	
勤続年数	
教養訓練	
災害活動	
警戒活動	
❖ 消防団員の処遇.....	8 0
報酬	
出動報酬	
退職報償金	
表彰	
個人表彰	

自治体消防発足後の主要事項

.....	8 2
-------	-----

豊中市・能勢町の概況

❖ 豊中市・能勢町の位置

豊中市は、東西 6 キロメートル、南北 10.3 キロメートル、面積 36.6 平方キロメートルで、大阪府の中央部の北側、神崎川を隔て大阪市の北に位置し、東は吹田市、西は尼崎市、伊丹市、北は池田市、箕面市に接しています。地形は北東の千里山丘陵部、中央の豊中台地、西・南の低地部からなっています。

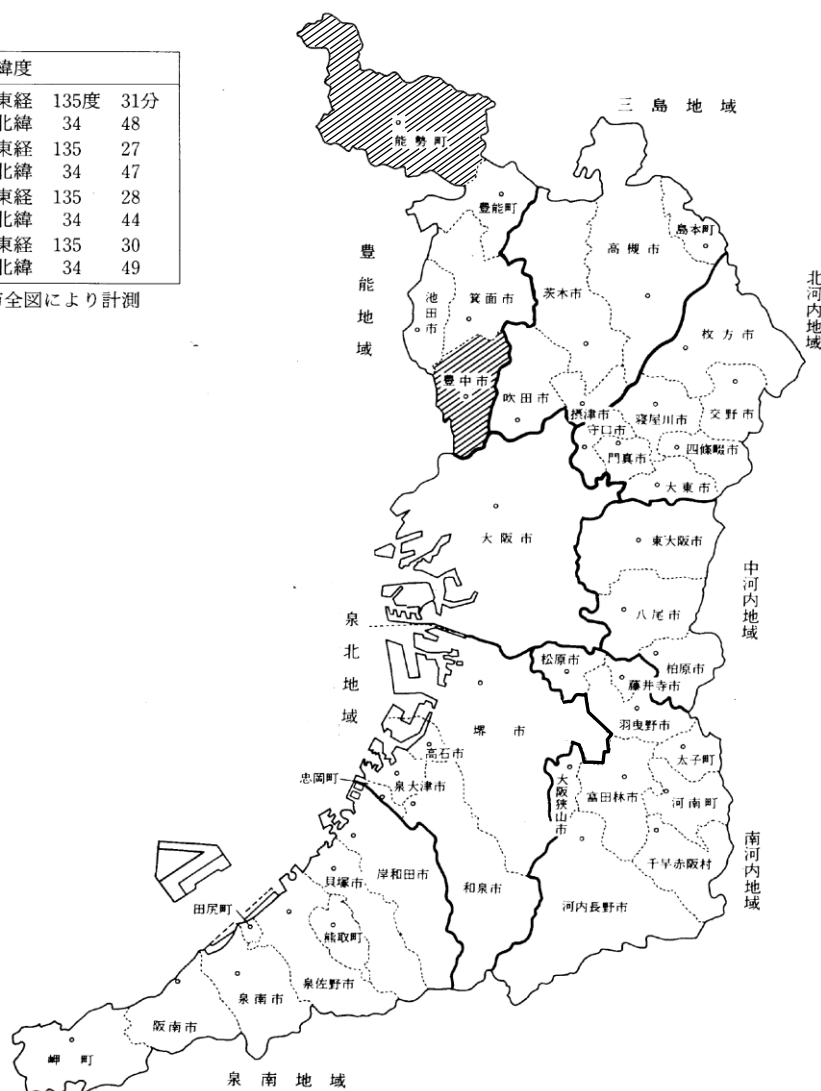
令和 8 年 4 月 1 日時点、人口は 40 万 5,332 人、世帯数は 20 万 0,943 世帯となっています。

能勢町は、面積 98.75 平方キロメートルで、大阪の最北端に位置し、府内では豊能町、兵庫県では川西市、丹波篠山市、川辺郡猪名川町、京都府では亀岡市、南丹市と接しています。

令和 8 年 4 月 1 日時点、人口は 8,658 人、世帯数は 4,453 世帯となっています。

方 位	経緯度
東 端	東経 135度 31分 北緯 34 48
西 端	東経 135 27 北緯 34 47
南 端	東経 135 28 北緯 34 44
北 端	東経 135 30 北緯 34 49

注：豊中市全図により計測



主 な 消 防 施 策

消防局では、「安全で安心して暮らしができるまち」を目指して、次の施策に取り組んでいます。

❖ 最近の取組み

マイナ救急実証事業を開始

マイナ救急は、救急隊が傷病者の情報（受診履歴、薬剤情報、既往歴など）をマイナ保険証から取得し、搬送先病院の選定や適切な応急処置に活用することにより、救急業務の円滑化を図るものです。

総務省消防庁が令和 8 年度からの運用開始に向け、令和 7 年 10 月 1 日から全国一斉で実証事業を開始しました。消防局でもすべての救急隊がマイナ救急の実証事業に参加し、令和 8 年 4 月から本格運用を開始します。



傷病者のマイナ保険証から取得した情報を活用し搬送先病院を選定

北大阪消防指令センターの運用開始

令和 6 年 4 月から、豊中市（能勢町）・吹田市・池田市・箕面市（豊能町）・摂津市の 5 市による消防指令業務の共同運用を開始しました。

災害が複雑多様化するなか、消防指令業務は高度で迅速かつ的確な対応が求められており、119 番通報の受信、消防車や救急車の出場指令、無線通信の統制などの消防指令業務を 1 か所に集約することにより、効果的な災害対応が可能となりました。

また、5 市で共同運用を行うことにより、消防通信指令施設の構築及び維持管理に係る費用の効率化などが図られています。



北大阪消防指令センター

豊中市災害対応ドローン隊「KITE（カイト）」の運用を開始

大規模地震や火災、水難救助事案などが発生した際に、被害状況の迅速な把握や救助捜索活動などを行い、被害の軽減を図るため、令和 5 年 12 月に豊中市災害対応ドローン隊「KITE（カイト）」を発隊させ、令和 6 年 4 月から運用を開始しました。令和 7 年 10 月には、日本の消防が行うドローンの災害活用を訓練展示という形で世界に発信し、ドローンの開発や発展に繋がりたいと大会主催者から協力依頼を受け、WRS (World Robot Summit) に参加しました。



ドローン現場活動状況



ドローン隊ワッペン



ドローン隊員の飛行訓練



WRS デモ飛行①



WRS デモ飛行②

大阪・関西万博へ職員を派遣

令和 7 年 4 月 13 日から令和 7 年 10 月 13 日まで開催された「2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」の開催に伴い、大阪市へ 7 名の職員を順次派遣しました。

職員は、パビリオン等の建設に関する相談、開催期間中の立入検査や、「大阪・関西万博消防センター」で勤務しました。開催期間中に発生した救急の対応及び火災予防業務に従事し、会場に世界中から来場する人々の安心・安全を守りました。

❖ 「救命力世界一」の取組みの推進

市立豊中病院と消防局救急隊の連携を強化

増加する救急需要への対応策として、消防局の救急救命士が市立豊中病院の救急診療現場に常駐する取り組みを令和 7 年 4 月 1 日から開始しました。

消防局の救急救命士が救急診療現場に入ること、救急診療部門と救急隊の連携を強化して救急隊からの救急搬送依頼に対する応需の向上につなげるとともに救急救命士の知識・技術の向上を図ります。



診療支援を行う救急救命士

応急手当普及啓発事業

一人でも多くの方が、応急手当を行い、応急手当の知識が一般常識となるように、講習体制を整備し、気軽に受講できる環境づくりを行っています。令和 7 年度は、計 22,246 人が講習を受講しました。

シニア救命講習

55 歳以上の方を対象に高齢者の救急事故の予防方法や 119 番通報要領、救急活動の流れ、自宅での心肺蘇生法の実技、AED の取り扱い方法を学ぶシニア救命講習を令和 4 年度から実施しています。令和 7 年度は、17 回実施し、285 人が講習を受講しました。



シニア救命講習

応急手当普及啓発講習会実施状況

(令和 7 年度)

講 習 名	実 施 回 数		受 講 ・ 参 加 人 数	
	豊 中 市	能 勢 町	豊 中 市	能 勢 町
普通救命講習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	105 回	2 回	1,918 人	24 人
上級救命講習	2 回	0 回	34 人	0 人
救命入門コース (45 分)	238 回	9 回	9,724 人	171 人
救命入門コース (90 分)	122 回	4 回	7,425 人	87 人
一般救命講習	89 回	2 回	2,720 人	40 人
応 急 手 当 普 及 員 講 習 ・ 再 講 習 (他市認定等含む)	37 回	0 回	80 人	0 人
応 急 手 当 指 導 員 講 習 ・ 再 講 習 (他市再認定含む)	6 回	0 回	23 人	0 人
計	599 回	17 回	21,924 人	322 人



一般救命講習（乳幼児予防救急）



上級救命講習

ジュニア救命サポーター事業

本市消防局管轄区域内の小学校5年生または6年生の児童を対象に、簡易キットを使用して、命の大切さや救命手当の重要性を学ぶ「ジュニア救命サポーター事業」を実施しています。令和7年度は、37校3,463人（能勢町含む）の児童が救命手当を学びました。



小学生への救命講習

市民救命サポーター制度

本制度は、本市消防局管轄区域内の事業所及び市民が、日常において発生した救急事故に、いち早く駆けつけ、119番通報や負傷者などへの適切な救護活動を実施していただくことにより、安心・安全なまちづくりを推進することを目的としています。

（市民救命サポーター・ステーション）

本市消防局管轄区域内の事業所等で、従業員の半数以上が普通救命講習を受講し、事業所周辺や地域での救急事故の救護に協力していただける事業所等を認定するもので、令和8年4月1日現在、190箇所の事業所が登録されています。



市民救命サポーター・ステーション認定証票



市民救命サポーター・ほーむ認定証票

（市民救命サポーター・ほーむ）

本市消防局管轄区域内の居住者で、普通救命講習を受講し、自宅周辺や地域での救急事故の救護に協力していただける方を登録するもので、現在、女性防火クラブを中心に令和8年4月1日現在、4,479人の方が登録されています。

映像通信システム「Live119」

スマートフォンからの 119 番通報の際に、音声だけでは伝えきれない災害状況を通報者が動画撮影機能を活用して災害現場の状況を撮影し、動画で伝えていただくシステムです。

消防指令センターの通信員が通報者から送信された動画により正確な現場状況が把握でき、消防隊、救急隊の迅速な活動につなげることができます。

また、応急手当が必要な場合は、消防指令センターの通信員から「応急手当の方法」の動画を通報者のスマートフォンに送信することによって、通報者は動画を見ながら応急手当をすることができます。

令和 7 年度は、豊中市で 12 件、能勢町で 2 件の運用実績がありました。



Live119の運用イメージ

❖ 防火対策の強化

住宅用火災警報器の設置対策

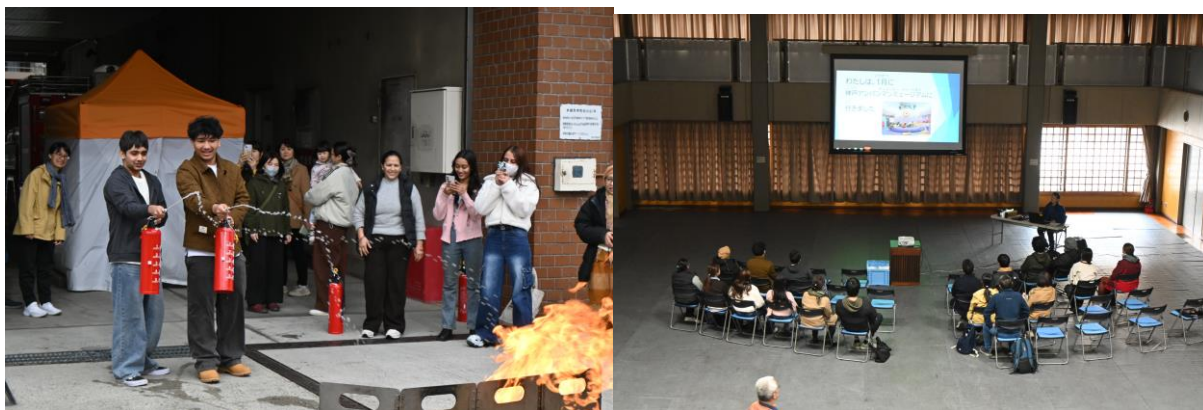
豊中市では、平成 23 年 6 月 1 日からすべての住宅で、住宅用火災警報器の設置が義務化されました。消防局では、研修会・講習会のほか、住宅用火災警報器設置状況調査や、各種イベントなどにより、市民のみなさんに住宅用火災警報器の設置や維持管理を呼びかけ、普及啓発に努めています。令和 8 年 3 月 31 日現在、豊中市内における住宅用火災警報器の設置率は 82.5%となっています。



住宅用火災警報器設置状況調査

市内在住・在勤外国人への防火防災研修会

令和 8 年 3 月 6 日、豊中市消防局・北消防署合同庁舎において、外国人への防火防災研修会を開催し、36 名の外国人が参加しました。増加する市内在住・在勤外国人に対する防火防災対策を普及させるため、とよなか国際交流協会の協力をいただき実施したものです。当日は、初期消火訓練や 119 番通報訓練など、火災発生時の初動における対応について、体験してもらいました。



市内在住・在勤外国人への防火防災研修会の模様

❖ 地域防災力の育成

『防災訓練ハンドブック』を活用した防災訓練の実施

令和3年度から、『防災訓練ハンドブック』を活用して、自主防災組織や消防防災協力事業所等に対する防災訓練指導を行っています。このハンドブックは、大規模災害時の応急活動のうち、代表的な①初期消火、②救助救出、③搬送法・ファーストエイドを取り上げ、地域みなさんが、身近にある資機材を用いた応急活動の実施方法を学ぶために作成したものです。このハンドブックを活用して地域や事業所において防災訓練を行っていただくことにより、災害時にみなさんが安全、的確に応急活動を行うことができ、災害による被害を少しでも軽減することを目指しています。



❖ 防火・防災広報の取組み

消防ふれあいフェスタの開催

令和7年11月16日、服部緑地公園西中央広場において、市民への火災予防意識の一層の普及を図ることを目的に「消防ふれあいフェスタ」を開催しました。開催当日は、好天に恵まれ、会場には約4,000名の方が来場され、防火・防災や応急手当について学んでいただきました。



消防ふれあいフェスタ会場の模様

防火作品の応募と表彰式の開催

消防局では、毎年、豊中防火安全協会の協力のもと、秋の火災予防運動行事の一環として市内幼年消防クラブ園児や市内在住・在学の児童・生徒の皆さんから、火災予防に関する図画や習字を募集しており、令和7年度には、幼年消防クラブ262点、図画777点、習字2,131点の応募がありました。

審査の結果、消防局長表彰、消防署長表彰、防火安全協会長表彰及び金・銀・銅賞の合計70点の優秀作品が選ばれ、そのうち消防局長表彰、消防署長表彰及び防火安全協会長表彰の12作品の受賞者に対して、令和7年11月5日、市役所第二庁舎ロビーにて防火作品表彰式を開催し、表彰状の授与を行いました。

【豊中防火安全協会長賞】図画の部



豊中市立熊野田小学校
國崎 侑月 様

【豊中防火安全協会長賞】幼年の部



追手門学院幼稚園
西小野 佑翔 様

【豊中防火安全協会長賞】習字の部



豊中市立北丘小学校
加治 美宇 様

【消防局長賞】図画の部



豊中市立第9中学校
大山 じゅな 様

【消防局長賞】習字の部



豊中市立第3中学校
林 頼慶 様

【消防局長賞】幼年の部



箕面自由学園幼稚園
白滝 紬 様



❖ 消防体制の強化

大阪国際空港航空機事故対策総合訓練の実施

令和 7 年 11 月 4 日、大阪国際空港において行われた「2025 年度大阪国際空港航空機事故対策総合訓練」に参加しました。

空港周辺市の消防や医療機関、空港内の事業所など 47 機関が参加し、「航空機が着陸後、エンジンから出火。乗員乗客に多数の負傷者が発生。」との想定で、関係機関との情報共有及び相互連携を密に図り、実災害さながらの緊迫感の中、訓練を実施しました。

関係機関との連携力を深め、航空機災害に備えています。



訓練風景

実戦ポンプ操法大会の実施

令和 7 年 11 月 5 日から 7 日までの 3 日間にわたり、豊中市消防訓練場にて令和 7 年度実戦ポンプ操法大会を実施しました。

本大会は、消防職員が消火技術及び火災救助技術の構築を図り、火災活動における基本技術を反復することで、迅速・的確な技術を習得し、消防職員としての任務を遂行するために毎年度実施しています。



実戦ポンプ操法大会

消防・救急救命基金

平成 28 年度に創設した「消防・救急救命基金」は、豊中市を応援する個人の方や団体等からの寄附金を基金に積み立て、消防車両や資機材の整備及び火災予防・救急普及啓発等の事業に活用することにより、消防・救急救命体制の充実強化を図るものです。令和 7 年度は 344 件の寄附申込があり、合わせて 6,336,938 円の寄附がありました。



消防団ラッピングバス

豊中市消防団では、総務省消防庁「消防団の力向上モデル事業」の採択を受け、消防団への入団促進を目的に、令和 7 年 5 月 29 日から市内を走る阪急バスにラッピングを施し広報活動を実施しています。全国的に消防団員数の減少が顕著であり、豊中市も例外ではありません。市に設置された消防機関として常備消防と連携し、地域密着性と動員性を駆使して各種災害の防除に努めています。



消防団ラッピングバス

消 防 の 現 況

❖ 消防の概況

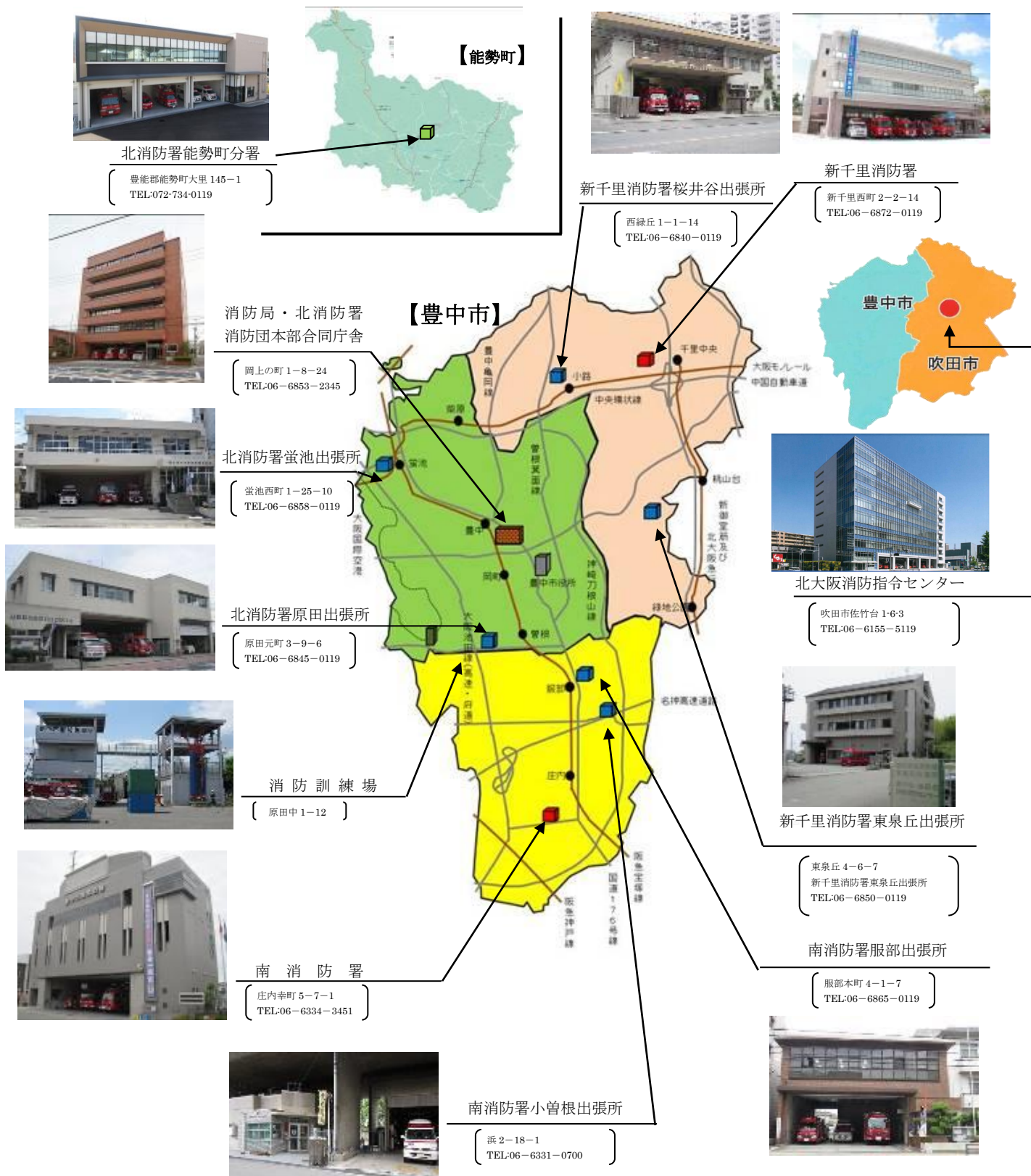
(令和 8 年 4 月 1 日現在)

面 積		豊中市 36.60 k m ²	135.35 k m ²
		能勢町 98.75 k m ²	
人 口		豊中市 405,332 人	413,990 人
		能勢町 8,658 人	
世 帯 数		豊中市 200,943 世帯	205,396 世帯
		能勢町 4,453 世帯	
消防局・署	消 防 局		1
	消 防 署 数		3
	分 署 数		1
	出 張 所 数		6
	消防職員定数（実員）	※実員数には再任用職員及び非常勤職員を含む。	418(426)
	消防ポンプ自動車等台数※	豊中市	30
		能勢町	1
豊 中 市 消 防 団	消 防 団 数		1
	消 防 分 団 数		14
	消防団員定員（実員）		575(496)
	消防ポンプ自動車台数		18

※ 「消防ポンプ自動車等」とは、「消防ポンプ自動車」、「水槽付消防ポンプ自動車」、「化学消防ポンプ自動車」、「はしご付消防自動車」、「はしご付消防ポンプ自動車」、「小型動力ポンプ付水槽車」、「小型動力ポンプ付積載車」及び「救助工作車」をいう。

❖ 消防局・消防署・分署・出張所の配置図

豊中市消防局は、豊中市内に1本部、3消防署、6消防出張所を、能勢町内に1分署を配置し、市民の生命、財産を守るため職員が24時間体制で勤務しています。



❖ 消防庁舎の現況

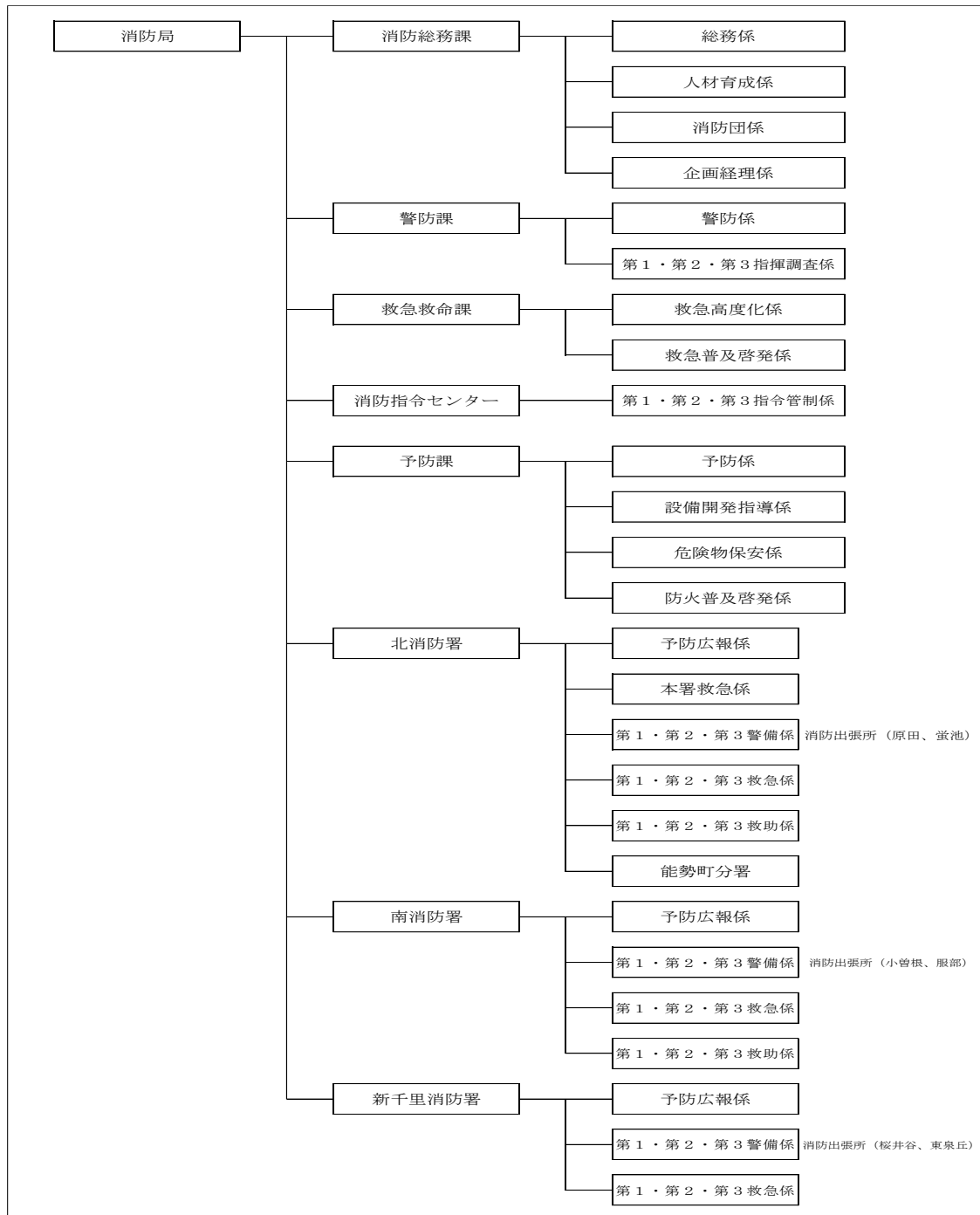
(令和 8 年 4 月 1 日現在)

名 称		所在地	業務開始 年月	構 造	敷地面積 (㎡)	建築面積 (㎡)	延面積 (㎡)
消防局・北消防署・消防団 合同庁舎 倉庫・車庫棟		岡上の町 1-8-24	S57.6	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上 6 階地下 1 階建 鉄骨造平屋建	1,572.55	858.46 212.17	3,865.63 212.17
北 消 防 署	原田出張所 倉庫棟	原田元町 3-9-6	S47.3	鉄筋コンクリート造 2 階建 鉄筋コンクリート造	816.41	353.52 36.63	559.77 36.63
	蛭池出張所 倉庫棟	蛭池西町 1-25-10	S49.12	鉄筋コンクリート造 3 階建 コンクリートブロック造	1,412.97	336.16 29.28	743.64 29.28
	倉庫棟			コンクリートブロック造		26.74	26.74
	能勢町分署	豊能郡能 勢町大里 145-1	R3.4	鉄筋コンクリート造 2 階建	1,952.63	598.20	984.30
南 消 防 署	本署	庄内幸町 5-7-1	H9.8	鉄筋コンクリート造 地上 3 階・地下 1 階建	1,582.78	558.97	2,204.34
	付属棟			鉄骨造		38.54	38.54
	服部出張所 付属棟	服部本町 4-1-7	S61.4	鉄骨造 2 階建 鉄骨平屋建	743.04	299.15 62.40	587.73 62.40
	小曾根出張所 車庫棟	浜 2-18-1	S41.5	鉄筋コンクリート造平屋建 2 棟 鉄骨スレート葺平屋建	1,375.00	314.10 119.34	314.10 119.34
新 千 里 消 防 署	本署	新千里西町 2-2-14	H26.4	鉄筋コンクリート造 3 階建 鉄筋コンクリート造	1,798.15	517.00 31.9	1503.96 31.9
	桜井谷出張所 車庫棟	西緑丘 1-1-14	S45.8	鉄筋コンクリート造 2 階建 鉄骨造平屋建	1,724.12	339.27 227.95	552.93 227.95
	東泉丘出張所 車庫・倉庫棟	東泉丘 4-6-7	H5.4	鉄筋コンクリート造 3 階建	1,744.12	554.52	1,525.45
	付属棟			鉄骨造 2 階建		132.56	240.00
				鉄骨造		13.00	13.00
消防訓練場		原田中 1-12		アスファルト舗装 夜間照明設備 (2 基) 鉄骨造 3 階建	2,510.16		110.79
A 棟				鉄骨造 3 階建			131.40
B 棟				鉄骨造 3 階建			

❖ 消防局・消防署の組織

消防局に 5 課（消防指令センター含む）、北消防署に 1 分署 2 消防出張所、南消防署に 2 消防出張所、新千里消防署に 2 消防出張所を配置しています。

（令和 8 年 4 月 1 日現在）



❖ 事務分掌

消防総務課

総務係

- (1) 局の統括事務に関する事。
- (2) 局の統括事務に係る主管部課との連絡調整に関する事。
- (3) 文書に関する事。
- (4) 公印の管守に関する事。
- (5) 法務に関する事。
- (6) 消防計画に関する事。
- (7) 応援協定等に関する事。
- (8) 消防職員委員会に関する事。
- (9) 消防長会等に関する事。
- (10) 表彰及び式典に関する事。
- (11) 労働安全衛生に関する事。
- (12) 厚生、共済事務に関する事。
- (13) 他の課、係に属しない事。

人材育成係

- (1) 人事に関する事。
- (2) 勤務規律及び服務に関する事。
- (3) 職員の分限、懲戒、その他職員の身分に関する事。
- (4) 諸手当の認定等に関する事。
- (5) 人材育成及び職員の研修に関する事。
- (6) 消防公務之証、消防職員之証等の交付に関する事。
- (7) 年金等に関する事。

企画経理係

- (1) 消防施策に係る総合企画及び調整に関する事。
- (2) 予算、決算に関する事。
- (3) 職員の諸給与の支給手続きに関する事。
- (4) 庁舎の管理に関する事。
- (5) 財産の管理に関する事。
- (6) 被服及び燃料に関する事。
- (7) 消防の広域連携及び相互応援に関する事。
- (8) 消防拠点の整備に関する事。
- (9) 消防広報、広聴に関する事。

消防団係

- (1) 消防団員の任免、報酬、その他身分に関する事。
- (2) 消防団員公務災害補償に関する事。
- (3) 消防協会事務に関する事。

- (4) 消防団の物品管理及び燃料に関する事。
- (5) 消防団員の教養訓練に関する事。
- (6) その他消防団員事務に関する事。

警防課

警防係

- (1) 警防計画(救急に係る活動計画を除く。)に関する事。
- (2) 消防部隊に関する事。
- (3) 消防地理及び水利に関する事。
- (4) 関係機関との連絡調整に関する事。
- (5) 災害現場の指揮、火災調査等に係る活動補助に関する事。
- (6) 車両及び機械器具に関する事。
- (7) 災害対応ドローンに関する事。

第1・第2・第3指揮調査係

- (1) 災害現場の指揮及び活動支援に関する事。
- (2) 警防活動(救急活動を除く。)に係る訓練指導に関する事。
- (3) 警防活動(救急活動を除く。)の研究分析に関する事。
- (4) 災害現場の監察に関する事。
- (5) 火災等の原因、損害調査及び研究分析に関する事。
- (6) 火災調査等に係る装備に関する事。
- (7) 関係機関との連絡調整に関する事。

救急救命課

救急高度化係

- (1) 救急業務の高度化の推進に関する事。
- (2) 救急医療機関その他関係機関との連絡調整に関する事。
- (3) メディカルコントロール体制に関する事。
- (4) 救急業務の効率的な運用に関する事。

救急普及啓発係

- (1) 応急手当の普及啓発に関する事。

- (2) 市民救命サポーター制度に関する
こと。
- (3) 救急需要対策に関すること。
- (4) 患者等搬送事業者の指導及び認定
に関すること。
- (5) 救急に係る広報広聴に関すること。

消防指令センター

第1・第2・第3指令管制係

- (1) 消防指令管制及び通信に関するこ
と。
- (2) 災害現場への情報提供及び災害現
場の情報収集に関すること。
- (3) 災害の現場情報に関すること。
- (4) 緊急通報システム等に係る関係部
局との連絡調整に関すること。
- (5) 消防防災情報システムの総合企画、
調整及び運用に関すること。
- (6) 消防防災情報システムの管理及び
保守等に関すること。
- (7) 消防救急無線の管理及び整備等に関
すること。
- (8) 消防指令業務の共同運用に関する
こと。

予防課

予防係

- (1) 火災予防対策の基本計画に関する
こと。
- (2) 防火対象物の査察に係る基本計画
に関すること。
- (3) 防火対象物の消防法令違反処理の
推進に関すること。
- (4) 査察及び消防法令等違反処理に関
すること。ただし、他の係に属するも
のを除く。
- (5) 火災予防に係る届出等に関するこ
と。ただし、他の係に属するものを除
く。
- (6) 防火管理及び防災管理の講習に関
すること。

設備開発指導係

- (1) 高層建築物等に係る防災計画に関
すること。
- (2) 防火対象物に係る指導基準の策定
に関すること。

- (3) 建築物に係る確認等の同意に関す
ること。
- (4) 防火対象物に係る消防用設備等の
設置に関すること。
- (5) 開発行為に関する協議及び同意に
関すること。

危険物保安係

- (1) 消防法による危険物の規制に関す
ること。
- (2) 火薬類取締法による許可、届出、報
告、検査等に関すること。
- (3) 高圧ガス保安法による許可、届出、
報告、検査等に関すること。
- (4) 液化石油ガスの保安の確保及び取
引の適正化に関する法律による許可、
登録、届出、報告、検査等に関するこ
と。
- (5) 危険物施設等の査察に関すること。
- (6) 危険物施設等の消防法令等違反処
理に関すること。
- (7) 指定数量未満の危険物の貯蔵及び
取扱いに関すること。

防火普及啓発係

- (1) 消防防災協力事業所登録制度の推
進に関すること。
- (2) 消防防災協力事業所の指導に関す
ること。
- (3) 自主防災組織の指導に関すること。
- (4) 女性防火クラブ等の育成の推進に
関すること。
- (5) 消防一声訪問事業に関すること。

北・南・新千里消防署

予防広報係

- (1) 署の人事に関すること。
- (2) 署の労働安全衛生に関すること。
- (3) 署の文書に関すること。
- (4) 署の公印の管守に関すること。
- (5) 署長表彰に関すること。
- (6) 査察及び消防法令等違反処理に関
すること。ただし、ほかの係に属する
ものを除く。
- (7) 防火対策及び防火思想の普及啓発
に関すること。

- (8) 関係団体の育成指導の実施に関すること。
- (9) 防火対象物点検等の特例認定に関すること。
- (10) 火災予防に係る届出等に関すること。ただし、ほかの係に属するものを除く。
- (11) 手数料の収入に関すること。
- (12) 広報広聴に関すること。
- (13) その他署長の定める事務の処理に関すること。

本署救急係（北消防署のみ）

- (1) 救急活動に関すること。
- (2) 救急の訓練に関すること。
- (3) 車両及び資器材の日常管理に関すること。
- (4) 救急に係る証明に関すること。
- (5) 応急手当の普及啓発に関すること。
- (6) 地域防災力の充実強化に関すること。
- (7) 広報広聴に関すること。

第１・第２・第３警備係

- (1) 災害の警戒及び防除に関すること。
- (2) 救急活動に関すること。
- (3) 災害活動に係る実地調査及び計画に関すること。
- (4) 火災等災害の防ぎょ訓練に関すること。
- (5) 消防地理の実態調査及び消防水利の維持に関すること。
- (6) 車両及び資器材の日常管理に関すること。
- (7) 共同住宅等の査察に関すること。
- (8) 圧縮アセチレンガス等に係る届出に関すること。
- (9) 道路工事及び断水等に係る届出に関すること。
- (10) 住宅防火対策に関すること。
- (11) 災害時要援護者対策に関すること。
- (12) 地域防災力の充実強化に関すること。
- (13) 広報広聴に関すること。

第１・第２・第３救急係

- (1) 救急活動に関すること。
- (2) 救急の訓練に関すること。

- (3) 車両及び資器材の日常管理に関すること。
- (4) 救急に係る証明に関すること。
- (5) 応急手当の普及啓発に関すること。
- (6) 地域防災力の充実強化に関すること。
- (7) 広報広聴に関すること。

第１・第２・第３救助係（新千里消防署除く）

- (1) 救助活動に関すること。
- (2) 救助の訓練に関すること。
- (3) 車両及び資器材の日常管理に関すること。
- (4) 共同住宅等の査察に関すること。
- (5) 災害活動に係る実地調査及び計画に関すること。
- (6) 住宅防火対策に関すること。
- (7) 災害時要援護者対策に関すること。
- (8) 地域防災力の充実強化に関すること。
- (9) 広報広聴に関すること。

北消防署能勢町分署

第１・第２・第３消防係

- (1) 分署の総括事務に関すること。
- (2) 火災予防運動など防火思想の普及啓発に関すること。
- (3) 査察及び消防法令違反処理に関すること。
- (4) 災害の警戒及び防除に関すること。
- (5) 災害活動に係る実地調査及び計画に関すること。
- (6) 火災等災害の防ぎょ訓練に関すること。
- (7) 救急業務に関すること。
- (8) 救助業務に関すること。
- (9) 火災等の原因、損害調査に関すること。
- (10) 各種届出等に関すること。
- (11) 広報広聴に関すること。
- (12) その他署長及び分署長の定める事務の処理に関すること。

◆消防職員

所屬別・階級別職員数

令和8年4月1日 現在

区 分		消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他	合計
消防局	消防局長	1									1
	次長		1								1
	消防総務課			1	1	8	3		1	1	15
	総務省消防庁派遣職員						1				1
	府派遣職員				1						1
	豊中市危機管理課				1						1
	初任教育								9		9
	再任用										
	警防課			4	6	10	6				26
	再任用						1				1
	救急救命課			1	2	3	2	1			9
	再任用						1				1
	消防指令センター		1	3	4	7	2				17
	再任用										
	予防課			1	2	9	2			1	15
	再任用						1				1
	小計	1	2	10	17	37	16	1	10	2	96
	再任用						3				3
消防北	北本署		1	4	9	21	18	1	7		61
	再任用						1				1
	原田出張所				3	7	6	1	7		24
	再任用										
	蛭池出張所				3	6	4	2	7		22
	再任用						2				2
	能勢町分署				1	9	7	3	3		23
	再任用										
	小計		1	4	16	43	35	7	24		130
	再任用						3				3
消防南	南本署		1	4	4	17	21	1	7		55
	再任用										
	小曽根出張所				3	6	8	2	5		24
	再任用										
	服部出張所				3	8	6	3	3		23
	再任用						1				1
	小計		1	4	10	31	35	6	15		102
消防新千里	再任用						1				1
	新千里本署		1	4	4	17	6	7	4		43
	再任用										
	桜井谷出張所				3	6	10	3	2		24
	再任用										
	東泉丘出張所				3	6	11		4		24
消防署	再任用										
	小計		1	4	10	29	27	10	10		91
合計		1	5	22	53	140	113	24	59	2	419
再任用							7				7
実 員		426名（417名+再任用職員7名+非常勤職員2名）									

年齢別・階級別職員数

令和8年4月1日 現在

階 級 年 齢	消 防 吏 員								計
	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	
18 歳 以 上 20 歳 未 満									
20 歳 以 上 25 歳 未 満								39	39
25 歳 以 上 30 歳 未 満						16	5	19	40
30 歳 以 上 35 歳 未 満					6	41	12	1	60
35 歳 以 上 40 歳 未 満				1	40	39	4		84
40 歳 以 上 45 歳 未 満				4	44	13			61
45 歳 以 上 50 歳 未 満			3	9	26	1	1		40
50 歳 以 上 55 歳 未 満		1	13	25	16		2		57
55 歳 以 上 60 歳 未 満	1	4	6	11	8	3			33
60 歳 以 上				3		7			10
うち再任用短時間勤務職員数						(3)			(3)
合 計	1	5	22	53	140	123	24	59	424
うち再任用短時間勤務職員数						(3)			(3)
平 均 年 齢	59.0	56.6	52.9	51.7	43.1	36.4	33.8	23.9	39.8

勤続年数別・階級別職員数

令和8年4月1日 現在

階 級 勤続年数	消 防 吏 員								計
	消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	
1 年 未 満								13	13
1 年 以 上 5 年 未 満						3		34	37
5 年 以 上 10 年 未 満						24	8	12	44
10 年 以 上 15 年 未 満					22	56	13		91
15 年 以 上 20 年 未 満				2	49	24	2		77
20 年 以 上 25 年 未 満			1	5	40	3			49
25 年 以 上 30 年 未 満		1	5	14	10				30
30 年 以 上 35 年 未 満	1	1	10	28	18	3	1		62
35 年 以 上		3	6	4	1	7			21
うち再任用短時間勤務職員数						(3)			(3)
合 計	1	5	22	53	140	120	24	59	424
うち再任用短時間勤務職員数						(3)			(3)
平 均 年 数	34.0	35.6	32.0	30.3	20.4	14.2	10.8	2.4	17.7

職員研修派遣状況

(令和7年度実績)

派遣先	研修内容		回数	期間	人数
消防大学校	総合教育	上級幹部科	1回	17日間	1人
		幹部科	1回	47日間	1人
	専科教育	警防科	1回	50日間	1人
	実務講習	高度救助・特別高度救助コース	1回	20日間	1人
大阪府立消防学校	初任教育		2回	各6ヶ月間	14人
	専科教育	警防科	1回	9日間	3人
		予防科防火査察課程	1回	6日間	4人
		予防科消防用設備課程	1回	6日間	1人
		予防科危険物課程	1回	6日間	0人
		火災調査科	1回	9日間	2人
		救助科	2回	18日間	4人
	幹部教育	初級幹部科	1回	9日間	3人
		中級幹部科	1回	7日間	4人
		上級幹部科	1回	1日間	2人
	特別教育	はしご車技術講習	2回	4日間	3人
		水難救助技術研修	1回	7日間	3人
		通信指令研修	1回	4日間	1人
		採用後3年目研修	4回	2日間	9人
		女性活躍推進研修	1回	1日間	1人
		実火災体験型訓練指導者研修	1回	1日間	3人
		教育技法研修	1回	1日間	1人
大阪市消防局 高度専門教育 訓練センター	上級救助研修		1回	8日間	1人
	指揮研修		1回	2日間	1人
	特殊災害研修		1回	5日間	1人
	消火技術研修		1回	3日間	1人
	上級予防研修	査察コース	1回	3日間	1人
	救急救命士養成課程		1回	7ヵ月間	4人
	指導救命士養成課程		1回	13日間	2人
大阪市消防局	方面隊実務研修		1回	6日間	1人
	指令情報センター研修		1回	2日間	1人
	救助隊電気災害研修		1回	1日間	1人
	大阪・関西万博長期研修		1回	2年10ヵ月間	1人
	大阪・関西万博短期研修		1回	各1ヶ月間	6人

堺市消防局	指揮受託研修	1回	6日間	1人
	特別高度救助隊研修	1回	6日間	1人
	救急ワークステーション研修	1回	2日間	1人
	火災調査受託	1回	3日間	1人
	危険物初任者研	1回	1日間	1人
大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター	救急救命士就業前教育病院実習	2回	各1カ月間	6人
大阪府済生会千里病院	救急救命士就業中再教育病院実習	154回	4・8日間	69人
	気管挿管病院実習	1回	32日間	1人
市立豊中病院	救急救命士就業中再教育病院実習	4回	各3ヶ月間	12人
	気管挿管病院実習	1回	60日間	1人
	ビデオ喉頭鏡実習	3回	2日間	3人
大阪府神経外科病院	気管挿管病院実習	2回	40・42日間	2人
	ビデオ喉頭鏡実習	1回	2日間	1人
大阪大学医学部附属病院	気管挿管病院実習	1回	14日間	1人

資格取得状況

令和8年4月1日 現在

階 級 資 格	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	計
大型第1種		4	15	35	77	49	7	3	190
大型特殊第1種			1	2		2			5
けん引第1種				1		2			3
大型第2種									
中型第1種	1		4	6	72	80	17	22	202
小型船舶操縦士	1	1	8	21	46	28	3	4	112
小型移動式クレーン運転技能者			4	18	40	21	3	2	88
玉掛け技能者			3	19	42	23	3	2	92
特殊無線技士（陸上2級・3級）	1	2	10	20	47	25	4	39	148
ガス溶接作業技能者									
アーク溶接作業技能者									
酸素欠乏・硫化水素		1	6	14	42	16			79
足場の組立等作業主任者									
衛生管理者									
消防設備士甲種	1			1	2				4
消防設備士乙種	1			1	3				5
消防設備点検資格者						1			1
危険物取扱者甲種			2	4		1		1	8
危険物取扱者乙種	1	1	13	29	68	29	2	10	153
危険物取扱者丙種			1		1				2
潜水土		2	11	25	48	38	4	4	132
特定化学物質等作業主任者									
予防技術資格者（防火査察専門員）	1		4	10	51	32	4	1	103
予防技術資格者（消防用設備等専門員）	1	1	2	6	7	4			21
予防技術資格者（危険物専門員）			1	1	9				11
救急救命士		1	5	24	52	44	9	10	145

❖ 予算

当初予算

区 分	市一般会計 【能勢町含む】 (千円)	消 防 費 【能勢町含む】 (千円)	市一般会計 に対する消 防費の割合 (%)	人口1人 あたりの 消 防 費 (円) 【能勢町含む】	1 世 帯 あたりの 消 防 費 (円) 【能勢町含む】	能勢町消防負 担 金 額 (千円)
令和 8 年度	213,524,719	5,979,416	2.8	14,443	29,111	241,090
令和 7 年度	214,008,094	6,587,706	3.0	15,900	32,307	219,854

本表における人口、世帯数は、令和 8 年 4 月 1 日の住民基本台帳を用いて算出。

【豊中市】 405,332 人 200,943 世帯 【能勢町】 8,658 人 4,453 世帯

【合計】 413,990 人 205,396 世帯

消防費当初予算の内訳

(単位 千円)

区 分	常備消防 費	非 常 備 消 防 費	災害対策 費	消 防 関 係 施 設 包 括 管 理 費	消 防 施 設 整 備 費	防 災 無 線 整 備 費	防災設備 整備費	防災設備 整備費
令和 8 年度	4,794,077	120,993	118,402	20,875	446,031	11,306	0	26,219
令和 7 年度	4,567,832	129,805	116,683	20,794	1,075,438	302,550	23,387	0

消防費財源内訳（当初予算）

(単位 千円)

区 分	消 防 費 (A)	内 訳					一般財源割 合 (B) / (A) × 1 0 0 (%)
		国 庫 支 出 金	府 支 出 金	地 方 債	そ の 他	一般財源 (B)	
令和 8 年度	5,537,903	14,819	7,643	386,900	404,305	4,724,236	85.31
令和 7 年度	6,236,489	132,980	6,859	866,000	331,536	4,899,114	78.56

令和 8 年度 消防施設整備費執行予定

(豊中市)

自家発電設備等設計委託	1 箇所
消防団屯所建替工事	1 箇所
消防団屯所設計委託	1 箇所
屋上防水・外壁補修工事	1 箇所

車庫解体工事	1 箇所
消防施設感染防止対策工事	8 箇所
高規格救急自動車	1 台更新
小型動力ポンプ	1 台更新

災 害 へ の 備 え

❖ 消防機械

市民の安心・安全を守るため、各消防拠点には消防自動車配置されています。

消防自動車の配置状況

(令和8年4月1日現在)

区 分 所 属		車 両 等																	
		水槽付消防ポンプ自動車	消防ポンプ自動車（小型水槽付含む）	はしご付消防自動車	はしご付消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ付水槽車	小型動力ポンプ付積載車	化学消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	救助工作車（小型水槽付含む）	調 査 車	予 防 広 報 車	高規格救急自動車	指 揮 車	消 防 司 令 車	支 援 車	その他の消防自動車	作業車その他の車両	原動機付自転車
消 防 局			1							1	1		1	1	1		10		
北 消 防 署	本 署		1		1	1			1	1		1	2				2	1	1
	原 田 出 所 張		2					1	2			1					1		1
	蛸 池 出 所 張		1					1	2			2					1		1
	能 勢 分 町 署								3	1			3				1	1	
南 消 防 署	本 署	1	2	1					2	1		1	2				2	1	1
	服 部 出 所 張		1					1	2			1					1		1
	小 曾 出 所 張		2						2			2					1	1	1
新千里消防署	本 署		1	1					2	1		1	2				1	1	1
	桜 井 谷 出 所 張	1	2				1		2			2					1		1
	東 泉 丘 出 所 張	1	1						2			1					3	1	1
計		3	14	2	1	1	1	3	20	4	1	4	18	1	1	1	14	16	9



小型水槽付消防ポンプ自動車



高規格救急自動車



35m はしご付消防自動車

主力機械保有台数の推移

(令和8年4月1日時点)

車 両 年 度	水槽付消防ポンプ自動車	消防ポンプ自動車(小型水槽付含む)	はしご付消防自動車	はしご付消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ付水槽車	小型動力ポンプ付積載車	化学消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	救助工作車(小型水槽付含む)	調査車	予防広報自動車	※救急自動車	指揮車	消防司令車	支援車	その他の消防自動車	作業車等	原動機付自転車	屈折はしご付消防ポンプ自動車	屈折放水塔付消防ポンプ自動車	無線	マイクロボ	起震車	総台数(小型動力ポンプは含まない)
昭和 33 年	4	5					1					1	1	1		1								13
昭和 38 年	4	5					1				3	1	1	1		1								16
昭和 43 年	4	8					2	1		1	3	4	1	1		5			1		1			31
昭和 48 年	7	12		2			2	9	1	1	4	9	1	2		9		22	1		1			74
昭和 53 年	7	14		2			4	16	2	1	4	9	1	2		13	1	25	1	1	1			88
昭和 58 年	7	12		3			4	16	2	1	4	10	1	3		10	2	20	1	1	1	2		84
昭和 63 年	6	13		5	1		4	16	2	2	4	10	3	3		10	5	17	1	1		3	1	91
平成 5 年	7	14	3	4	1		4	18	2	2	4	11	3	3		4	16	15				3	1	97
平成 10 年	7	14	3	4	1		4	21	2	2	4	11	3	3		3	19	14				2	1	97
平成 15 年	6	14	3	2	1		4	18	2	2	4	11	3	3		3	20	12				2	1	93
平成 20 年	6	14	2	1	1	1	3	18	3	1	3	13	2	3	1	4	22	10				1		91
平成 25 年	6	14	2	1	1	1	3	18	3	1	3	13	2	3	1	4	25	10				1		94
平成 30 年	4	16	2	1	1	1	4	20	4	1	3	17	2	3	1	14	17	9				1		100
令和 元年	4	16	2	1	1	1	4	20	4	1	4	17	1	3	1	14	17	9				1		100
令和 2 年	4	16	2	1	1	1	4	20	4	1	4	17	1	3	1	14	17	9				1		100
令和 3 年	4	16	2	1	1	1	3	20	4	1	4	17	1	2	1	14	17	9				1		99
令和 4 年	4	15	2	1	1	1	3	20	4	1	4	17	1	2	1	14	17	9				1		98
令和 5 年	4	15	2	1	1	1	3	20	4	1	4	17	1	2	1	14	17	9				1		98
令和 6 年	3	15	2	1	1	1	3	20	4	1	4	17	1	2	1	14	17	9				1		97
令和 7 年	3	15	2	1	1	1	3	20	4	1	4	18	1	1	1	14	17	9						96
令和 8 年	3	14	2	1	1	1	3	20	4	1	4	18	1	1	1	14	16	9						94

※ 平成11年度から救急自動車は全て、高規格救急車を整備しています。

❖ 特殊災害対策

特殊災害対策専門班

消防局では、テロなど有事における核物質・放射線、生物剤及び化学剤による災害（NBC 災害）や航空機災害、集団救急災害、その他の特殊な災害に備え、発災時に的確な対応を行うために、特殊災害対策専門班を設けています。

平成 30 年 6 月 1 日には、能勢町分署においても、山林災害の対策班を設置し、平成 31 年 4 月 1 日には、新千里消防署の開設に伴い、市内すべての消防出張所で担当していたそれぞれの専門班を北・南・新千里の管轄署所での担当として再編成しました。

各署所の職員は、これらの災害対応について専門的に研究するとともに、有事の際には現場指揮所において指揮支援等の災害対応を行います。



特殊災害（C 災害）対応合同訓練



水防訓練（水災害対策）

特殊災害対策専門班担当一覧

担当署・分署	特殊災害種別
北消防署 (北本署・原田出張所・蛍池出張所)	集団救急災害・航空機災害・危険物災害
南消防署 (南本署・小曾根出張所・服部出張所)	水災害・洞道等災害・高圧ガス災害
新千里消防署 (新千里本署・桜井谷出張所・東泉丘出張所)	NBC 災害・高層建物災害・地下街災害
能勢分署	山林災害
*地震災害対策については 3 署で担当する	

❖ 避難行動要支援者対策

一声訪問事業

消防局では、避難行動要支援者対策として、「一声（ひとこえ）訪問」を定期的を実施しています。本事業は、要支援者の実態を把握するため、署員が高齢者や障がい者宅を訪問して防火対策や災害時の避難方法などについて相談・指導を行うもので、訪問により得た要支援者情報を活用し、災害時に適切な救護を行える体制を構築しています。令和7年度は、全対象者7,121人の内、これまで訪問したものの一度も面会できていない方及び新規で対象となった方2,396人を訪問しました。その結果、要支援者の実態把握及び防火対策指導を実施できた割合が、全体の86.3%に至りました。

❖ 応急救護所用資機材

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

番号	資 機 材 名	数量
1	フレームテント	2
2	手動式人工呼吸器	10
3	血圧計	10
4	聴診器	10
5	体温計	20
6	検眼ライト	10
7	梯状副子	120
8	巻軸包帯	2,400
9	三角巾	200
10	尺角ガーゼ	1,000
11	サージカルテープ	36
12	頸部固定用具	20
13	多目的止血帯	40
14	ネット包帯	24
15	カット絆	L400
16	カット絆	M800
17	救急包帯 大	200
18	救急包帯 小	200
19	救急包帯多頭帯 中	200
20	救急包帯多頭帯 小	200
21	保温用毛布	100
22	巻き担架	91
23	洗顔洗浄両用器	20
24	マスク	400
25	手袋	400
26	膿盆	10
27	万能はさみ	10
28	トリアージタグ	500
29	携帯用衛生袋	100
30	汎用ビニール袋	50
31	救急靴	10

32	収納箱	20
33	生理食塩水	100

❖ 飲料水兼用耐震性貯水槽 設置場所資機材

消防関係 3 箇所

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

番号	資 機 材 名	数量
1	小型動力ポンプ (C1 級)	1
2	ポンプ台車	1
3	吸管 (65 mm×6m)	1
4	吸管ストレーナー	1
5	吸管ちりよけ籠	1
6	吸管まくら木	1
7	吸管ロープ	1
8	中継用媒介金具	1
9	吸水用媒介金具	1
10	地上式消火栓開閉金具	1
11	地下式消火栓開閉金具	1
12	水槽レンチ	1
13	管そう	1
14	ノズル	2
15	吸管スパナ	1
16	スタンドパイプ	1
17	消防用ホース (65mm×20m)	10
18	とび口	1
19	水中ポンプ	1
20	充電器	1
21	スロープ	2
22	スタンドボックス	1

(1 箇所分を計上)

❖ 災害対応用資機材

北本署・南本署用

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

番号	資 機 材 名		数量
1	携帯用発電機 (一式)		1
2	エンジンカッター (兼用タイプ)		一式 1
3	ジャッキ		10
4	金てこ (80 c m 150 c m)		各 10
5	剣先スコップ		10
6	ツルハシ		10
7	斧		10
8	掛矢		10
9	ハンマー	鉄製 (大ハンマー)	10
		硬質ゴム製 (10 ポンド用)	10
10	ノコギリ (大)		10
11	ナタ		10
12	とび口 (1. 8m)		10
13	R C バール (ステンレス鋼・大)		10
14	絶縁ボルトクリッパー		10
15	燃料輸送用携行缶 (20ℓ)		3
16	携帯用拡声器		5
17	防爆型強力ライト		3
18	防塵マスク		40
19	防塵メガネ		40
20	飲料水用水筒		50
21	収納ボックス		6
22	ナイロンロープ (200m×12m)		一式 1
23	ヘッドライト		45

(1 箇所分を計上)

新千里本署・出張所 (7 箇所)

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

番号	資 機 材 名	数 量	
		新千里 桜井谷 小曾根 服部	原田 蛍池 東泉丘
1	携帯用発電機	一式 1	
2	エンジンカッター (兼用タイプ)	一式 1	

3	ジャッキ		5	10
4	金てこ (80 c m 150 c m)		各 5	各 10
5	剣先スコップ		5	10
6	ツルハシ		5	10
7	斧		5	10
8	掛矢		5	10
9	ハンマー	鉄製 (大ハンマー)	5	10
		硬質ゴム (10 ポンド用)	5	5
10	ノコギリ	大	5	30
		小		30
11	ナタ		5	5
12	とび口 (1. 8m)		5	10
13	R C バール (ステンレス鋼・大)		5	10
14	絶縁ボルトクリッパー		5	5
15	燃料搬送用携帯缶 (20ℓ)		3	
16	携帯用拡声器		5	15
17	防爆型強力ライト		3	15
18	防塵マスク		45	
19	防塵メガネ		45	
20	飲料水用水筒		45	
21	水バケツ			30
22	ヘルメット			30

(1 箇所分を計上)

消防用機械器具置場

コミュニティ用 (23 箇所)

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

番号	資 機 材 名		数量
1	ジャッキ		3
2	金てこ (80 c m 150 c m)		各 6
3	剣先スコップ		12
4	ツルハシ		3
5	ノコギリ	大	10
		小	10
6	ヘルメット		30
7	携帯用拡声器		3
8	ハンマー鉄製 (大ハンマー)		5
9	強力ライト		20
10	水バケツ		20

(1 箇所分を計上)

❖ 北大阪消防指令センター（NOC119：North Osaka Command center119）

令和 6 年 4 月 1 日から、北大阪消防指令センターにおいて、豊中市・吹田市・池田市・箕面市・摂津市の 5 市で消防指令業務の共同運用を開始しました。

消防指令業務を 1 か所に集約したことにより、119 番通報の受信や災害対応状況の広域的な一元管理による、迅速な消防応援体制の強化が図られました。



北大阪消防指令センター指令室

広域消防指令情報システム

北大阪消防指令センターの運用開始にあわせて導入された広域消防指令情報システムでは、「ゼロ隊運用」を一部地域に導入するなど、相互応援機能が強化されているほか、音声認識機能が実装されており、通報内容聴取を補助しています。

消防局では、警防作戦室に作戦室指令台を設置し、災害通報着信状況等の情報を指令センターとリアルタイムで共有するほか、災害情報共有システムを活用して、災害現場の状況を把握することができます。

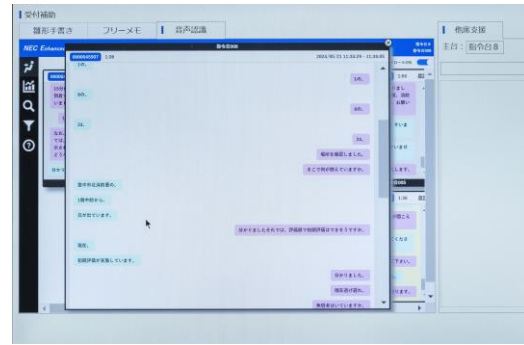
また、大災害時には情報共有テーブルと各消防署に設置する電子白板との通信により、各種情報の集約・共有を図ります。



警防作戦室



情報共有テーブル



音声認識機能

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

装 置 等	数 量	装 置 等	数 量
指令装置（自動出動指定装置、 地図等検索装置）	8 台	順次指令装置 （音声合成装置に組み込み）	—
署所端末	12 台	音声合成装置	3 台
指揮台	1 台	出動車両運用管理装置 （自動出動指定装置に組み込み）	—
表示盤（総合情報表示装置）	一式	システム監視装置	1 台
無線統制台	1 台	電源設備	一式
指令電送装置	13 台	統合型位置情報通知装置	1 台
気象情報収集装置	一式	消防用高所監視施設 （高所監視カメラ装置）	一式
災害状況等自動案内装置	一式		

消防専用無線電話装置（能勢町含む。）

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

装 置 等	数 量	装 置 等	数 量
基地局	3	消防系携帯型	71
消防系車載型・可搬型・卓上型	93	署活動系携帯型	232

各種電話回線等

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

装 置 等	数 量	装 置 等	数 量
固定電話・IP 電話・携帯電話 119 番光回線（※）	22	消防団指令書出力装置用回線	18
119 番転送回線（※）	8	災害状況自動案内装置（オートガイド）	4
関係機関連絡用加入回線（※）	4	署所端末装置指令用回線	12
指令センタービジネス回線（※）	10	主力車両間通信回線（AVM）	48
消防団出場連絡用 FAX 回線（※）	8	主力車両間通信回線（タブレット）	48
消防団順次指令用回線	32	（※）北大阪指令センター共通回線	

災害通報

火災・救急・救助の出場要請は、そのほとんどが 119 番通報です。

豊中市消防局が管轄している豊中市及び能勢町からの 119 番通報は、すべて北大阪消防指令センターで受け付けています。

災害通報には、119 番通報のほかに警察からの通報や、直接消防署や出張所への駆け付けによる通報、近隣市や救急安心センターおおさか（＃7119）からの転送通報、聴覚障害者専用ファックス、メール 119、緊急通報システム NET119 等があります。

携帯電話等による 119 番通報

人工衛星（GPS 衛星）を利用し、音声通話と併せて通報者の発信位置情報が通信事業者を経由して、自動的に消防指令センターに通知されます。

また、平成 19 年 6 月 1 日からは、携帯電話からの 119 番通報を受信した際に、発信位置情報を取得することができ、迅速な災害対応が可能となりました。

多言語サービス「多言語通訳センター」

外国人の留学生や観光客など日本語でのコミュニケーションが困難な方からの 119 番通報を、コールセンターの通訳を介した通報者、指令員との三者通話により通報をサポートします。

119 番受信状況

令和 7 年中の総受信件数は、豊中市では 32,917 件あり、能勢町では 707 件です。豊中市においては 1 か月当たりの件数は、約 2,743 件、1 日当たり約 90 件です。能勢町においては 1 か月当たりの件数は、約 59 件、1 日当たり約 2 件です。

受信状況

（令和 7 年中）

種別	受 付 件 数		割 合 （ % ）	
	豊 中 市	能 勢 町	豊 中 市	能 勢 町
火 災	111	14	0.3	2.0
救 急	23,084	433	70.1	61.0
救 助	283	6	0.9	0.8
警 戒	1631	45	5.0	6.4
問 い 合 わ せ	1580	53	4.8	7.5
病 院 照 会 ・ 相 談	545	20	1.7	2.8
間 違 い 等	3,969	79	12.0	11.2
回 線 テ ス ト ・ 通 報 訓 練	503	6	1.5	0.9
他 市 携 帯 転 送	385	3	1.2	0.4
そ の 他	826	48	2.5	6.8

病院照会

救急車を呼ぶほどではないが受診する医療機関がわからない場合等の問い合わせがあった場合は、大阪府救急医療情報センターをご案内しております。

大阪府救急医療情報センター 06-6693-1199

聴覚障がい者『災害受付専用FAX』

昭和57年4月から聴覚障がい者が緊急通報を容易に行えるよう、情報の収集と緊急時の連絡手段として、災害受付専用のファクシミリが設置され、消防車・救急車等の出場要請のほか、病院照会や相談等について、ファクシミリによる情報の交換を行っています。

(令和7年中)

設置現在数	緊急通報	緊急以外
7	火災救急 0	相談その他 0

緊急通報システムNET119・メール119番通報システム

聴覚や言語等に障がいがある方など、音声（肉声）による119通報が困難な方が、携帯電話やパソコン等のインターネット機能を利用して、救急車や消防車を要請できるシステムで、事前に消防局で登録することにより利用できます。

平成27年4月1日から運用を開始していた緊急通報システム「Web119」について、平成29年12月より新たに機能を充実させ、「NET119」と名称を変更しました。

メール119

(令和7年中)

登録者数	緊急通報	緊急以外
11	火災救急 0	相談その他 0

NET119

(令和7年中)

登録者数	緊急通報	緊急以外
56	火災救急 0	相談その他 0

119救命サポートチーム

119番通報を受信する通信員の中で救急救命士の資格を持った通信員で構成された「119救命サポートチーム」は、119番通報の内容から情報を的確に判断し、救急隊が到着するまでの間、通報者や現場に居合わせた人に口頭指導し、適切な救命手当を実施してもらうことにより、さらなる救命率の向上を目指します。

❖ 消防水利

消防水利には、消火栓、防火水槽、河川、池及びプール等があります。消防水利は、定期的に巡回して整備を行い、いつでも使用できるようにしています。

特に、防火水槽、消火栓の設置場所には、標示板を掲示するとともに、蓋をカラー化して所在を明確にし、消火栓の上などに違法駐車が発生しないよう努めています。

消防水利の現況

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

水利 市町	消 火 栓			防 火 水 槽			そ の 他				合 計
	公設	私設	小計	公設	私設	小計	河川	池	その他	小計	
豊中市域	5,012	26	5,038	336	352	688	4	34	71	109	6,346
能勢町域	345	1	346	116	26	142	0	23	0	23	

開発にかかる新設消防水利の設置状況

開発行為等区域の面積が 500 ㎡以上の開発行為等を行う場合、消防水利の整備について、消防との協議が義務付けられており、令和 7 年度の開発行為にかかる新設消防水利は防火水槽 6 基となっています。

(令和 7 年度)

消 火 栓	防 火 水 槽	合 計
0	6	6



消火栓



防火水槽

❖ 消防相互応援体制

消防相互応援協定等締結状況

消防相互応援は、豊中市及び能勢町の隣接市町や豊能地域、府内の市町及び関係機関と相互に応援協定等を結び、市町の境界線付近の災害や大規模災害、特殊災害に対応できるよう消防体制の強化を図り、被害を最小限に軽減しようとするものです。



協 定 名	協 定 機 関	協 定 年 月 日	協 定 事 項
消防組織法第39条に基づく協定 (一般消防応援協定)			
・豊中市・吹田市消防相互応援協定	吹田市	S39.10.24 (H25.11.1)	市域間の消防・救急業務
・豊中市及び吹田市における建物火災の相互応援に係る申し合わせ	吹田市	H27.4.1	市域における建物火災初動出動態勢
・豊中市及び吹田市における救急事案の相互応援に係る連携強化の申し合わせ	吹田市	R6.4.1	市域における救急事案の連携強化
・大阪市・豊中市消防相互応援協定	大阪市	S40.12.1 (H25.11.1)	市域間の消防・救急業務
・大阪市・豊中市消防相互応援協定に関する覚書	大阪市	S40.12.1	市域間の消防・救急業務
・豊中市・伊丹市消防相互応援協定	伊丹市	S41.12.10 (H25.11.1)	市域間の消防・救急業務
・尼崎市・豊中市消防相互応援協定	尼崎市	S42.12.15	市域間の消防・救急業務
・大阪府豊能地域広域消防相互応援協定	池田市・箕面市・豊能町・能勢町	H27.4.1 (R6.4.1)	市町域間の消防・救急業務
・大阪府豊能地域広域消防相互応援協定に基づく覚書	池田市・箕面市・豊能町・能勢町	H27.4.1 (R6.4.1)	市町域間の消防・救急業務
・豊能町域におけるはしご付消防自動車の応援にかかる申し合わせ	箕面市	H28.4.1	はしご付消防自動車の応援業務
・京都中部広域消防組合・能勢町・亀岡市・豊中市消防相互応援協定書	京都中部広域消防組合・能勢町・亀岡市	H27.4.1	市町域間の消防・救急業務
・豊中市・川西市・能勢町消防相互応援協定	川西市・能勢町	H27.4.1	市町域間の消防・救急業務
・豊中市・川西市・能勢町消防相互応援協定に基づく覚書	川西市・能勢町	H27.4.1	市町域間の消防・救急業務
・能勢町・猪名川町・豊中市消防相互応援協定	能勢町・猪名川町	H27.4.1	市町域間の消防・救急業務
・能勢町・猪名川町・豊中市消防相互応援協定に基づく覚書	能勢町・猪名川町	H27.4.1	市町域間の消防・救急業務
・篠山市・能勢町・豊中市消防相互応援協定	篠山市・能勢町	H27.4.1	市町域間の消防・救急業務
・篠山市・能勢町・豊中市消防相互応援協定に基づく覚書	篠山市・能勢町	H27.4.1	市町域間の消防・救急業務
(高速道路関係)			
・名神高速道路内の尼崎・豊中・西宮各IC間における消防相互応援に関する協定	尼崎市・西宮市	S39.8.31	名神高速道路内の尼崎・豊中・西宮各IC間の消防・救急業務
・名神高速道路内の豊中・茨木IC間における消防相互応援に関する協定	茨木市	S39.11.28 (H25.11.1)	名神高速道路内の豊中・茨木IC間の消防・救急業務
・縦貫道路茨木・宝塚IC間における消防相互応援に関する協定書	茨木市・吹田市・池田市・川西市・伊丹市・宝塚市	S54.6.7	中国縦貫自動車道路内の茨木・宝塚各IC間の消防・救急業務

(航空機災害関係) ・大阪国際空港周辺都市航空機災害消防相互応援協定 ・大阪国際空港及びその周辺における消火救難活動に関する協定書 ・大阪国際空港及びその周辺における消火救難活動に関する協定書に基づく覚書 (大規模災害関係) ・航空消防応援協定 ・大阪府下広域消防相互応援協定 ・大阪府下広域消防相互応援協定に基づく覚書 (救急関係) ・救急医療相談業務に係る応援協定 (予防関係) ・市域境界線上に位置する消防対象物の取扱いに関する協定 ・市域境界線上に位置する消防対象物の取扱いに関する協定 ・市域境界線上に位置する消防対象物の取扱いに関する協定 (その他) ・はしご付消防自動車共同運用に係る消防応援協定	大阪市・堺市・東大阪市・池田市・吹田市・八尾市・松原市・柏原羽曳野藤井寺消防組合・高石市・尼崎市・西宮市・伊丹市・宝塚市・川西市 関西エアポート株式会社・伊丹市・池田市 関西エアポート株式会社・伊丹市・池田市 大阪市 府下常備市町村 府下消防本部 大阪市 大阪市 池田市 吹田市 箕面市	S62.8.12 (H26.1.31) H28.3.29 H28.3.29 S45.10.1 (H22.4.1) S63.9.1 (R6.4.1) S63.9.1 (R6.4.1) H22.12.1 S53.12.20 S59.6.1 H24.5.1 H24.5.18	大阪市 15 市の区域内で航空機の墜落等による大規模な災害が発生した場合における消防相互応援協定 大阪国際空港内等における航空機等に関する火災等に対する消火救難活動 大阪国際空港内等における航空機等に関する火災等に対する消火救難活動 回転翼航空機による消防・救急業務 大阪府域内において大規模な災害が発生した場合における消防相互応援 大阪府域内において大規模な災害が発生した場合における消防相互応援 市民の安心感の確保と救命力の向上を図る。 市域境界線上に位置する消防対象物の取扱い 市域境界線上に位置する消防対象物の取扱い 市域境界線上に位置する消防対象物の取扱い はしご付消防自動車の共同運用
消防組織法第 39 条に基づく協定以外 (高速道路関係) ・阪神高速道路ならびに中央環状線道路の消防出動に関する覚書 ・縦貫道路吹田・宝塚 IC 間における消防相互応援に関する協定 (航空機災害関係) ・大阪国際空港に係る航空機災害等に係わる防災相互無線局の運用に関する確認書 ・大阪国際空港に係わる防災相互無線局運用要領 (救急関係) ・救急救命士に対する医師の具体的な指示に関する協定	池田市 吹田市 関西エアポート株式会社・伊丹市・池田市・大阪国際空港周辺都市消防関係連絡協議会代表市大阪市 関西エアポート株式会社・伊丹市・池田市・大阪国際空港周辺都市消防関係連絡協議会代表市大阪市 大阪大学医学部附属病院・高槻市・吹田市・茨木市・箕面市・池田市・摂津市・島本町・豊能町・能勢町	S45.3.10 (H10.4.2) S48.8.1 H28.3.29 H28.3.29 H14.3.15	阪神高速道路及び中央環状線道路における消防・救急業務 中国縦貫自動車道路内の吹田・宝塚各 IC 間の消防・救急業務 大阪国際空港に係る航空機災害等に係わる防災相互無線局の運用 大阪国際空港に係る航空機災害等に係わる防災相互無線局の運用 救急救命士に対する医師の具体的な指示

・救急救命士派遣研修に関する協定	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 大阪府 済生会千里病院・吹田市・箕面市・池田市・ 豊能町・能勢町	H18.4.1	救急救命士派遣研修
・救急救命士に対する医師の具体的な指示に関する協定	社会福祉法人 ^{恩賜財団} 大阪府 済生会千里病院・吹田市・箕面市・池田市・ 豊能町・能勢町	H20.4.1	救急救命士に対する医師の具体的な指示
・救急車同乗研修に係る覚書	陸上自衛隊第3 後方支援連隊衛生隊	H25.3.1 (R 元.11.1)	救急車同乗研修の実施
・大阪府救急医療情報システム（ORION）への情報提供に関する協定書	大阪府健康医療部 部長	H26.5.1	救急搬送に関する情報の大阪府救急医療情報システム（ORION）への提供
・救急車同乗実習に関する協定	社会医療法人純幸会関西メディカル病院	R3.7.1	救急車同乗実習の実施
・豊中市・吹田市・池田市・箕面市における救急車同乗実習に関する協定	豊中市・吹田市・池田市・箕面市	R5.4.1	4 市消防本部間の救急車同乗実習の実施
・救急車同乗実習に関する協定	社会福祉法人恩賜財団 済生会千里病院	R6.1.1	救急車同乗実習の実施
（大規模災害関係）			
・緊急消防援助隊	全国消防本部	H7.8.18	日本国内における大規模災害の発生に際し、災害が発生した市町村の属する都道府県内の消防力では対処できない場合に実施する消防の相互応援
（予防関係）			
・保安 3 法事務連携機構おおさかの設立に関する協定	府下消防本部	H24.3.22 (R5.5.18)	保安 3 法事務に係る消防本部間の連携のあり方 R5.5.18 再締結
・大阪府建築物データベースシステムに係る能勢町の建築物データの取扱いに関する覚書	能勢町	H27.6.4	能勢町の建築物データの取扱いについて
・大阪国際空港における予防事務の取扱いに関する協定	池田市・伊丹市	R3.7.28	大阪国際空港内における予防事務
・大阪国際空港における予防事務の取扱いに関する協定に基づく覚書	池田市・伊丹市	R3.7.28	大阪国際空港内における予防事務
・大阪国際空港における予防事務処理基準	池田市・伊丹市	R3.7.28	大阪国際空港内における予防事務
（鉄道関係）			
・鉄道事故時の安全対策に関する覚書	北大阪急行電鉄株式会社	H16.2.13	鉄道災害が発生した場合の相互連絡・協力体制
・鉄道事故時の安全対策に関する申し合わせ	大阪高速鉄道株式会社	H16.3.1	鉄道災害が発生した場合の相互連絡・協力体制
（その他）			
・警察・消防相互応援協定	豊中警察署	S29.12.7	警察・消防相互応援協定
・ガス漏れ及び爆発事故等の防災対策に関する申し合わせ	大阪瓦斯株式会社淀川支社	S56.7.28	ガス漏れ及び爆発事故等の防止及び被害の軽減を図るための相互連絡・協力体制
・大阪府下自動車電話・携帯電話からの 119 番通報に関する申し合わせ	大阪府下消防本部	H9.11.20	自動車電話・携帯電話からの 119 番通報の受入れ
・能勢町と豊中市との間における消防事務の委託に関する協定	能勢町	H27.4.1 (R7.12.23)	消防事務の委託
・多言語コールセンターサービス覚書	日本電気株式会社	H27.4.1	119 番通報時の通訳業務などによる多言語サービス
・災害時等の無人航空機支援協力に関する協定	株式会社ふるさと創生研究開発機構	R2.10.1 (R7.7.1)	災害において、無人航空機を円滑に運用するための支援協力
・遭難 ZERO 協定	株式会社ヤマップ	R4.6.13	山岳での捜索、救助において相互連携を図る協定

・火災調査業務の相互応援に係る申し合わせ	池田市・箕面市	R6.8.1	豊中市、池田市及び箕面市における火災調査業務の相互応援
・空港消防隊員派遣研修に関する協定	関西エアポートオペレーションサービス株式会社	R7.11.18	空港消防隊員の派遣研修に関する協定

災 害 の 概 況

❖ 火災

令和 7 年（2025 年）中の火災件数は、69 件で、5.3 日に 1 件の割合で火災が発生したことになります。豊中市は 59 件で前年に比べ 2 件（3.3%）減少し、11 年連続で 100 件を下回り、能勢町は 10 件で前年に比べ 5 件（33.3%）減少しました。火災による死者は、豊中市は、2 人で前年に比べ 1 人減少しました。能勢町は、死者 0 人で前年と同数でした。

火災概況

（令和 7 年中）

区 分		令和 7 年			令和 6 年			増減数 (A)－(B)	増減率 (%)	
		(A)	豊中市	能勢町	(B)	豊中市	能勢町			
火災件数（件）		69	59	10	76	61	15	-7	-9.2	
	建 物	43	42	1	39	36	3	4	10.3	
	林 野	1		1				1		
	車 両	1	1		7	7		-6	-85.7%	
	船 舶									
	航空機									
	その他	24	16	8	30	18	12	-6	-20.0%	
焼損棟数 ※1（棟）		53	50	3	50	41	9	3	6.0%	
	全 焼	5	4	1	6	2	4	-1	-16.7%	
	半 焼	4	4		1		1	3	300.0%	
	部分焼	9	9		12	10	2	-3	-25.0%	
	ぼ や	35	33	2	31	29	2	4	12.9%	
建物焼損床面積（㎡）		754	726	28	915	147	768	-161	-17.6%	
建物焼損表面積(㎡)		80	80		59	50	9	21	35.6%	
林野焼損面積(a)					333		333	-333	-100.0%	
死 者（人）		2	2		3	3		-1	-33.3%	
負傷者（人）		15	14	1	20	18	2	-5	-25.0%	
り災世帯（世帯）		59	58	1	38	35	3	21	55.3%	
	全 損	10	10		5	4	1	5	100.0%	
	半 損	7	7		2	1	1	5	250.0%	
	小 損	42	41	1	31	30	1	11	35.5%	
り災人員（人）		113	111	2	69	64	5	44	63.8%	
損害額 ※2（千円）		78,254	75,843	2,411	55,706	38,074	17,632	22,548	40.5%	
	建 物	建 物	67,204	66,429	775	43,300	31,995	11,305	23,904	55.2%
		収容物	10,880	9,305	1,575	9,803	3,508	6,295	1,077	11.0%
	林 野									
	車 両		46	46		2,556	2,556		-2,510	-98.2%
	船 舶									
	航空機									
	その他		124	63	61	47	15	32	77	163.8%
	爆 発									

※1 焼損棟数は、火元建物のほか類焼建物も含む。
※2 損害額は、令和 8 年 1 月末日現在の推定額。



月別の火災件数

令和 7 年（2025 年）中の火災件数を月別にみると、豊中市で 4 月、5 月が多くなっています。

（令和 7 年中）

月別	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
豊中市	4 件	7 件	6 件	9 件	9 件	5 件	4 件	3 件	5 件	3 件	2 件	2 件
能勢町	3 件	1 件	1 件	1 件		1 件	1 件	1 件			1 件	

時間帯別の火災件数

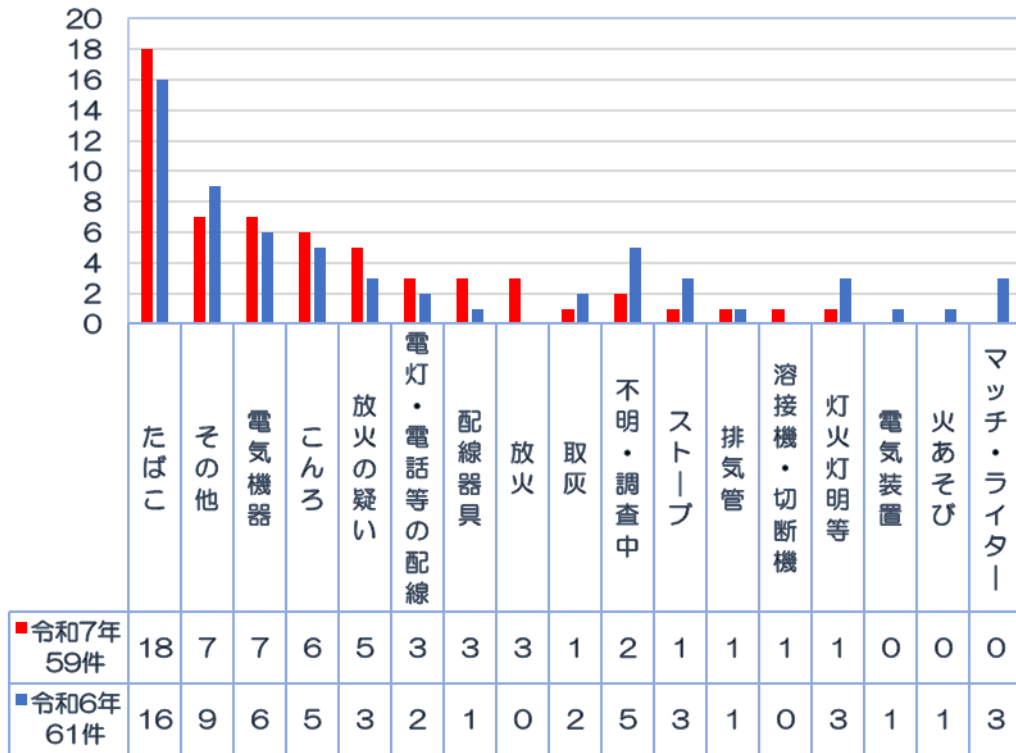
令和 7 年（2025 年）中の火災件数を時間帯別にみると、豊中市で 16 時～17 時、19 時～20 時の時間帯が多くなっています。

（令和 7 年中）

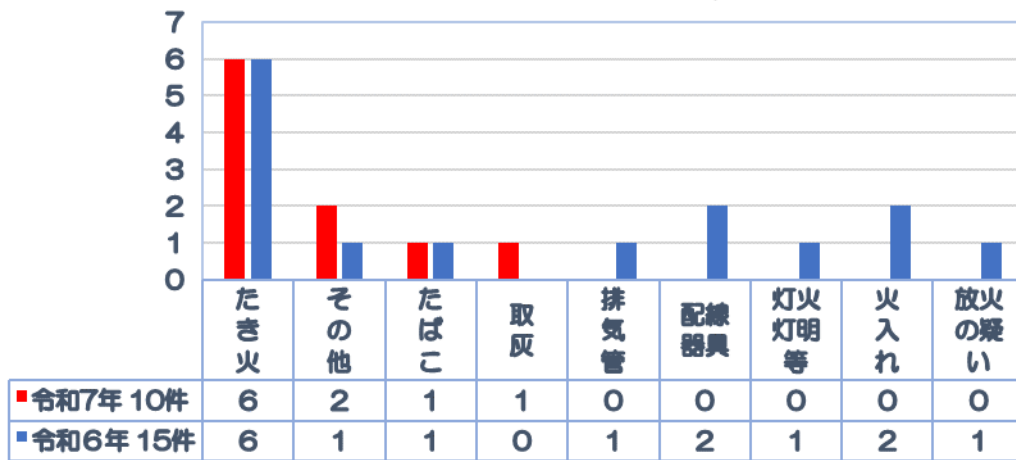
時間帯	0～1	1～2	2～3	3～4	4～5	5～6	6～7	7～8	8～9	9～10	10～11	11～12
豊中市	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件	1 件	2 件		5 件	2 件	3 件	2 件
能勢町												
時間帯	12～13	13～14	14～15	15～16	16～17	17～18	18～19	19～20	20～21	21～22	22～23	23～24
豊中市	4 件	2 件	3 件	3 件	7 件	2 件	2 件	6 件	2 件		4 件	2 件
能勢町		1 件	6 件	1 件			1 件	1 件				

時間帯不明：豊中市 2 件

豊中市 出火原因別の火災件数



能勢町 出火原因別の火災件数



建物火災の原因調査

指揮調査隊

「指揮調査隊」は災害現場での指揮業務と火災等の原因及び損害調査業務を行い、指揮体制を強化することを目的として、平成 31 年 4 月 1 日に発隊されました。

21 名の隊員で編成され、指揮隊長、指揮副隊長を配置し、統率のとれた現場指揮体制を確立します。

指揮調査隊は警防活動にあたるあらゆる隊への指導的立場として、訓練や教養を積極的に企画立案し、人材育成を行うとともに、災害活動時の連携を強化することにより、災害対応力の更なる向上を図ります。



指揮調査隊



指揮調査隊ワッペン

特別消火隊「FAST（ファスト）」

特別消火隊は、北消防署に配置され、「消火に関する特別な隊」という意味と、迅速な消火を意味するスピード感から、「FAST（ファスト：Fire Attack Special Team）」の愛称が付けられています。

特別消火隊は、火災現場活動に関する高度な知識と技術を兼ね備えた 12 名の隊員で編成されており、高度な消火技術の維持、向上に努め、他の消火隊の指導的立場の隊として消火体制の充実強化を行います。

また、時代に即した消火戦術の研究に努め、新型資機材の検証も随時行います。



特別消火隊「FAST」



特別消火隊「FAST」エンブレム

❖ 救急

令和 7 年中の救急件数は 27,777 件で、搬送人員は 24,783 人でした。豊中市は、救急件数が 27,050 件、搬送人員が 24,098 人、能勢町は、救急件数が 727 件、搬送人員が 685 人で前年に比べ救急出場件数が合わせて 696 件減少、搬送人員は合わせて 669 人減少しました。

救急概況

(令和 7 年中)

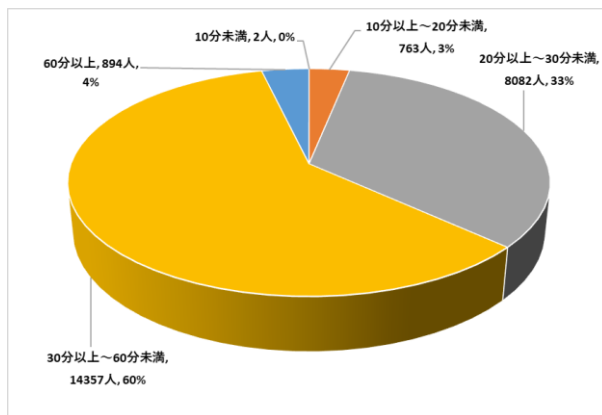
区 分		令和 7 年			令和 6 年			増減数 (A)－(B)	増減率 (%)
		(A)	豊中市	能勢町	(B)	豊中市	能勢町		
救急件数 (件)		27,777	27,050	727	28,473	27,794	679	▲696	▲2.4
	火災	56	54	2	59	57	2	▲3	▲5.1
	自然災害	0	0	0	2	2	0	▲2	▲100.0
	水難	3	3	0	2	2	0	1	50.0
	交通	1,390	1,346	44	1,434	1,387	47	▲44	▲3.1
	労働災害	159	155	4	173	170	3	▲14	▲8.1
	運動競技	120	116	4	125	121	4	▲5	▲4.0
	一般負傷	4,815	4,646	169	5,023	4,891	132	▲208	▲4.1
	加害	113	111	2	89	88	1	24	27.0
	自損行為	217	211	6	189	176	13	28	14.8
	急病	19,019	18,562	457	19,589	19,162	427	▲570	▲2.9
	転院	1,753	1,716	37	1,714	1,665	49	39	2.3
その他	132	130	2	74	73	1	58	78.4	
事故種別搬送人員 (人)		24,783	24,098	685	25,452	24,817	635	▲669	▲2.6
事故種別	火災	16	15	1	20	19	1	▲4	▲20.0
	自然災害	0	0	0	2	2	0	▲2	▲100.0
	水難	2	2	0	0	0	0	2	－
	交通	1,259	1,216	43	1,297	1,247	50	▲38	▲2.9
	労働災害	155	151	4	170	167	3	▲15	▲8.8
	運動競技	118	115	3	124	120	4	▲6	▲4.8
	一般負傷	4,383	4,218	165	4,502	4,373	129	▲119	▲2.6
	加害	78	76	2	70	69	1	8	11.4
	自損行為	152	148	4	128	120	8	24	18.8
	急病	16,874	16,447	427	17,428	17,038	390	▲554	▲3.2
	転院	1,742	1,706	36	1,710	1,661	49	32	1.9
	その他	4	4	0	1	1	0	3	300.0
年齢区分※	新生児	13	13	0	17	17	0	▲4	▲23.5
	乳幼児	1,262	1,252	10	1,462	1,447	15	▲200	▲13.7
	少年	915	898	17	1,041	1,024	17	▲126	▲12.1
	成人	6,865	6,691	174	6,813	6,656	157	52	0.8
	高齢者	15,728	15,244	484	16,119	15,673	446	▲391	▲2.4
傷病程度	死亡	194	184	10	201	195	6	▲7	▲3.5
	重症	324	289	35	272	247	25	52	19.1
	中等症	8,732	8,458	274	9,178	8,894	284	▲446	▲4.9
	軽症	15,533	15,167	366	15,801	15,481	320	▲268	▲1.7

※ 新生児とは生後 2 8 日未満の者 乳幼児とは生後 2 8 日以上満 7 歳未満の者 少年とは満 7 歳以上満 1 8 歳未満の者 成人とは満 1 8 歳以上満 6 5 歳未満の者 高齢者とは満 6 5 歳以上の者

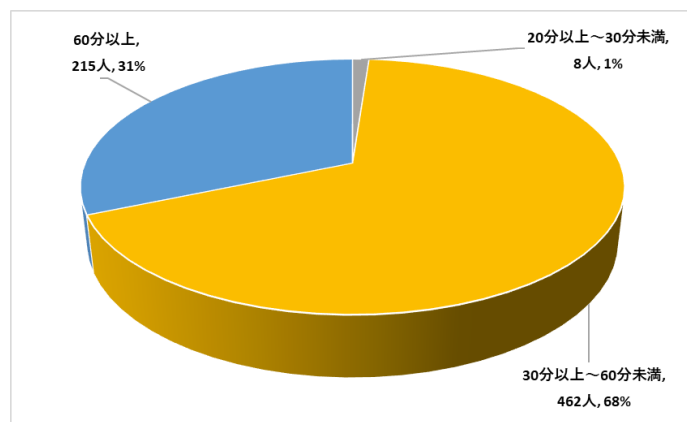
病院収容所要時間別搬送人員

(令和 7 年中)

豊中市



能勢町



救急救命士の活動状況

令和 7 年 4 月 1 日時点の救急救命士の数は 144 人で、令和 7 年中、救急救命士が取り扱った心肺停止状態（CPA）の傷病者は 368 人となっています。

救急救命士が実施した救急救命処置は、除細動の実施が 37 人、静脈路確保のための輸液が 276 人、器具を用いた気道確保が 278 人（気管挿管 173 人、気管挿管以外 105 人）、薬剤投与が 119 人となっています。

脈拍又は呼吸が再開した人は 61 人で、このうち、生存退院した人は 12 人となっています。

区分 年	救急 件数	心肺停止 状態の 傷病者数	救急救命処置実施状況					結果	
			除細動	輸液	器具を用いた気道確保		薬剤 投与	心拍が 再開 した者	うち生 存退院
					気管 挿管	気管挿 管以外			
令和 7 年	27,777	368	37	276	173	105	119	61	12
令和 6 年	28,473	361	40	265	179	101	124	61	13
令和 5 年	27,810	429	51	307	217	106	136	77	18
令和 4 年	26,847	396	41	280	185	113	110	59	14
令和 3 年	22,509	383	34	269	160	128	129	75	18

豊中市内救急告示医療機関

(令和 7 年 4 月現在)

番号	医療機関名	所在地	電話番号	救急診療科目
1	小西病院	曾根東町 2-9-14	06-6862-1701	外科
2	さわ病院	城山町 1-9-1	06-6865-1211	精神科（輪番制）
3	関西メディカル病院	新千里西町 1-1-7-2	06-6836-1199	内科、外科、整形外科
4	市立豊中病院	柴原町 4-14-1	06-6843-0101	内科、外科、小児科 （小児科は輪番制）
5	上田病院	稲津町 1-7-1	06-6151-3650	外科
6	大阪脳神経外科病院	庄内宝町 2-6-23	06-6333-0080	脳神経外科
7	小曾根病院	豊南町東 2-6-4	06-6332-0135	精神科（輪番制）
8	豊中若葉会病院	東豊中町 5-13-18	06-6856-9550	内科、整形外科
9	豊中敬仁会病院	少路 1-8-12	06-6853-1700	消化器内科、消化器外科
10	千里山病院	東寺内町 5-25	06-6385-2395	内科
11	大阪刀根山医療センター	刀根山 5-1-1	06-6853-2001	呼吸器外科

救急の高度化

世界最高の救命力を目指して救急業務の高度化を推進し、救急救命士に対する医師の指示体制、救急救命士を含む救急隊員に対する指導・助言体制の充実強化を図っています。

また、救急活動の医学的観点からの事後検証体制及び救急救命士が行う処置拡大等に迅速に対応できるよう、救急隊員の教育、訓練により、救急の高度化を推進しています。

令和 7 年 11 月には、最良の救急医療を提供するため、各救急隊の救急技術等の習熟度を発表し評価を受けることにより、隊員間の連携活動及び救命技術の向上を図ることを目的に「プレホスピタル・セミナー練成会」を行いました。



プレホスピタル・セミナー練成会の模様



救急隊への指導救命士研修

指導救命士

指導救命士は、消防における救急業務全般の質の向上を目的として、救急業務に携わる消防職員の教育指導を地域メディカルコントロールの医師の協力を得て実施します。また、指導救命士自らも病院前医療に必要な医学的な知識と技能の維持向上に努め、人命に携わる者として資質の向上を図っています。

❖ 救助

令和 7 年における救助出場件数は 585 件、救助活動件数は 396 件、救助人員は 222 人でした。豊中市は救助出場件数が 571 件で前年に比べ 59 件の増加、救助活動件数が 384 件で同 50 件の増加、救助人員は 215 人で同 30 人の増加となりました。能勢町は、救助出場件数が 14 件、救助活動件数が 12 件、救助人員は 7 人でした。

救助概況

(令和 7 年中)

区 分	令和 7 年			令和 6 年			増減数 (A)－(B)
	(A)	豊中市	能勢町	(B)	豊中市	能勢町	
出場件数 (件)	585	571	14	523	512	11	62
火 災	27	26	1	23	22	1	4
交通事故	34	32	2	29	23	6	5
水難事故	1	1		1	1		0
風水害等自然災害事故							
機械による事故	4	3	1	5	4	1	▲1
建物等による事故	264	262	2	244	243	1	20
ガス及び酸欠事故	1	1					1
破裂事故							
その他の事故	254	246	8	221	219	2	33
活動件数 (件)	396	384	12	342	334	8	54
火 災	12	11	1	8	8		4
交通事故	20	18	2	19	13	6	1
水難事故	1	1					1
風水害等自然災害事故							
機械による事故	3	2	1	4	4		▲1
建物等による事故	255	253	2	228	227	1	27
ガス及び酸欠事故	1	1					1
破裂事故							
その他の事故	104	98	6	83	82	1	21
被救助者 (人)	222	215	7	197	185	12	25
火 災	4	4		6	6		▲2
交通事故	24	22	2	24	12	10	0
水難事故	1	1					1
風水害等自然災害事故							
機械による事故	3	2	1	2	2		1
建物等による事故	161	159	2	145	144	1	16
ガス及び酸欠事故	1	1					1
破裂事故							
その他の事故	28	26	2	20	19	1	8

救助訓練

複雑多様化する各種災害に対応した人命救助を行うため、救助隊は、日頃から様々な災害を想定した救助訓練を高度救助隊を中心に行っています。北消防署能勢町分署では、山や崖などの急傾斜地における事故に備え、山岳救助訓練等を行い、救助技術の向上を図っています。



山岳救助訓練



土砂埋没救出訓練

救助隊員の訓練実施状況

(令和7年中)

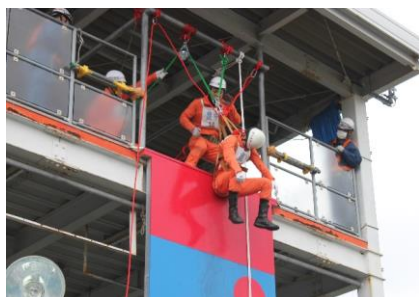
区分 訓練種別	実施延回数 (回)	実施延人数 (人)	1回当たり 参加人員 (人)	実施延時間 (時間)	1回当たり 実施時間 (時間)
体力錬成	1,307	5,342	4.1	1,245	1.0
ロープ基本・応用訓練	542	2,213	4.1	861	1.6
検索・救助訓練	366	1,501	4.1	626	1.7
救助器具取扱訓練	675	2,754	4.1	1,174	1.7
救助事象想定訓練	337	1,384	4.1	598	1.8
その他の訓練	1,249	5,127	4.1	1,897	1.5
計	4,476	18,321		6,401	



交通救助救出訓練



ロープレスキュー訓練



引揚救助訓練



障害突破訓練



ほふく救出訓練

高度救助隊「HEART（ハート）」

高度救助隊は北消防署に配置され、市内の火災や交通事故等の災害に出場するとともに、放射線、生物・化学物質によるNBC災害にも対応します。

隊の愛称は「HEAVY RESCUE TEAM（ヘビー・レスキュー・チーム）、略称「HEART（ハート）」です。「ヘビー・レスキュー・チーム」は、救助隊の能力の国際格付けがライト・ミディアム・ヘビーとなっていることから、重度の災害に対応できる装備と能力を備えた救助隊を表し、略称「ハート」には、救い出す「生命（いのち）」、人命救助にかける「熱いハート」の意味が込められています。



高度救助隊「HEART」



高度救助隊「HEART」エンブレム

国際消防救助隊（IRT）“愛ある手”

消防局では、平成 13 年 4 月 1 日から国際消防救助隊（略称“IRT - JF” 愛称“愛ある手”）に救助隊員 6 名を登録しており、消防庁長官の要請があれば直ちに海外の被災国に派遣し、救助活動を展開します。



国際消防救助隊登録隊員



IRT-JF エンブレム

メキシコ地震に対する国際消防救助隊（IRT-JF）への隊員派遣

平成 29 年 9 月 20 日 3 時 14 分頃（日本時間）に発生したメキシコ地震災害に対して、日本政府が派遣した国際緊急援助隊・救助チーム（総員 72 名）の一員として、本市消防局は国際消防救助隊（IRT-JF）に登録している救助隊員 1 名を派遣しました。メキシコに派遣された国際消防救助隊は東京消防庁のほか 7 消防本部の救助隊員 17 名で構

成され、9月21日（日本時間）に出発し、現地に到着した後、直ちに活動を始め、同月26日に活動を終了するまで、首都メキシコシティー中心部の被災地3箇所において、検索・救助活動を実施しました。



メキシコ地震における国際緊急援助隊の活動

災害を未然に防ぐ

❖ 火災予防思想の普及

普及啓発

火災予防運動での各種イベントをはじめ、幼年消防クラブ、小・中学生を対象とした防火作品の募集等を実施し、火災予防の普及啓発、防火意識の高揚に努めています。

(令和7年度)

種 別	回数	摘 要
文化財防火デー	1	1月26日
春の火災予防運動	1	3月1日～3月7日
車両火災予防運動	1	3月1日～3月7日（春の火災予防運動期間中）
危険物安全月間	1	6月1日～6月30日（危険物安全週間を含む）
秋の火災予防運動	1	11月9日～11月15日
歳末火災予防運動	1	12月20日～12月31日
防火作品	1	応募数 幼年図画 262点、小・中学生図画 777点、 小・中学生習字 2,131点 合計 3,170点
印刷物等	随時	火災予防普及啓発用資材として、チラシ、ポスター等を作成し、 事業所、自治会に配布
防火広報	随時	春、秋、歳末火災予防運動期間中や気象状況等に応じて適宜車 両等で実施
住宅用火災警報器 設置対策広報	随時	チラシ、ケーブルテレビ、消防訓練、各種行事において実施

❖ 防火管理制度

防火管理者は、不特定多数の人（映画館、百貨店、ホテル等で収容人員が30人以上《ただし、自力避難困難者が入所する施設は10人以上》）又は、多数の人（学校、銀行、市役所等で収容人員が50人以上）が出入し、勤務し、居住する建造物に必要であり、消防計画の作成及び計画に基づく消火、通報及び避難訓練の実施、消防用設備等の点検整備、火気の使用又は取扱いに関する監督等、防火管理上必要な業務を行います。

防火管理者は、消防機関等の行う防火管理講習を受講すること等により資格が付与されます。

令和8年4月1日現在の豊中市の要防火管理者対象物数は2,829件、能勢町の要防火管理者対象物数は78件となっています。

❖ 防火対象物

令和 8 年 4 月 1 日現在の豊中市の防火対象物〔棟単位で延面積 150 m²以上のもの。
ただし、（16 の 2）, （17）, （18）項は除く。〕は 11,389 件、能勢町の防火対象物
は 296 件となっています。

（令和 8 年 4 月 1 日現在）

用 途		防火対象物の種類	防火対象物数	
			豊中市	能勢町
（一）項	イ ロ	劇場、映画館、演芸場又は観覧場 公会堂、集会場	3 119	0 9
（二）項	イ ロ ハ ニ	キャバレー、カフェ、ナイトクラブその他これらに類するもの 遊技場又はダンスホール 性風俗関連特殊営業を営む店舗その他これに類するもの カラオケボックス、個室形態の業務を営む店舗で総務省令で定 めるもの	0 10 0 1	0 0 0 0
（三）項	イ ロ	待合、料理店その他これらに類するもの 飲食店	0 91	0 11
（四）項		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗又は展示場	258	12
（五）項	イ ロ	旅館、ホテル又は宿泊所その他これらに類するもの 寄宿舎、下宿又は共同住宅	21 5,613	10 9
（六）項	イ ロ ハ ニ	病院、診療所又は助産所 自力避難困難者が入所している社会福祉施設等 （六）項ロを除く社会福祉施設等 幼稚園、又は特別支援学校	105 155 169 45	4 9 9 2
（七）項		小学校、中学校、高等学校、大学、各種学校その他これらに類 するもの	301	9
（八）項		図書館、博物館、美術館その他これらに類するもの	5	1
（九）項	イ ロ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場その他これらに類するも の イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	0 5	0 0
（十）項		車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場	10	0
（十一）項		神社、寺院、教会その他これらに類するもの	111	35
（十二）項	イ ロ	工場又は作業場 映画スタジオ又はテレビスタジオ	911 0	50 0
（十三）項	イ ロ	自動車車庫又は駐車場 飛行機又は回転翼航空機の格納庫	390 0	0 0
（十四）項		倉庫	360	35
（十五）項		前各号に該当しない事業場	756	50
（十六）項	イ ロ	複合用途防火対象物のうち、一部が特定防火対象物の用途であ るもの イに掲げる複合用途防火対象物以外の複合用途防火対象物	999 923	22 17
（十六の二）項		地下街	1	0
（十七）項		重要文化財等の建造物	21	2
（十八）項		延長 50 メートル以上のアーケード	6	0
計			11,389	296

❖ 中高層対象物

令和8年4月1日現在の豊中市内の地上4階以上の中高層対象物は、3,533棟あります。
能勢町の地上4階以上の中高層対象物は、10棟あります。

(令和8年4月1日現在)

階 数 用 途		地上 4 階	地上 5 階	地上 6階	地上 7 階	地上 8 階	地上 9 階	地上 10階	地上 11階	地上 12階	地上 13階	地上 14階	地上 15階	地上 16階 以上
(一)項	イ ロ	4	2			1								
(二)項	イ ロ ハ ニ	3	1	1										
(三)項	イ ロ	1	1											
(四)項		7	1	1	1									
(五)項	イ ロ	3 (1) 554 (3)	1 630	4 309	3 191	4 119				1 32				6
(六)項	イ ロ ハ ニ	7 29 (1) 9 1	11 14 2	4 8	2	1	1							
(七)項		81	18	8	7	1								
(八)項		3												
(九)項	イ ロ													
(十)項														
(十一)項		6 (1)	1											
(十二)項	イ ロ	39	12 (1)	6 0	1									
(十三)項	イ ロ	5	3	1										
(十四)項		22	7	3										
(十五)項		82 (1)	38	14	4	3	1	4	1	1			2	
(十六)項	イ ロ	231 (1) 189	117 108 (1)	54 40	32 19	8 9	8 7	15 6	4 1	2	3	3 1	2	6
(十六の二)項														
(十七)項														
(十八)項														
計		1,276 (8)	967 (2)	453	260	146	105	106	68	36	45	33	26	12

() 内は、能勢町における数値 (内数)

❖ 建築確認等の同意

建築物の新築、増築、改築、用途変更等について、許可、認可又は確認をする建築主事に対し、消防長又は消防署長は建築物の計画が、消防関係法令や火災予防条例などの防火の規定に適合するか否かを審査し、防火上支障がなければ同意します。

(令和7年度)

申請 要 旨	同意件数	不同意件数	不同意の理由				総 計
			構 造	設 備	避 難	その他	
新 築	299 (8)						299 (8)
増 築	13 (1)						13 (1)
改 築							
移 転							
大規模 修 繕							
大規模 模様替							
用 途 変 更	2 (0)						2 (0)
そ の 他							
合 計	314 (9)						314 (9)

() 内は、能勢町における数値 (内数)

❖ 消防用設備等の審査と検査

建築物に設置が義務付けられている消防用設備等については、工事着手前にその計画が消防法令の技術基準に適合しているかどうかを審査し、工事完了後に検査を行います。

消防用設備等設置状況

(令和8年4月1日現在)

区 分	屋 内 消 火 栓 設 備	ス プ リ ン ク ラ ー 設 備 等	水 噴 霧 消 火 設 備 等	屋 外 消 火 栓 設 備	動 力 消 防 ポ プ 設 備	自 動 火 災 報 知 設 備	ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備	漏 電 火 災 警 報 器	消 防 機 関 へ 通 報 す る 火 災 報 知 設 備	非 常 警 報 設 備	避 難 器 具	誘 導 灯	消 防 用 水 備	排 煙 設 備	連 結 散 水 設 備	連 結 送 水 管	非 常 コ ン セ ン ト 設 備	無 線 通 信 補 助 設 備	計
現在数	977 (34)	367 (15)	885 (4)	66 (4)	33 (3)	5,587 (197)	79 (4)	636 (2)	466 (37)	2,264 (57)	3,229 (14)	5,620 (165)	39 (2)	42 (0)	24 (1)	945 (1)	230 (0)	3 (0)	21,492 (540)

() 内は、能勢町における数値 (内数)

❖ 危険物の規制

危険物安全対策

危険物は、その取扱い方法を誤ると大きな災害につながる恐れがあるため、危険物施設の許可や位置・構造・設備の検査のほか、危険物の性状ごとに安全な取扱いについて指導を行い、災害の発生防止に努めています。

危険物施設の現況

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

区 分	製 造 所	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タン ク 貯 蔵 所	屋 内 タン ク 貯 蔵 所	地 下 タン ク 貯 蔵 所	簡 易 タン ク 貯 蔵 所	移 動 タン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所	計
豊中市	5	61	2	12	59	0	21	1	47	4	44	256
能勢町	0	0	0	1	10	0	17	0	12	0	2	42
計	5	61	2	13	69	0	38	1	59	4	46	298

少量危険物等の貯蔵・取扱いの現況

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

区 分	少量危険物	指定可燃物	計
豊中市	440	49	489
能勢町	53	7	60
計	493	56	549



危険物施設の査察を行う消防職員

❖ 危険物保安監督者

消防法別表に定める危険物は、いずれも火災になりやすく、しかも消火が困難な物品であるため、一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う危険物施設には、危険物保安監督者、危険物取扱者を置くことが義務づけられ、危険物の取扱作業に関して保安の監督をしなければなりません。

消防法に基づく届出

(令和 7 年度)

区 分	危 険 物 保 安 監 督 者		危 険 物 取 扱 責 任 者	
	選 任	解 任	選 任	解 任
豊 中 市	33	29	25	19
能 勢 町	0	0	6	4
計	33	29	31	23

区 分	品 名 ・ 数 倍 数 変 更	譲 渡 ・ 引 渡	廃 止	関 係 者 の 氏 名 変 更	火 災 使 用 事 故	軽 微 な 変 更	管 理 権 委 託	休 止	再 使 用	災 害 発 生	取 下 書
豊中市	2	1	11	78	0	64	16	3	0	6	1
能勢町	0	3	0	2	0	3	0	0	0	0	0
計	2	4	11	80	0	67	16	3	0	6	1

仮貯蔵・仮取扱い

(令和 7 年度)

区 分	仮 貯 蔵	仮 取 扱 い	計
豊 中 市	1	3	4
能 勢 町	0	0	0

危険物施設の設置許可・完成検査等

(令和 7 年度)

区 分		許 可		完 成 検 査		タンク 検 査	仮 使 用	廃 止 転 出
製 造 所 等 の 別		設 置	変 更	設 置	変 更			
製 造 所			1(0)		2(0)		1(0)	
貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	4(0)	5(0)		5(0)		2(0)	1(0)
	屋外タンク貯蔵所							
	屋内タンク貯蔵所				1(0)			1(0)
	地下タンク貯蔵所	3(0)	4(0)	4(0)	3(0)		2(0)	4(0)
	簡易タンク貯蔵所							
	移動タンク貯蔵所		2(2)		2(2)			
	屋 外 貯 蔵 所							
取 扱 所	給 油 取 扱 所		11(1)		11(1)		11(1)	1(0)
	販 売 取 扱 所			3(0)	5(0)			
	一 般 取 扱 所	3(0)	9(0)				4(0)	4(0)
他 市 設 置 タ ン ク						71(0)		
計		10(0)	32 (3)	7(0)	29(3)	71(0)	20(1)	11(0)

() 内は、能勢町における数値 (内数)

❖ 保安 3 法の規制

保安 3 法の安全対策

消防局では、「火薬類取締法」「高圧ガス保安法」「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」（保安 3 法）に基づき、各施設の状況に応じた安全な取扱いについて指導を行い、災害の発生防止に努めています。

保安 3 法施設の現況（令和 8 年 4 月 1 日現在）

豊 中 市	241 施設
能 勢 町	32 施設
計	273 施設



高圧ガス施設

火薬類取締法施設（令和 8 年 4 月 1 日現在）

種 別	件 数
火 薬 庫	15 (15)
庫 外 貯 蔵 庫	4(1)
販 売 事 業 者	3 (0)
計	22 (16)

（ ）内は、能勢町における数値（内数）

高圧ガス保安法施設

（令和 8 年 4 月 1 日現在）

種 別	件 数
高 圧 ガ ス 製 造 者 （ 一 種 ）	6(0)
高 圧 ガ ス 製 造 者 （ 二 種 ）	32(1)
高 圧 ガ ス 製 造 者 （ 一 種 冷 凍 ）	8(0)
高 圧 ガ ス 製 造 者 （ 二 種 冷 凍 ）	51(0)
高 圧 ガ ス 貯 蔵 所 （ 一 種 ）	3(0)
高 圧 ガ ス 貯 蔵 所 （ 二 種 ）	26(3)
特 定 高 圧 ガ ス 消 費 事 業 所	6(1)
高 圧 ガ ス 販 売 事 業 者	81(3)
容 器 検 査 所	1(0)
計	214(7)

（ ）内は、能勢町における数値（内数）

液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律施設（令和 8 年 4 月 1 日現在）

液 化 石 油 ガ ス 販 売 事 業 者	10 (3)
液 化 石 油 ガ ス 保 安 機 関	10 (3)
特 定 液 化 石 油 ガ ス 設 備 工 事 事 業 者	16 (3)
液 化 石 油 ガ ス 特 定 供 給 設 備	1 (0)
計	37(9)

（ ）内は、能勢町における数値（内数）

❖ 保安３法施設の設置許可・完成検査等

消防局では、保安３法施設の設置許可、完成検査等を次の各表のとおり実施しました。

火薬類取締法

(令和７年度)

区 分	許 可	認 可	指 示	保安検査	届 出
火 薬 庫	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	75 (75)
庫 外 貯 蔵 所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
販 売 事 業 所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
譲 受 ・ 譲 渡	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
消 費 者	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	79(76)

() 内は、能勢町における数値 (内数)

高圧ガス保安法

(令和７年度)

区 分	許可(登録)	完成検査	保安検査	届 出
高圧ガス製造者 (一種)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	15 (0)
高圧ガス製造者 (二種)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)
高圧ガス製造者 (一種冷凍)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	8 (0)
高圧ガス製造者 (二種冷凍)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (0)
高圧ガス貯蔵所 (一種)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
高圧ガス貯蔵所 (二種)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (1)
特定高圧ガス消費事業者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
高 圧 ガ ス 販 売 事 業 者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	23 (1)
容 器 検 査 所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	6 (0)	2 (0)	1 (0)	77 (3)

() 内は、能勢町における数値 (内数)

液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律

(令和７年度)

区 分	認 定	認 可	完成検査	届 出
液 化 石 油 ガ ス 販 売 事 業 者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12(4)
液 化 石 油 ガ ス 保 安 機 関	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)
液 化 石 油 ガ ス 特 定 供 給 設 備	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
特定液化石油ガス設備工事事業者	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (8)

() 内は、能勢町における数値 (内数)

❖ 査察（立入検査）

消防局・消防署では、局、各署所に配置されている査察推進員を中心に、防火対象物の消防用設備等の設置及び維持管理状況、防火管理体制の状況、危険物施設や保安 3 法施設の維持管理の状況などについて査察（立入検査）を行い、火災予防上必要があると認められる場合や、火災が発生したとき人命に危険があると認められる場合には、所有者等に不備事項の是正を指導し、火災の未然防止に努めています。

防火対象物の立入検査

（令和 7 年度）

	防 火 対 象 物	検 査 延 回 数	検 査 延 人 数
豊 中 市	11,389	2,567	5,596
能 勢 町	296	91	155
合 計	11,685	2,658	5,751

危険物施設の立入検査

（令和 7 年度）

	検 査 回 数	検 査 延 人 員
豊 中 市	266	583
能 勢 町	39	90
合 計	305	673

火薬類取締法施設の立入検査

（令和 7 年度）

	検 査 回 数	検 査 延 人 員
豊 中 市	4	11
能 勢 町	15	45
合 計	19	56

高圧ガス保安法施設の立入検査

（令和 7 年度）

	検 査 回 数	検 査 延 人 員
豊 中 市	62	129
能 勢 町	8	16
合 計	70	145

液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律施設の立入検査

（令和 7 年度）

	検 査 回 数	検 査 延 人 員
豊 中 市	10	21
能 勢 町	9	22
合 計	19	43



高圧ガス施設の査察

査察推進員の配置

令和 2 年度から、消防局、3 消防署、6 出張所及び能勢町分署に計 34 名の査察推進員を配置し、査察推進体制の強化により防火対象物の防火安全の確保に努め、安心安全なまちづくりを目指しています。査察推進員は、原則として「予防技術資格者」に認定された職員により構成され、査察の中核を担うとともに、所属職員の査察技術を向上させるため、査察に関する指導助言を行います。

予防技術資格者に認定された職員には、「予防技術資格者章」のワッペンが貸与され、予防に関する専門的な知識を有することを証しています。ワッペンには、防火査察・消防用設備等・危険物の 3 つの資格区分取得数に応じて、金・銀・白の 3 種類があります。



資格者章の交付を受ける消防職員



予防技術資格者章

予防技術資格者認定職員数

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

資 格 区 分	職 員 数
防火査察	117 人
消防用設備等	22 人
危険物	11 人

❖ 火災予防条例による規制

火災予防条例の規定に基づき、火を使用する設備の位置、構造また少量危険物等の貯蔵・取り扱いの基準をはじめ、火災予防上必要な指導を行い、火災の未然防止に努めています。

火災予防条例に基づく届出等受理状況

(令和7年度)

区 分	件 数	
	豊中市	能勢町
喫煙・裸火の使用・危険物の持込み	29	2
防火対象物使用開始	331	10
炉・厨房設備・温風暖房機等設置、変更	26	1
サウナ設備設置、変更	1	1
発電・変電・蓄電池設備設置、変更	58	4
ネオン管灯設備設置、変更	0	0
水素ガスを充てんする気球の設置	0	0
催物開催	8	0
工事現場における事務所の設置	31	0
少量危険物貯蔵・取扱い、変更、廃止	42	13
指定可燃物貯蔵・取扱い、変更、廃止	0	0
少量危険物等タンク水張等検査	0	0
露店等の開設	170	1
指定洞道	0	0
計	696	32

❖ 消防訓練指導状況

消防法では、一定規模以上の防火対象物の管理について権限を有する者は、防火管理者を定め、消防計画を作成し、当該消防計画に基づく消火、通報及び避難訓練を行うことが定められています。

火災等の災害に的確に対応するため、防火管理者とともに消火や避難等の訓練を行っています。

(令和7年度)

区 分	消 火 訓 練	避 難 訓 練	通 報 訓 練	総 合 訓 練	計
訓 練 回 数	412 (9)	554 (17)	130 (4)	1,657 (63)	2,753 (93)
参 加 人 員	13,948 (242)	36,574 (775)	6,923 (239)	60,505 (1,825)	117,950 (3,081)
指 導 消 防 職 員 数	32 (6)	28 (0)	21 (0)	227 (30)	308 (36)

() 内は、能勢町における数値 (内数)

❖ 幼児や児童に対する防火・防災教育

消防局では、幼児や児童に対し、火災や地震の怖さの理解、災害時の身の安全の確保、初期消火や応急救護など、年齢に応じた防火・防災意識の普及啓発を行っています。

幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼稚園・こども園ごとに組織され、令和8年4月1日現在、39クラブ、5,546名の園児が、各種行事等を通して防火・防災についての大切さを学んでいます。

幼年消防クラブでは、次代を担う健全な子どもを通じて、火災予防思想の普及高揚を図るため、消防知識の習得、施設見学などの活動を自主的に行っています。

消防署では、資料の提供、指導者の育成など側面から指導助言をしています。

幼年消防クラブの現況

(令和8年4月1日現在)

	ク ラ ブ 名	ク ラ ブ 員 数	結 成 年 月 日
1	熊野田幼稚園ぞうさん消防クラブ	231	S59. 5. 15
2	東邦幼稚園幼年消防クラブ	128	S61. 6. 19
3	豊中愛光幼稚園消防クラブ	68	S62. 5. 26
4	くりのみ幼稚園幼年消防クラブ	209	S62. 7. 8
5	庄内こどもの社幼稚園幼年消防クラブ	163	S63. 5. 19
6	豊中稲荷学園宮山幼稚園幼年消防クラブ	195	S63. 5. 29
7	ほうなん子ども園ファイヤーキッズ幼年消防クラブ	64	H元. 5. 31
8	緑ヶ丘幼稚園幼年消防クラブ	145	H元. 6. 23
9	あけぼの幼年消防クラブ	250	H2. 6. 14
10	超光寺幼稚園幼年消防クラブ	35	H3. 5. 17
11	ラ・サンテ幼稚園幼年消防クラブ	66	H3. 5. 29
12	おぞね幼稚園幼年消防クラブ	114	H4. 6. 1
13	蛍池文化幼稚園消防クラブ	164	H4. 6. 16
14	服部幼稚園ぞうさん幼年消防クラブ	156	H5. 5. 28
15	仏光幼稚園幼年消防クラブ	63	H5. 6. 28
16	こうづしま幼稚園幼年消防クラブ	151	H6. 5. 31
17	春日荘聖マリア幼稚園消防クラブ	50	H6. 6. 14
18	東豊中幼稚園消防クラブ	262	H7. 5. 19
19	ほづみあそびまなびの森ファイヤークラブ	95	H7. 6. 2
20	とよなか文化幼稚園幼年消防クラブ	168	H8. 5. 14
21	おんがくようちえんしょうぼうクラブ	167	H8. 5. 23
22	豊中みどりようちえん幼年しょうぼうクラブ	167	H9. 5. 22
23	庄本幼稚園ドリームキッズ幼年消防クラブ	56	H9. 6. 24
24	とねやまようねんしょうぼうクラブ	80	H10. 5. 22

25	し ん ど う 幼 年 消 防 ク ラ ブ	245	H10. 6. 2
26	ア ソ カ ・ フ ァ イ ヤ ー キ ッ ズ ク ラ ブ	63	H11. 5. 17
27	て し ま こ ど も 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ	80	H11. 6. 11
28	し ん で ん 幼 年 消 防 ク ラ ブ	130	H12. 5. 26
29	せ ん り ひ じ り 幼 年 消 防 ク ラ ブ	389	H12. 6. 22
30	箕 面 自 由 学 園 幼 稚 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ	210	H13. 6. 8
31	服 部 み ど り 幼 稚 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ	152	H13. 6. 14
32	の ば た け こ ど も 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ	103	H14. 6. 13
33	て ら う ち こ ど も 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ	79	H14. 6. 13
34	ゆ た か こ ど も 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ	160	H14. 6. 13
35	豊 中 幼 稚 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ	83	H15. 5. 22
36	曾 根 幼 稚 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ	55	H15. 6. 3
37	梅 花 幼 稚 園 小 梅 組 幼 年 消 防 ク ラ ブ	84	H20. 6. 3
38	追 手 門 学 院 幼 稚 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ 「 フ ォ ー 」	287	H20. 6. 20
39	み く ま 幼 稚 園 幼 年 消 防 ク ラ ブ	179	H22. 6. 21
	合 計	5,546	



園児への防火・防災教育の模様

少年消防クラブ

地域防災の担い手を育成する目的で、「豊中児童消防クラブ(通称 マチカネ消防隊)」を令和6年度に試行的に発隊しました。市内全域の小学生(4年生から6年生)を対象としており、1年を通して消火・救助・救急訓練をはじめとした防火防災活動を実施しています。令和6年度に定員を大きく上回る応募があったことから、令和7年度は定員を100名に拡大して「豊中市少年消防クラブ」として正式に発隊させ、99名の小学生が隊員として登録しました。隊員は「自分の命は自分で守る」をモットーに、年間6回の防火防災活動を行いました。



マチカネ消防隊の訓練の様様



マチカネ消防隊卒隊式の様様

❖ 地域防災力の育成

女性防火クラブ

我が家の防火管理者・我が家の救急救命士を目標に組織され、令和8年4月1日現在、24クラブ1,970名のクラブ員が防火に関する知識や技術の習得・応急手当の訓練など、それぞれの家庭・地域で活発な活動を行っています。



令和8年2月19日には、20名の女性防火クラブ員が、京都市市民防災センターにおいて、地域ぐるみの自主防災体制構築を学ぶため、合同研修会を実施しました。センター内の、先進シミュレーションマシンから多彩な体験室をはじめ、充実の施設とプログラムによる疑似体験などを通し、防災に関する知識の習得や災害発生時の備えの重要性を確認できました。

女性防火クラブの現況

(令和8年4月1日現在)

	ク	ラ	ブ	名	ク	ラ	ブ	員	数	結	成	年	月	日
1	熊	野	田	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ		
									72	H	5.	4.	8	
2	箕	輪	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									247	H	5.	4.	8	
3	庄	内	地	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									113	H	5.	4.	8	
4	庄	内	南	地	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ		
									174	H	5.	4.	8	
5	南	桜	塚	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ		
									138	H	6.	4.	14	
6	千	成	地	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									137	H	6.	4.	14	
7	豊	島	地	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									75	H	6.	4.	14	
8	桜	塚	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									31	H	7.	7.	7	
9	東	豊	台	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ		
									40	H	7.	7.	7	
10	小	曾	根	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ		
									149	H	7.	7.	7	
11	庄	内	西	地	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ		
									233	H	8.	7.	7	
12	上	野	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									80	H	9.	5.	28	
13	豊	島	西	女	性	防	火	ク	ラ	ブ				
									80	H	9.	7.	6	
14	豊	南	女	性	防	火	ク	ラ	ブ					
									33	H	10.	2.	1	
15	桜	井	谷	女	性	防	火	ク	ラ	ブ				
									156	H	11.	10.	18	
16	南	町	女	性	防	火	ク	ラ	ブ					
									34	H	13.	9.	2	
17	大	池	女	性	防	火	ク	ラ	ブ					
									26	H	14.	11.	1	
18	上	新	田	女	性	防	火	ク	ラ	ブ				
									48	H	20.	4.	29	
19	克	明	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									23	H	21.	11.	15	
20	野	田	地	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									27	H	22.	7.	24	
21	蛭	池	女	性	防	火	ク	ラ	ブ					
									10	H	25.	4.	24	
22	北	丘	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									18	H	25.	5.	18	
23	西	丘	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ			
									9	H	26.	3.	28	
24	東	泉	丘	校	区	女	性	防	火	ク	ラ	ブ		
									17	H	27.	11.	29	
	計								1,970					

※ 9クラブ休会（刀根山校区、寺内校区、豊島北、中豊島校区、若北、北緑丘校区、緑地校区、原田校区、野畑）

主な活動実績

(令和7年度)

実 施 年 月 日	活 動 内 容
令和7年4月24日～5月8日	住宅用火災警報器設置状況調査
令和8年1月12日	令和8年消防出初式へ参加
令和8年1月17日	全市一斉訓練へ参加
令和8年2月19日	合同研修会（京都市市民防災センター）

自主防災組織の訓練

地震や風水害等、防災関係機関の対応力を上まわる大規模な災害が発生した時には、地域住民による初期消火や救出救護活動が不可欠です。地域防災力の向上のため、定期的に自主防災組織とともに消防防災訓練を実施しています。令和8年4月1日現在、市内で169組織が活動を行っています。



自主防災組織の訓練実施状況

(令和 7 年度)

訓練実施組織数	参加人員数	指導職員数
98 組織	6,642 名	682 名



合同防災訓練の様様



防災アドバイザーを招いて合同研修会

消防防災協力事業所登録制度

消防防災協力事業所登録制度とは、地震などの大規模災害発生時において、消防力では対応できない場合に、事業所の自主的な判断により保有する人員・資機材等を活用して人命救助活動や消火活動に協力していただくことを目的としています。令和 8 年 4 月 1 日現在、市内 292 の事業所が登録されています。

消防防災協力事業所登録状況

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

事業所	人員
292 事業所	9,090 名

消防防災協力事業所等訓練指導状況

(令和 7 年度)

参加事業所数	参加人員
214 事業所	767 名



消防防災協力事業所
登録証・表示マーク

❖ 消防音楽隊

豊中市消防音楽隊は、昭和 52 年（1977 年）4 月、豊中中央ライオンズクラブから寄贈を受けた楽器及び制服一式をもとに発足しました。

音楽隊員は、令和 8 年 4 月 1 日現在、火災や救急などの災害に対応する交替制勤務の職員や、予防などの事務に携わる毎日勤務の職員計 17 名と、自分の職業を持ちながらも、郷土愛護と奉仕の精神のもと、「地域の安全は自分たちで守る」を合言葉に集まった消防団員 14 名の合計 31 名で構成されています。

沿 革

昭和 50 年 4 月 1 日	「豊消音楽クラブ」発足（クラブ員 22 名）
昭和 51 年 5 月	豊中中央ライオンズクラブから楽器一式寄贈
昭和 52 年 4 月 1 日	「豊中市消防音楽隊」と改称 「豊中市消防音楽隊設置規程」を公布 北消防署の所管・全隊員を桜井谷出張所に配置 初代隊長 中津勝美就任（隊員 21 名）
昭和 52 年 7 月 25 日	常任講師 岨秀樹氏委嘱
昭和 54 年 3 月 11 日	「豊中市消防の歌」を発表
昭和 58 年 10 月 20 日	第 2 代隊長 明原茂雄就任（隊員 26 名）
平成 3 年 4 月 1 日	常任講師 井町昭氏委嘱
平成 5 年 3 月 5 日	楽器搬送車導入
平成 5 年 4 月 1 日	隊員を蛍池・東泉丘の 2 出張所両部に配置 常任講師 守山俊吾氏委嘱
平成 6 年 3 月 19 日	第 1 回全国消防音楽隊マーチング・フェスティバル（京都市）に参加
平成 9 年 4 月 1 日	第 3 代隊長 脇康清就任（隊員 28 名）
平成 10 年 2 月 21 日	20 周年記念演奏会開催（アクア文化ホール）
平成 10 年 7 月 1 日	女性消防団員（10 名）音楽隊活動に参加
平成 10 年 7 月 3 日	豊中市消防音楽隊設置規程を改正（消防本部に設置・消防団員を任命）
平成 12 年 8 月 1 日	豊中市消防音楽隊出演要綱を施行
平成 13 年 4 月 1 日	第 4 代隊長 辻幸雄就任（職員 21 名・団員 7 名） 三交替制勤務施行により隊員(職員)を全署所(第 1 部)に配置
平成 15 年 4 月 1 日	第 5 代隊長 小山泰正就任（職員 19 名・団員 13 名）
平成 15 年 6 月 7 日	第 1 回ウィークエンド・ミニコンサート開催（服部緑地）
平成 16 年 4 月 1 日	第 6 代隊長 阿草一郎就任（職員 22 名・団員 12 名）
平成 17 年 4 月 1 日	第 7 代隊長 菅野喜三郎就任（職員 19 名・団員 12 名）
平成 18 年 2 月 12 日	北摂 4 市消防音楽隊合同演奏会開催（豊中市民会館大ホール）
平成 18 年 4 月 1 日	第 8 代隊長 阿草一郎就任（職員 20 名・団員 11 名） 消防音楽隊設置規程改正（副隊長新設）
平成 19 年 4 月 1 日	第 9 代隊長 小東史明就任（職員 21 名・団員 11 名）

豊中市消防音楽隊出演要綱を改正

平成 20 年 2 月 17 日	30 周年記念演奏会開催（豊中市民会館大ホール）
平成 20 年 4 月 1 日	第 10 代隊長 岩間東二就任（職員 22 名・団員 11 名）
平成 22 年 2 月 21 日	北摂 4 市消防音楽隊合同演奏会開催（豊中市民会館大ホール）
平成 22 年 10 月 10 日	第 6 回全国消防音楽隊フェスティバル（奈良市）に参加
平成 23 年 4 月 1 日	第 11 代隊長 鈴木猛史就任（職員 22 名・団員 10 名）
平成 23 年 8 月 20 日	東日本大震災応援きやらばん隊として被災地で演奏
平成 24 年 2 月 26 日	第 1 回このまちいいなコンサート開催（アクア文化ホール）
平成 25 年 2 月 17 日	第 2 回このまちいいなコンサート開催（アクア文化ホール）
平成 26 年 2 月 9 日	第 3 回このまちいいなコンサート開催（アクア文化ホール）
平成 26 年 4 月 1 日	第 12 代隊長 片岡邦恭就任（職員 27 名・団員 11 名）
平成 29 年 3 月 18・19 日	第 7 回全国消防音楽隊フェスティバル開催（大阪府営服部緑地公園、千里中央駅、豊中市立文化芸術センター）
平成 30 年 4 月 1 日	第 13 代隊長 乾文雄就任（職員 25 名・団員 9 名）
平成 31 年 4 月 1 日	第 14 代隊長 寺岡洋就任（職員 24 名・団員 11 名）
令和 4 年 4 月 1 日	第 15 代隊長 高橋信一就任（職員 23 名・団員 12 名）
令和 5 年 3 月 12 日	音楽あふれるまちとよなか 防火・防災フェスティバル開催（豊中市立文化芸術センター）
令和 6 年 4 月 1 日	第 16 代隊長 八木隆太就任（職員 18 名・団員 12 名）
令和 6 年 9 月 1 日	制服・楽器の更新整備のためクラウドファンディング開始
令和 7 年 4 月 1 日	第 17 代隊長 奥村純人就任（職員 18 名・団員 12 名）



救急フェスタ（せんちゅうパル北広場）

出演内容

(令和 7 年度)

No	日 程	行 事 名	演奏場所	聴衆者数	参加 隊員数
1	4 月 6 日 (日)	交通安全フェア	せんちゅうパル南広場	100 人	18 人
2	5 月 18 日 (日)	消防音楽隊ミニコンサート	服部緑地公園 西中央広場	200 人	20 人
3	5 月 30 日 (金)	音楽鑑賞会	アソカ幼稚園	100 人	14 人
4	6 月 17 日 (火)	音楽鑑賞会	市立豊中こども園	100 人	15 人
5	7 月 5 日 (土)	第 40 回大阪の消防大賞	大東市立総合文化センター	300 人	9 人
6	8 月 12 日 (火)	消防音楽隊ミニコンサート	消防局・北消防署合同庁舎	20 人	21 人
7	8 月 15 日 (金)	プールサイドコンサート	千里阪急ホテル	100 人	23 人
8	9 月 6 日 (土)	救急フェスタ	新千里消防署	100 人	20 人
9	9 月 12 日 (金)	音楽鑑賞会	しんでんこども園	130 人	17 人
10	9 月 23 日 (火)	秋の交通安全フェア	阪急ドライビングスクール 服部緑地	300 人	24 人
11	10 月 5 日 (日)	コラボまつり	せんちゅうパル北広場	150 人	22 人
12	10 月 26 日 (日)	第 5 回ジョイントひろば	豊中市伊丹市クリーンランド	100 人	20 人
13	11 月 2 日 (日)	北町みんなで楽しみなイト	北丘小学校	100 人	17 人
14	11 月 9 日 (日)	能勢町分署開放デー	浄るりシアター (能勢町)	100 人	18 人
15	11 月 16 日 (日)	消防ふれあいフェスタ	服部緑地公園 西中央広場	500 人	22 人
16	12 月 17 日 (水)	クリスマスコンサート	大阪国際空港展望デッキ	150 人	14 人
17	12 月 21 日 (日)	豊中中央ライオンズクラブ クリスマス例会	千里阪急ホテル	100 人	22 人
18	1 月 11 日 (日)	令和 8 年度消防出初式	大門公園	3500 人	22 人
19	3 月 1 日 (日)	新千里消防署開放デー	新千里消防署	100 人	24 人
20	3 月 6 日 (金)	消防記念日表彰式	消防局・北消防署合同庁舎	50 人	16 人
21	3 月 7 日 (土)	南消防署開放デー	南消防署	200 人	23 人
22	3 月 27 日 (金)	第 119 回初任教育修業式実科査閲	大阪府立消防学校	500 人	3 人
			合 計	7,480 人	387 人

隊員構成

(令和 8 年 4 月 1 日現在)

職 名 ・ 楽 器 名	消 防 吏 員							消 防 団 員				合 計
	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	小 計	部 長	班 長	団 員	小 計	
隊 長	1						1					1
副 隊 長		(1)					(1)					(1)
楽 長			(1)				(1)					(1)
副 楽 長			(2)				(2)					(2)
指 揮 者			(1)				(1)					(1)
フ ル ー ト										1	1	1
オ ー ボ エ									1		1	1
ク ラ リ ネ ッ ト		1	2		1		4			1	1	5
テ ナ ー サ ッ ク ス		1					1		(1)			1
ア ル ト サ ッ ク ス			1				1			2	2	3
バ リ ト ン サ ッ ク ス			1				1					1
ト ラ ン ペ ッ ト	1					2	3			3	3	6
ホ ル ン			1	(1)			1			(1)		1
ト ロ ン ボ ー ン			1	1	1		3			1	1	4
ユ ー フ ォ ニ ウ ム								1			1	1
チ ュ ー バ				1			1			1	1	2
パ ー カ ッ シ ョ ン			1				1			3	3	4
合 計	2	2	7	2	2	2	17	1	1	12	14	31

() は各奏者と兼任を示します。

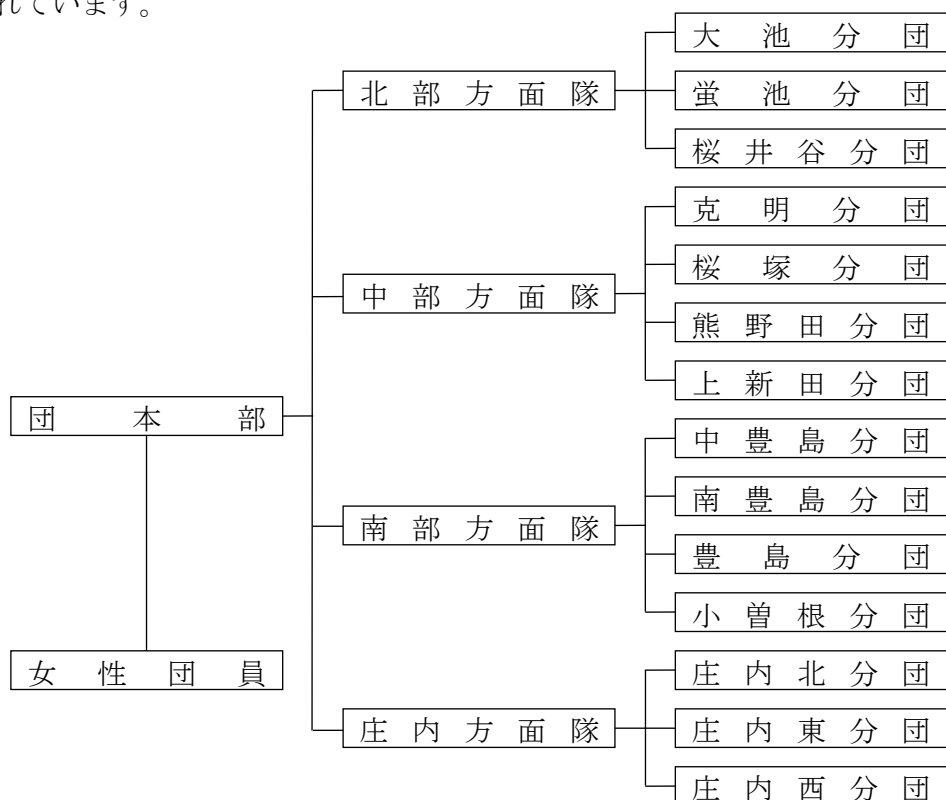
消 防 団

消防団は、郷土愛護と社会奉仕の精神に支えられ、火災をはじめとする各種災害の防除に従事し、地域の安全に寄与している団体であり、住民組織でもあります。

消防団員は、一定の職業をもちながら消防防災活動に従事し、災害発生時に出動し地域住民の生命と財産を保護しています。

❖ 組織

消防団の組織は、団本部の下に、北部・中部・南部・庄内の4方面隊14分団が組織されています。



人員・機械

(令和8年4月1日現在)

区 分	人 員									機 械			携 帯 無 線	車 載 無 線
	定 員	実 員	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	普通消防ポンプ自動車	その他の車両	小型動力ポンプ		
計	575	496 (18)	1	4	14	15	63 (1)	72 (2)	327 (15)	18	2	22	5	18
団本部		23 (18)	1	4			1 (1)	2 (2)	15 (15)		2	1	5	
克分 明団	35	21			1	1	3	3	13	1		1		1
桜分 塚団	35	29			1	1	4	4	19	1		1		1
大分 池団	35	23			1	1	3	3	15	1		1		1
蛭分 池団	35	25			1	1	3	4	16	1		1		1
桜井分 谷団	40	35			1	1	5	5	23	1		2		1
熊野分 田団	35	34			1	1	4	5	23	1		1		1
上新分 田団	35	25			1	1	4	4	15	1		1		1
中豊分 島団	50	32			1	1	4	5	21	2		1		2
南豊分 島団	32	34			1	1	4	6	22	2		2		2
豊分 島団	33	37			1	1	4	5	26	1		3		1
小曾分 根団	60	44			1	2	6	7	28	1		5		1
庄内分 北団	50	45			1	1	6	6	31	2		1		2
庄内分 東団	50	44			1	1	6	7	29	1		1		1
庄内分 西団	50	45			1	1	6	6	31	2				2

() 内は女性消防団員数

階級別団員数

(令和8年4月1日現在)

区分	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 長	部 長	班 長	団 員	計
定 員	1	4	14	15	66	76	399	575
実 員	1	4	14	15	63(1)	72(2)	327 (15)	496 (18)

() 内は女性消防団員数

年齢別・階級別団員数

(令和8年4月1日現在)

階級 年齢	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 長	部 長	班 長	団 員	計
20 才 未 満							2	2
20 ～ 24							19	19
25 ～ 29					3	3	15	21
30 ～ 34				1	1	3	25	30
35 ～ 39					3	2	20	25
40 ～ 44				1	5	12	29	47
45 ～ 49			3	3	12	18	51	87
50 ～ 54		1	4	5	10	18	52	90
55 ～ 59		2	3		22	11	41	79
60 ～ 64		1	4	5	2	4	35	51
65 才 以 上	1				5	1	38	45
計	1	4	14	15	63	72	327	496
平 均 年 齢	67.0	57.3	54.9	53.0	51.4	48.4	48.5	48.4

勤続年数

(令和8年4月1日現在)

階級 年数	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 長	部 長	班 長	団 員	計
5 年 未 満					2	9	77	88
5 ～ 9 年					6	15	53	74
10～14 年			2	5	15	16	41	79
15～19 年			2	2	11	17	46	78
20～24 年			7	4	15	10	35	71
25～29 年	1	2	1	3	8	3	36	54
30 年 以 上		2	2	1	6	2	39	52
計	1	4	14	15	63	72	327	496
平 均 年 数	28.0	31.7	22.1	20.0	18.6	13.7	15.1	15.7

教養訓練

(令和 7 年度)

種 別	回 数	出 動 人 員
ポンプ操法訓練	12	487
幹部教養訓練	11	361
歳末警戒	3	575
地水利調査	1	296
規律訓練	2	117
消防出初式	1	295
豊能地区支部総合訓練大会	1	80
大阪府消防大会	1	9
大阪府消防表彰式	1	17
豊能地区支部教養訓練	6	48
資機材等取扱訓練	224	2052
防災訓練	2	46
消防団フェア	1	98
予防広報活動	66	527
幹部研修	7	13
合 計	339	5021

災害活動

(令和 7 年中)

区 分	件 数	延 べ 出 場 台 数	延 べ 出 場 人 員
火 災 出 場	31	73	569
警 備 等	24	56	455
計	55	129	1024

警戒活動

(令和 7 年度)

区 分	日 数	時 間	人 員
歳 末 警 戒	3	12	575

❖ 消防団員の処遇

報酬

豊中市消防団員の定員、任免、服務、給与等に関する条例（昭和 41 年条例第 20 号）に基づき、報酬を支給しています。

（令和 8 年 4 月 1 日現在）

区 分	月 額 報 酬 （ 円 ）	年 額 （ 円 ）
団 長	11,600	139,200
副 団 長	8,950	107,400
分 団 長	7,150	85,800
副 分 団 長	6,950	83,400
部 長	5,950	71,400
班 長 及 び 団 員	5,750	69,000

※ 消防用機動車の整備並びに運転に従事する団員には、月額 1,800 円を団員報酬に加給しています。

出勤報酬

消防団員が災害、警戒、訓練等の職務に従事する場合においては、豊中市消防団員の定員、任免、服務、給与等に関する条例（昭和 41 年条例第 20 号）に基づき出勤報酬を下記区分に応じて支給しています。

- (1) 大規模災害の場合 1 日につき 8,000 円（当該職務に従事する時間が 4 時間未満の場合にあつては 4,000 円）
- (2) 前号に掲げる場合以外の場合 1 回につき 3,500 円

退職報償金

消防団員が 5 年以上勤務して退職した場合、豊中市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例（昭和 36 年条例第 25 号）に基づき、20 万円から 107 万 9 千円の範囲内で退職報償金を支給しています。なお、支払責任の共済制度である消防団員等公務災害補償等共済基金に加入しています。

表彰

表彰には、国が行う叙位・叙勲・褒章のほかに「消防表彰規程」に基づく各種表彰があります。このほか大阪府、日本消防協会、大阪府消防協会においても毎年定期的に表彰を行っています。消防団及び消防団員に対する表彰は精神的な報酬とも言えます。

個人表彰

(令和7年度)

区	分	摘	要	受	章	者	数						
消	防	庁	長	官	勤	続	功	労	章	2			
大	阪	府	知	事	消	防	勤	続	功	労	章	3	
					消	防	功	労	章	7			
日	本	消	防	協	会	賞	功	績	章	0			
							精	績	章	1			
							勤	続	章	2			
大	阪	府	消	防	協	会	長	功	績	章	0		
								永	年	勤	続	章	19
								勤	続	章	14		
								勤	功	章	14		
								精	勤	章	13		
豊	能	地	区	支	部	長	優	良	団	員	表	彰	1
豊	中	市	消	防	団	長	優	良	団	員	表	彰	13

自治体消防発足後の主要事項

昭和23年

- ◇消防組織法（昭和22年法律第226号）の施行により消防本部・消防署発足
- ◇消防団令（勅令第185号）の廃止により消防組織法に基づく消防団発足（克明・桜塚・大池・麻田・桜井谷・熊野田・中豊島・南豊島・小曾根の9分団）
- ◇初代消防長兼消防署長 別宮 誉就任
- ◇消防団長 小寺憲一（昭和22年12月1日就任）
- ◇池田市・庄内町及び箕面町外2か村消防組合と消防相互応援について協定する。
- ◇消防職員33名・消防団員450名
- ◇普通消防ポンプ自動車9台・水槽付消防ポンプ自動車1台・手引動力ポンプ14台

昭和24年

- ◇豊南車庫（豊南町東5-1）開設、消防職員6名、普通消防ポンプ自動車1台配置
- ◇市場出火。同市場462㎡、店舗付住宅3棟17戸498㎡焼失
- ◇火災17件

昭和25年

- ◇服部出張所（服部本町4丁目1番7号）開設、消防職員13名、普通消防ポンプ自動車2台配置
- ◇克明、大池小学校をはじめとする放火事件発生
- ◇ジェーン台風襲来
- ◇救急業務開始
- ◇大阪府消防協会 竿頭綬を受章
- ◇日本消防協会 竿頭綬を受章
- ◇消防職員64名・消防団員450名
- ◇普通消防ポンプ自動車9台・水槽付消防ポンプ自動車2台・救急自動車1台
- ◇火災30件・救急48件

昭和26年

- ◇工場出火。1,010㎡焼失、り災人員135名、重軽傷者3名
- ◇火災22件・救急168件

昭和27年

- ◇放火事件続発のため特別警戒実施。少年（16才）補導される。昭和25年の放火事件も同人と判明する。
- ◇消防職員66名・消防団員450名
- ◇火災36件・救急195件

昭和28年

- ◇三島郡新田村大字上新田（3.96k㎡）を編入。消防団は熊野田分団に編入。消防団員20名、手引動力ポンプ1台配置
- ◇消防本部・署庁舎新築第1期工事着工
- ◇消防職員72名 消防団員410名
- ◇火災34件・救急220件

昭和29年

- ◇消防本部・署庁舎新築第1期工事完工。業務開始
- ◇曾根市場全焼
- ◇消防士 富田繁吉（48才）4月8日殉職、同日付消防士長に昇進、4月27日公葬執行
- ◇普通消防ポンプ自動車11台・水槽付消防ポンプ自動車2台・救急自動車1台
- ◇火災29件・救急294件

昭和30年

- ◇庄内町（4.5k㎡）合併、庄内町消防本部・署を廃し、庄内出張所に改める。消防職員20名、普通消防ポンプ自動車2台配置、消防団は庄内北・庄内東・庄内西の3分団に編成する。
- ◇消防長兼消防署長 別宮 誉退任、後任に中村藤太郎就任
- ◇消防職員84名・消防団員560名
- ◇普通消防ポンプ自動車14台、水槽付消防ポンプ自動車3台・救急自動車1台
- ◇火災48件・救急295件

昭和31年

- ◇消防団長 小寺憲一退任、後任に森田年宝就任

- ◇消防士 豊田慶幸(30才)12月20日殉職、同日付消防士長に昇進、翌年1月19日公葬執行
- ◇消防職員 88名・消防団員 560名
- ◇普通消防ポンプ自動車 15台・水槽付消防ポンプ自動車 4台・救急自動車 1台
- ◇火災 49件・救急 249件

昭和32年

- ◇消防本部・署庁舎第2期工事着工完成
- ◇日航機雲仙号不時着炎上。乗員4名、乗客51名のうち重軽傷者7名
- ◇火災 49件・救急 299件

昭和33年

- ◇自治体消防発足10周年記念
- ◇日本損害保険協会から普通消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
- ◇大阪府知事 優良消防団として団体表彰
- ◇普通消防ポンプ自動車 17台・水槽付消防ポンプ自動車 3台・救急自動車 1台
- ◇火災 57件・救急 306件

昭和34年

- ◇工場(野田町)から出火。豊南町(火元から500メートル)及び庄内東町(火元から300メートル)の2か所へ飛火。異常乾燥、強風注意報発令下西の風11メートル、気温21度、湿度53%、実行湿度59%と気象条件が悪く、消火活動は困難を極める。焼失面積1,700㎡
- ◇火災件数 90件・救急 444件

昭和35年

- ◇豊南車庫を豊南出張所に改める。
- ◇国家消防本部長 竿頭綬を受章
- ◇消防職員 95名・消防団員 560名
- ◇火災 117件・救急 446件

昭和36年

- ◇消防長兼消防署長 中村藤太郎退任、後任に石原朝太郎就任
- ◇消防団 大阪府知事 表彰旗を受章
- ◇消防職員 100名・消防団員 560名
- ◇火災 134件・救急 576件

昭和37年

- ◇普通消防ポンプ自動車 16台・水槽付消防ポンプ自動車 4台・救急自動車 1台
- ◇火災 170件・救急 600件

昭和38年

- ◇熊野田分団を分割して上新田分団(分団員35名)を新設
- ◇名神高速道路の消防救急業務開始、尼崎市と名神高速道路上の消防相互応援協定締結
- ◇救急業務法制化
- ◇消防職員 106名・消防団員 575名
- ◇火災 136件・救急 811件

昭和39年

- ◇名神高速道路に関する尼崎市との消防相互応援協定に西宮市も加わる。
- ◇吹田市と市域相互間の消防相互応援協定締結
- ◇茨木市と名神高速道路に関する消防相互応援協定締結
- ◇消防長兼消防署長 石原朝太郎退任、後任に西口増夫就任
- ◇屈折はしご付消防ポンプ自動車及び無線付救急自動車各1台配置
- ◇消防職員 122名・消防団員 575名
- ◇普通消防ポンプ自動車 17台・水槽付消防ポンプ自動車 4台・屈折はしご付消防ポンプ自動車 1台・救急自動車 2台
- ◇火災 194件・救急 1,133件

昭和40年

- ◇大阪市と市域相互間の消防相互応援協定締結
- ◇商店街店舗(庄内駅前)出火。10店舗及びアパート 631㎡焼失、死者4名、り災者64名
- ◇消防庁長官から防災思想の普及、消防施設整備、災害対策等優秀につき表彰旗を授与された。
- ◇第9回大阪府消防操法大会優勝(ポンプ車操法の部)
- ◇第9回大阪府消防操法大会優勝(手引きポンプの部)
- ◇化学消防ポンプ自動車1台配置

- ◇消防職員 125 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 18 台・水槽付消防ポンプ自動車 5 台・屈折はしご付消防ポンプ自動車 1 台・化学消防ポンプ自動車 1 台・救急自動車 2 台
- ◇火災 192 件・救急 1,605 件

昭和 4 1 年

- ◇伊丹市と市域相互間の消防相互応援協定締結
- ◇住友生命保険相互会社から救急自動車 1 台の寄贈を受ける。
- ◇大池小学校運動会で仕出し弁当により集団食中毒事故発生。患者数 1,098 名（うち入院患者 188 名・死者 1 名）
- ◇第 10 回大阪府消防操法大会優勝（ポンプ車軽量吸管的部）
- ◇豊南出張所を廃して小曾根出張所を開設し、消防職員 20 名、屈折はしご付消防ポンプ自動車 1 台、水槽付消防ポンプ自動車 1 台・普通消防ポンプ自動車 1 台を配置
- ◇消防職員 137 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 19 台・水槽付消防ポンプ自動車 5 台・屈折はしご付消防ポンプ自動車 1 台・化学消防ポンプ自動車 1 台・救急自動車 4 台
- ◇火災 212 件・救急 2,248 件

昭和 4 2 年

- ◇庄内出張所新築移転。鉄筋コンクリート造 3 階建一部平屋建、消防職員 31 名、化学消防ポンプ自動車 1 台・水槽付消防ポンプ自動車 1 台・普通消防ポンプ自動車 1 台・救急自動車 1 台配置
- ◇8 月 10 日 池田市、伊丹市との間で大阪国際空港内における危険物規制事務の協定を締結する。
- ◇8 月 16 日 池田市、伊丹市との間で大阪国際空港内における建築物の確認申請に対する同意事務の協定を締結
- ◇12 月 15 日 尼崎市と市域間の消防・救急業務の応援協定を締結
- ◇消防職員 154 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 21 台・水槽付消防ポンプ自動車 5 台・屈折はしご付消防ポン

- プ自動車 1 台・化学消防ポンプ自動車 1 台・救急自動車 5 台
- ◇火災 311 件・救急 2,530 件

昭和 4 3 年

- ◇自治体消防発足 20 周年
- ◇1 消防本部・2 消防署制実施。消防長兼消防署長 西口増夫消防正監に昇任、消防長の職務に専任。初代北消防署長に消防監 立石善高就任。初代南消防署長に消防司令長 井上一郎就任
- ◇豊中南ライオンズクラブから救急自動車 1 台の寄贈を受ける。
- ◇消防職員 169 名・消防団員 575 名
- ◇火災 298 件・救急 2,974 件

昭和 4 4 年

- ◇北消防署新千里出張所（新千里南町 2 丁目 7 番 1 号）開設。消防職員 20 名、普通消防ポンプ自動車 1 台・水槽付消防ポンプ自動車 1 台配置
- ◇麻田分団を蛭池分団に改称
- ◇消防本部次長兼北消防署長 立石善高退任、後任に消防監 井上一郎就任。南消防署長に消防司令長 中津勝美就任
- ◇日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台、救急自動車 1 台、赤バイ 2 台の寄贈を受け、万国博消防署（吹田市）に配置
- ◇消防職員 8 名を吹田市（万国博消防署）へ派遣
- ◇消防職員 204 名・消防団員 575 名
- ◇火災 334 件・救急 3,395 件

昭和 4 5 年

- ◇北消防署桜井谷出張所（大字少路 54 番地の 3）開設。消防職員 22 名、普通消防ポンプ自動車 1 台・水槽付消防ポンプ自動車 1 台・救急自動車 1 台配置
- ◇消防職員 7 名を吹田市（万国博消防署）へ派遣
- ◇南豊島分団を分割して豊島分団を新設、分団員 33 名
- ◇豊中ライオンズクラブから小型動力ポンプ積載車（トヨタミニエース）1 台の寄贈を受ける。

- ◇生命保険協会から救急自動車 1 台を、日本万国博消防対策本部を通じて寄贈を受ける。
- ◇日本万国博消防対策本部から派遣職員 15 名、水槽付消防ポンプ自動車 1 台、救急自動車 1 台、赤バイ 2 台が帰属した。
- ◇大阪府救急医療情報センターと情報交換のため、消防本部に設置した救急医療無線局の整備及び運用等に関し大阪府と協定を締結
- ◇10 月 1 日 大阪市と回転翼航空機による消防救難業務の協定を締結
- ◇中国縦貫自動車道及び近畿自動車道における消防救急業務の取扱いについて、関係消防本部消防長（池田市・吹田市・茨木市・摂津市・守口市門真市消防組合）間において覚書を交換する。
- ◇アクリライト合成樹脂ネオン広告塔及び同事務所（延面積 349 m²・高さ 51 メートル）全焼
- ◇消防職員 227 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 26 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 2 台・化学消防ポンプ自動車 2 台・救急自動車 7 台
- ◇火災 327 件・救急 3,822 件
- ◇消防士 伊藤二郎（23 才）12 月 28 日殉職、同日付消防士長に昇進、翌年 2 月 2 日公葬執行

昭和 4 6 年

- ◇消防長 西口増夫退任、後任に消防本部次長兼北消防署長 井上一郎就任。消防本部次長兼北消防署長に消防監 中津勝美、南消防署長に消防司令長 川俣秀夫就任
- ◇大阪国際空港、伊丹市及び池田市と大阪国際空港及びその周辺における消火救難活動に関する協定を締結
- ◇柴原浄水場において塩素ガス流出事故が発生。中毒患者 348 名
- ◇救助工作車（空気呼吸器、アクアラング用ボンベ充てん装置を装備）1 台をはじめ消防用車両を整備
- ◇消防職員 251 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 26 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付（屈折はしご

含む）消防ポンプ自動車 2 台・化学消防ポンプ自動車 2 台・救助工作車 1 台・救急自動車 9 台

- ◇火災 273 件・救急 4,439 件

昭和 4 7 年

- ◇北消防署原田出張所（原田元町 3 丁目 9 番 6 号）開設。消防職員 22 名、普通消防ポンプ自動車 1 台・水槽付消防ポンプ自動車 1 台・救急自動車 1 台配置
- ◇豊中央ライオンズクラブ及び(社)大阪府モーターボート競走会から各 1 台ずつ救急自動車の寄贈を受ける。
- ◇全国消防長会第 2 回広報特別委員会を豊中市民会館において開催
- ◇第 16 回大阪府消防操法大会優勝（ポンプ車操法の部）
- ◇消防職員 263 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 25 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 2 台・化学消防ポンプ自動車 2 台・救助工作車 1 台・救急自動車 9 台
- ◇火災 311 件・救急 5,074 件

昭和 4 8 年

- ◇北消防署蛍池出張所建設着手
- ◇40 メートル級はしご付消防ポンプ自動車 1 台・普通消防ポンプ自動車 2 台・消防無線・消防水利（防火水槽・消火栓）等を整備する。
- ◇消防救急無線周波数再編成計画（昭和 45 年 12 月 1 日郵政省電波管理局長通達）に基づく消防波 2 波、府内共通波、全国共通波各 1 波の 4 チャンネル及び救急波復信（1 ペア）の組み入れによる基地局及び全移動局の整備事業完了
- ◇吹田市・池田市・兵庫県川西市・伊丹市・宝塚市と中国縦貫自動車道吹田・宝塚インターチェンジ間の消防相互応援協定を締結
- ◇第 17 回大阪府消防操法大会 2 位（ポンプ車操法の部）
- ◇消防職員 276 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 28 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご

- ◇含む) 消防ポンプ自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 1 台・救急自動車 9 台
- ◇火災 377 件・救急 5,886 件

昭和 49 年

- ◇川西市と市域間の特定防火対象物の消防・救急業務の応援協定を締結
- ◇北消防署蛍池出張所（蛍池西町 1 丁目 25 番 10 号）開設。消防職員 22 名、水槽付消防ポンプ自動車 1 台・普通消防ポンプ自動車 1 台・救急自動車 1 台配置
- ◇屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）・救助工作車・救急自動車各 1 台・消防無線・消防水利（防火水槽・消火栓）を整備
- ◇日本損害保険協会寄贈の救急自動車 1 台を消防庁から配車される。
- ◇消防職員 299 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 28 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 2 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台
- ◇1 月 5 日 商店街店舗（岡町南）出火。焼失面積 1,140 m²、損害額約 1 億 3,000 万円
- ◇9 月 9 日 消防士 向井 茂殉職、同日付消防士長に昇進。10 月 5 日公葬執行
- ◇第 18 回大阪府消防操法大会優勝（ポンプ車操法の部）全国大会出場
- ◇11 月 9 日 工場（走井）出火。焼失面積約 1 万 3,694 m²、損害額約 6 億 2,000 万円
- ◇火災 306 件・救急 5,840 件
- ◇兵庫県川西市と消防特別相互応援協定締結

昭和 50 年

- ◇化学消防ポンプ自動車（Ⅲ型）・普通消防ポンプ自動車各 1 台・消防水利（防火水槽・消火栓）・無線を整備
- ◇消防団に携帯無線機 19 機配備
- ◇春日町・宮山町・永楽荘・千里園・柴原町・刀根山の地域に連続放火事件発生し、特別警戒を実施する。
- ◇消防団長 森田年宝退任、後任に平尾 力就任
- ◇消防職員 335 名・消防団員 575 名

- ◇普通消防ポンプ自動車 28 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 3 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 3 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台
- ◇消防本部次長（総務、予防担当）兼予防課長に梶田榮二就任、消防本部次長（警備担当）兼警備課長に高橋政治就任
- ◇火災 317 件・救急 6,291 件

昭和 51 年

- ◇住友生命保険相互会社から救急自動車 1 台、豊中中央ライオンズクラブから吹奏楽器 19 点等、豊中北ライオンズクラブから人員搬送車 1 台、東京海上火災保険株式会社から防災用ジープ 1 台の寄贈を受ける。
- ◇消防音楽隊発足準備
- ◇市制 40 周年記念行事の一環として一日消防長を実施
- ◇消防職員 335 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 27 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 3 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 3 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台
- ◇火災 290 件・救急 6,385 件

昭和 52 年

- ◇普通消防ポンプ自動車 3 台・小型動力ポンプ 1 台・超短波無線電話（移動局 2 機・携帯型 7 機）・防火水槽 2 箇所整備
- ◇消防音楽隊発足
- ◇豊中南ライオンズクラブから三菱ジープ HJ58 型 1 台の寄贈を受ける。
- ◇豊中中央ライオンズクラブから音楽隊演奏服及び隊旗の寄贈を受ける。
- ◇第 21 回大阪府消防操法大会 2 位（ポンプ車操法の部）
- ◇消防職員 335 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 29 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 3 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消

- 防ポンプ自動車 3 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台
- ◇火災 293 件・救急 7,014 件

昭和 53 年

- ◇普通消防ポンプ自動車 3 台・救急自動車・無線車・司令車・作業車各 1 台更新・小型動力ポンプ 4 台・超短波無線電話・防火水槽等整備
- ◇豊中中央ライオンズクラブからレサシアンネ（人口呼吸訓練人形）、担架等の寄贈を受ける。
- ◇自治体消防 30 周年記念式典（於東京）に消防長・消防団長出席
- ◇救助隊が第 7 回全国消防救助技術大会において、「高所人命救助の部」で入賞を果たした。
- ◇消防職員 347 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 30 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 3 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・救助工作車 2 台・救急自動車 9 台
- ◇市域境界線上に位置する消防対象物の取扱いに関する協定を大阪市と締結
- ◇火災 326 件・救急 7,365 件

昭和 54 年

- ◇普通消防ポンプ自動車 3 台・水槽付消防ポンプ自動車・救急自動車・司令車・作業車各 1 台更新・小型動力ポンプ 3 台・超短波無線電話・防火水槽等整備
- ◇消防本部・北消防署合同庁舎建設用地として隣接民有地及び市土地開発公社所有地 743.85 m²取得
- ◇茨木市・吹田市・池田市・兵庫県川西市・伊丹市・宝塚市と中国縦貫自動車道茨木（J1203.4）・宝塚インターチェンジ間における消防相互応援協定を締結（昭和 48 年締結の協定は廃止し、茨木市を加えて新たに締結したもの）
- ◇南消防署長に警備担当次長兼警備課長 高橋政治就任
- ◇消防職員 347 名・消防団員 575 名

- ◇普通消防ポンプ自動車 29 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 3 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・救助工作車 2 台・救急自動車 9 台
- ◇火災 304 件・救急 7,677 件

昭和 55 年

- ◇普通消防ポンプ自動車 4 台・救急自動車 2 台・調査車 1 台更新・小型動力ポンプ 2 台・超短波無線電話・防火水槽等整備
- ◇（株）豊中石油から査察車 1 台の寄贈を受ける。
- ◇豊中ロータリークラブからビデオテープレコーダー一式、豊中中央ライオンズクラブから消防音楽隊用楽器及び器材 11 点の寄贈を受ける。
- ◇日本消防協会主催消防百年記念消防団全国大会（於東京後楽園スタジアム）に消防長、消防団長、副団長が参加
- ◇消防本部・北消防署合同庁舎建設に伴い竣工までの間、前水道局分室（北桜塚 2-2-1）に庁舎の仮移転を行い消防業務にあたる。なお、仮移転に際し、北桜塚自治会住民に対し、協力依頼のための説明会を豊中勤労青少年ホームにて開催した。
- ◇消防本部・北消防署合同庁舎の着工にあたって、岡上の町自治会住民に対し協力依頼のための説明会を岡上の町会館において開催した。
- ◇第 24 回大阪府消防操法大会 2 位（ポンプ車操法の部）
- ◇消防職員 347 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 28 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 3 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・救助工作車 2 台・救急自動車 9 台
- ◇火災 264 件・救急 7,935 件

昭和 56 年

- ◇消防長 井上一郎退任。後任に消防本部次長兼予防課長 梶田榮二就任。消防本部次

長に消防監 下倉史郎（総務課長兼務）就任。

- ◇当市消防団長 平尾 力氏から消防旗 4 本（本部旗 1・署旗 2・団旗 1）・複写機 2 台・放送設備一式の寄贈を受ける。
- ◇故阪本光造氏（前桜井谷農業協同組合長）のご遺志を受け、当市北消防署勤務阪本祥造氏から消防隊員搬送用マイクロバス、消防用資機材搬送車各 1 台の寄贈を受ける。
- ◇大阪府共済農業協同組合連合会から救急自動車 1 台の寄贈を受ける。
（社）大阪府モーターボート競走会から救急自動車 2 台の寄贈を受ける。
- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 28 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 3 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台
- ◇火災 274 件・救急 8,100 件

昭和 57 年

- ◇消防本部・北消防署合同庁舎での業務開始、合同庁舎 4 月 30 日完工、5 月 13 日に竣工式を挙行、6 月 1 日仮庁舎から移転。新合同庁舎は、消防防災体制の科学化、近代化を図るため、総工費 14 億 2,900 万円をかけ、昭和 56 年 2 月から建設を進めてきたもので、コンピュータと連動した最新鋭の消防指令管制システムを導入。また非常災害対策用として自家給油取扱所を設置するなど、防災拠点としての機能を充実させた。

（庁舎概要）

構造	鉄骨鉄筋コンクリート造		
	地下 1 階地上 6 階（但し塔屋含む）		
敷地面積	1,631.71 m ²		
建築面積	853.46 m ²		
延面積	本館	3,865.63 m ²	
	車庫・倉庫	212.17 m ²	

- ◇日本消防協会 竿頭授受章
- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 28 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 3 台・屈折放水塔

車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台

- ◇火災 277 件・救急 8,577 件

昭和 58 年

- ◇消防長 梶田榮二死亡退職により、同日付豊中市助役 林 實消防長事務取扱に、その後、中津勝美就任
- ◇消防本部・消防署の機構改革
消防本部については、警備課の組織を「警備計画係」「防災救急係」「第 1・第 2 管制係」「機械係」に改め、調査及び救助隊の実戦部隊は、消防署に置き、また、予防課の組織を「予防係」「危険物係」「設備係」に改め、分掌事務の改正を行った。
消防署については、課制を廃し、副署長制を採用、これに伴い「課長」を「副署長」に「課長補佐」を「副主幹」に改めた。
消防本部、消防署に主幹を置いた。
- ◇北消防署長 中津勝美が消防長に就任、兼ねて北消防署長事務取扱
- ◇市制モニター発足 市民から公募した 100 名の市制モニターが、「消防問題」を主要テーマに 1 年間モニター活動を行った。
- ◇消防本部次長 下倉史郎兼ねて北消防署長に就任
- ◇（社）日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車、（社）大阪府モーターボート競走会から救急自動車、（社）日本消防協会から指令広報車各 1 台の寄贈を受ける。
- ◇第 27 回大阪府消防操法大会 2 位（ポンプ車操法の部）
- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 28 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付（屈折はしご含む）消防ポンプ自動車 4 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台
- ◇火災 291 件・救急 8,254 件
- ◇自治体消防 35 周年記念式典（於東京日本武道館）に消防長、消防団長、副団長が出席
- ◇豊中中央ライオンズクラブから消防音楽隊用楽器など 3 点の寄贈を受ける。

昭和59年

- ◇消防団が優良消防団として、(財)日本消防協会長から「まとい」を受け、特別表彰された。
- ◇大黒町3丁目の文化住宅全焼、幼女3名を含む死者4名、原因は石油ストーブ
- ◇救助隊が消防救助技術近畿地区指導会において、「引揚救助」で3位入賞を果たす。
- ◇三栄化学工業(株)から小型動力ポンプ付水槽車1台、三國製薬工業(株)から消防用自動車1台、豊中央ライオンズクラブから消防音楽隊用楽器など5点の寄贈を受ける。
- ◇桜井谷出張所に車庫建設
鉄筋造平屋建 227.95㎡、総工費 98,539,008 円(用地購入費含む。)
- ◇10月から年末にかけて、小雨のための異常渇水により、淀川第2次取水制限の措置がとられたため、火災に備え、水槽付消防ポンプ自動車の第1出場時増車など必要な対応を行った。
- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 29 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付(屈折はしご含む)消防ポンプ自動車 4 台・屈折放水塔車(ブレイクスクアート車)1台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台
- ◇火災 220 件・救急 8,217 件

昭和60年

- ◇北消防署服部出張所改築工事着工
- ◇豊中央ライオンズクラブから消防音楽隊用楽器及び複写機、豊中北ライオンズクラブから人員搬送車の寄贈を受ける。
- ◇救助隊が第14回全国消防救助技術大会において、「引揚救助」に2チーム出場し、1チームが入賞を果たした。
- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 29 台・水槽付消防ポンプ自動車 4 台・はしご付(屈折はしご含む)消防ポンプ自動車 4 台・屈折放水塔車(ブレイクスクアート車)1台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水

槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台

- ◇火災 210 件・救急 8,916 件

昭和61年

- ◇服部出張所竣工
4月1日業務開始、職員 22 名、普通消防ポンプ自動車 1 台、救急自動車 1 台配置(庁舎概要)

構造	鉄骨造	地上 2 階建
敷地面積	743.04 ㎡	
建築面積	庁舎棟 299.15 ㎡	
付属棟	62.40 ㎡	
延面積	650.13 ㎡	
- ◇7月15日 消防士 吉岡喜良殉職、同日付消防司令補に昇任、9月12日公葬執行
- ◇救助隊が第15回消防救助技術近畿地区指導会において、「引揚救助」の部で第2位、全国大会に出場
- ◇第30回大阪府消防操法訓練大会において、消防団がポンプ車の部で優勝、全国消防操法大会に出場
- ◇南消防署長 高橋政治退任、後任に津留秋男就任
- ◇市制発足 50 周年
- ◇(社)大阪府モーターボート競走会から救急自動車 1 台、大阪北生活協同組合からマイクロバス(29人乗り)1台の寄贈を受ける。

- ◇ファクシミリ装置各署所に導入

- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 29 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 5 台・屈折放水塔車(ブレイクスクアート車)1台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台・起震車 1 台
- ◇火災 198 件・救急 8,543 件

昭和62年

- ◇2月7日 共同住宅(宝山町)出火。焼失面積 1,410 ㎡、損害額約 6,988 万円、死者 2 名、重軽傷者 4 名、り災者 92 名
- ◇消防長 中津勝美退任、豊中市助役 林 實消防長事務取扱

- ◇消防本部次長兼北消防署長 下倉史郎消防長に就任、消防本部次長に消防監 山本仁士（総務課長兼務）、北消防署長に消防監 前村昌市就任
- ◇第2回「大阪の消防大賞」において、消防大賞を蛍池分団 土山 豊、特別賞を故吉岡喜良消防司令補が受賞
- ◇大規模航空機災害に備え『「大阪国際空港周辺」都市航空機災害消防相互応援協定並びに同協定に基づく覚書』を締結
- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 29 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 5 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台・起震車 1 台
- ◇火災 211 件・救急 8,922 件

昭和63年

- ◇（社）大阪府モーターボート競走会から救急自動車 1 台、豊中央ライオンズクラブから消防音楽隊用楽器及びワープロの寄贈を受ける。
- ◇9月3日 工場（利倉）中2階床崩壊事故発生。死者1名、重軽傷者5名
- ◇府下の消防本部を設置する全市町と大阪府下広域消防相互応援協定を締結
- ◇12月15日 遊技場（玉井町）出火。焼失面積 546 m²、損害額 1 億 4,856 万円
- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇普通消防ポンプ自動車 29 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 5 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台・起震車 1 台
- ◇火災 220 件・救急 9,733 件

平成元年（昭和64年）

- ◇南消防署小曾根出張所増改築工事着工
- ◇北消防署長 前村昌市、南消防署長 津留秋男退任、北消防署長に消防監 乃一平八、南消防署長に消防監 木村俊郎就任
- ◇（社）大阪府モーターボート競走会から救急自動車 1 台、（財）航空公害防止協会か

- ら化学消防ポンプ自動車整備助成金 2,000 万円の寄贈を受ける。
- ◇第4回「大阪の消防大賞」において、「鋼材加工工場床崩壊事故救助小隊」として職員 13 名が消防大賞を受賞
- ◇11月12日 店舗付共同住宅（本町 3-4-2）出火。死者2名、負傷者4名、焼失面積 30 m²、損害額 2,112 万円
- ◇第33回大阪府消防操法大会 3 位（ポンプ車の部）
- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇消防ポンプ自動車 29 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 4 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台・起震車 1 台
- ◇火災 190 件・救急 10,145 件

平成2年

- ◇南消防署小曾根出張所増改築工事竣工（増築庁舎棟）
構造 鉄筋コンクリート造平屋建
面積 162 m²
概要 仮眠室、会議室兼訓練室（改築庁舎棟）
構造 鉄筋コンクリート造平屋建
面積 152.13 m²
- ◇南消防署の事務室、仮眠室全面改修及び陸屋根全面防水
- ◇豊中防火安全協会から体力練成器具一式、豊中中央ライオンズクラブから楽器、（社）大阪府モーターボート競走会から救急自動車 1 台の寄贈を受ける。
- ◇2月3日 工場（上津島）出火。負傷者1名、焼失面積 888 m²、損害額 1 億 3,254 万円
- ◇消防職員 351 名・消防団員 575 名
- ◇消防ポンプ自動車 29 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 4 台・屈折放水塔車（ブレイクスクアート車）1 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 10 台・起震車 1 台
- ◇火災 176 件・救急 10,628 件

平成3年

◇新消防指令管制システム運用開始

昭和57年度に導入した消防指令管制システムの機器を更新するとともに、機能の拡充を行い、新消防指令管制システムの運用を開始、新機能として「発信地表示システム」、「車両動態管理システム」、「消防団指令システム」、「コンピューターの2重化」及び高齢者を災害から守るための緊急通報システム「ホットラインきずな」を導入

◇消防本部・消防署の機構改革

消防本部総務担当次長及び防災担当次長の2次長制とし、更に「指令管制課」を新設し、「警備課」を「警防課」に名称変更、消防署については、予防広報課を新設するとともに、第1、第2警防課を第1、第2警備課に名称変更、この機構改革により、消防本部は4課13係、消防署は3課8係となった。

◇桜井谷出張所、原田出張所の増改築工事に着工するとともに、蛍池出張所の改修工事並びに平成2年度につづき南消防署の改修工事に着工

◇10月2日 大阪大学基礎工学部（待兼山1-1）出火。死者2名、負傷者6名、焼失面積49㎡、損害額1億1,727万円

◇消防職員351名・消防団員575名

◇消防ポンプ自動車29台・水槽付消防ポンプ自動車6台・はしご付消防ポンプ自動車4台・はしご付消防自動車2台・化学消防ポンプ自動車4台・小型動力ポンプ付水槽車1台・救助工作車2台・救急自動車10台・起震車1台

◇火災181件・救急10,889件

◇総務担当次長兼総務課長に山本仁士、防災担当次長兼指令管制課長に藤澤利則就任

平成4年

◇救助隊のシンボルマークを制定

◇救急救命士を養成するため、東京・救急救命中央研修所へ1名、府立消防学校 救急救命士養成課程へ2名を派遣

◇9月10日 庄内東町2-1-3先にて電車下敷き事故発生。阪急電車の下敷きとなった女性を救出する。

◇第36回大阪府消防操法大会3位（ポンプ車操法の部）

◇消防職員385名・消防団員575名

◇消防ポンプ自動車29台・水槽付消防ポンプ自動車6台・はしご付消防ポンプ自動車4台・はしご付消防自動車2台・化学消防ポンプ自動車4台・小型動力ポンプ付水槽車1台・救助工作車2台・救急自動車10台・起震車1台

◇火災170件・救急10,751件

平成5年

◇1月18日 大阪府立千里救命救急センターが、ドクターカー運用開始。

◇1月30日 共同住宅（大島町）出火。焼損面積2,066㎡、損害額207,259千円、負傷者2名

◇2月5日 工場（原田中）出火。焼損面積1,924㎡、損害額206,555千円、負傷者1名

◇救急救命士のシンボルマークを制定

◇自治体消防発足45周年

◇（社）日本損害保険協会より高規格救急自動車1台の寄贈を受ける。

◇高規格救急自動車運用開始式を挙行。大阪府下衛星都市で初めての救急救命士による高規格救急自動車（2台）の運用を開始する。

◇北消防署東泉丘出張所（東泉丘4-6-7）開設。消防職員34名、普通消防ポンプ自動車1台、水槽付消防ポンプ自動車1台、はしご付消防自動車1台、高規格救急自動車1台配置。

◇管轄区域の変更

東泉丘出張所の開設により、北消防署の管轄区域であった服部出張所を南消防署に繰り入れる。

◇第8回「大阪の消防大賞」において、「電車下敷き事故救助小隊」として職員8名が消防大賞を受賞

◇豊中市総合防災訓練実施

◇消防団長 平尾 力死亡、後任に副団長 井関正和就任

◇消防職員401名・消防団員575名

◇消防ポンプ自動車30台・水槽付消防ポンプ自動車7台・はしご付消防ポンプ自動車

4 台・はしご付消防自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 11 台・起震車 1 台

◇火災 179 件・救急 11,318 件

◇防災担当次長兼指令管制課長に乃一平八就任、北消防署長に木村俊郎、南消防署長に藤澤利則就任

平成 6 年

◇消防団長 井関正和退任、後任に副団長奈須正好就任

◇第 9 回「大阪の消防大賞」において、心臓停止した女性に特定行為（ラリングゲアル、CPR、静脈路確保）を施し、社会復帰させた功績により、北本署救急隊が消防大賞を受賞

◇阪神高速道路消防協議会発足
大災害発生時の支援体制等研究・検討を目的として、大阪府内 12、兵庫県内 6、計 18 消防本部で発足

◇市北・中部に局地的集中豪雨発生

9 月 6 日深夜から翌 7 日未明にかけての雨量は 295.5 ミリと驚異的なものであり、7 日 10 時災害救助法が適用され、「豊中市災害対策本部」を設置し災害救助を行った。

(被害状況)

- ・半焼（落雷） 1 世帯
- ・床上浸水 609 世帯
- ・事業所浸水 385 事業所
- ・医療機関浸水 10 機関
- ・床下浸水 1,629 世帯
- ・道路冠水 81 か所
- ・道路陥没等 37 か所
- ・公共施設被害 26 施設

◇消防職員 401 名・消防団員 575 名

◇消防ポンプ自動車 30 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付消防ポンプ自動車 4 台・はしご付消防自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 11 台・起震車 1 台

◇火災 201 件・救急 11,488 件

平成 7 年

◇阪神・淡路大震災発生

1 月 17 日午前 5 時 46 分頃、兵庫県南部において震度 7、マグニチュード 7.2 という大規模な地震が発生、阪神地方は壊滅的な打撃を被った。当市でも公表値（震度 4）よりも大きな揺れがあったものと推定され、同日午前 6 時に災害救助法が適用となり、災害対策本部を設置し、被災者対策をはじめ、道路の復旧、ガレキ処理など緊急対策にあたった。

(被害状況（平成 8 年 1 月 31 日時点）)

- ・死者 8 名（豊中市内）
- ・重傷者 101 名
- ・軽傷者 2,395 名
- ・全壊 657 棟 3,027 世帯 5,503 人
- ・半壊 4,248 棟 12,723 世帯 25,945 人
- ・一部損壊 30,256 棟 50,073 世帯 64,032 人

(震災時の消防事故)

- ・火災 5 件
建物火災 部分焼 3 件、ぼや 1 件 計 4 件
その他の火災 1 件
(火災による死者なし、負傷者 1 名)
- ・救急 92 件
搬送人員 72 名、傷病程度は死者 1 名、重傷 3 人（数日後病院で 2 人死亡）、中等症 20 人、軽傷 48 人
- ・救助 12 件（11 名救出）
建物倒壊 4 件出場で 5 人救出（死者 1 名、軽症 4 名）
エレベーター閉じ込め 3 件（3 人救出）
ドア開放 5 件（3 名救出）]
- ・その他の事故 519 件
ガス漏れ 270 件
落下物等の排除 87 件
被害状況調査 53 件
避難地区パトロール 26 件
給水活動 25 件等

◇消防記念日式典中止

◇高規格救急自動車 2 台更新（5 台運用）

◇2 月 8 日 梅花学園（上野西 1-5-30）出火。
焼損面積 633 m²、損害額 158,048 千円

◇4 月 1 日 工場（穂積）出火。焼損面積 290 m²、損害額 169,378 千円

- ◇8月3日 工場（今在家町）出火。死者1名、焼損面積246㎡、損害額38,094千円
- ◇第10回「大阪の消防大賞」において、阪神・淡路大震災で倒壊建物から4名救出した消防本部救助中隊17名が消防大賞を受賞。
- ◇救助隊が第24回消防救助技術近畿地区指導会において、「斜めブリッジ救助」第1位、「ほふく救出」第2位で、全国大会に出場し入賞を果たした。
- ◇第39回大阪府消防操法大会2位（ポンプ車操法の部）
- ◇消防職員401名・消防団員575名
- ◇消防ポンプ自動車30台・水槽付消防ポンプ自動車7台・はしご付消防ポンプ自動車4台・はしご付消防自動車3台・化学消防ポンプ自動車4台・小型動力ポンプ付水槽車1台・救助工作車2台・救急自動車11台・起震車1台
- ◇火災192件・救急12,949件
- ◇総務担当次長兼総務課長山本仁士退任、後任に乃一平八就任、防災担当次長兼指令管制課長に木村俊郎就任。北消防署長に藤澤利則、南消防署長に松本力就任

平成8年

- ◇高規格救急自動車（災害対応型）1台更新（6台運用）
- ◇消防長 下倉史郎退任、後任に木村俊郎就任。北消防署長 藤澤利則退任、後任に野田雅彰就任。南消防署長 松本力が防災担当次長兼指令管制課長に就任、後任に大塚善成就任。消防団長 奈須正好退任、後任に村岡慰詮就任。
- ◇第11回「大阪の消防大賞」において、福井県を旅行中、民家の火災現場に飛び込み、2才の女の子を救出した後、応急処置を施し一命を取りとめた功績により、北本署第1救急救助係 迫田武也消防士長が消防大賞を受賞
- ◇救助隊が第25回消防救助技術近畿地区指導会において「ほふく救出」第1位、「斜めブリッジ救助」第2位で、全国大会に出場し2年連続入賞を果たした。
- ◇豊中防火安全協会からテント7張の寄贈を受ける。

- ◇11月25日 従業員寮（上津島）出火。焼損面積124㎡、損害額27,818千円、死者3名、負傷者1名
- ◇三國製薬工業（株）から消防資機材搬送車1台及び事務用輪転機2台の寄贈を受ける。
- ◇豊中央ライオンズクラブから消防音楽隊用楽器、音楽隊員演奏服及び譜面台の寄贈を受ける。
- ◇消防職員401名・消防団員575名
- ◇消防ポンプ自動車30台・水槽付消防ポンプ自動車7台・はしご付消防ポンプ自動車4台・はしご付消防自動車3台・化学消防ポンプ自動車4台・小型動力ポンプ付水槽車1台・救助工作車2台・救急自動車11台・起震車1台
- ◇火災193件・救急12,400件

平成9年

- ◇高規格救急自動車1台更新（7台運用）
- ◇人員搬送車を災害対応消防人員搬送車に更新。
- ◇総務担当次長 乃一平八退任、後任に松本力就任。警防課長 中村 清が防災担当次長兼指令管制課長に就任。北消防署長 野田雅彰退任、後任に大塚善成就任。南消防署長に上村秀久就任。
- ◇4月20日 共同住宅（立花町）出火。焼損面積362㎡、損害額7,777千円、死者2名
- ◇4月27日 工場（中桜塚）出火。焼損面積721㎡、損害額41,049千円
- ◇第12回「大阪の消防大賞」において、救急事案に出場し、病者を車内へ収容後、呼吸及び脈拍の停止した病者に対して、特定行為等の適切な救急措置を実施、呼吸を再開させ救命し、社会復帰させた功績により、北消防署新千里出張所救急隊が消防大賞を受賞。
- ◇救助隊が、第26回消防救助技術近畿地区指導会において「ほふく救出」第1位及び第3位、「斜めブリッジ救助」第2位で3チーム全国大会に出場し、3年連続入賞を果たした。
- ◇阪神・淡路大震災で被害を受け建築中であつた南消防署新庁舎が完成し、8月7日竣工式を挙行、業務を開始する。この庁舎は、地上3階地下1階建、延べ面積2,200.96

m²、地階には講堂兼訓練室、1階は受付・車庫、2階は仮眠室・食堂、3階に事務所・会議室等があり、21世紀に向け地域住民と一体となった南部地域の防災の拠点としての役割を果たすことが可能となった。

- ◇消防職員 401 名・消防団員 575 名
- ◇消防ポンプ自動車 31 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付消防ポンプ自動車 4 台・はしご付消防自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 11 台・起震車 1 台
- ◇火災 176 件・救急 13,167 件

平成 10 年

- ◇2 月 21 日 消防音楽隊発足 20 周年記念演奏会をアクア文化ホールに於いて実施した。
- ◇豊中中央ライオンズクラブから音楽隊用楽器等の寄贈を受ける。
- ◇高規格救急自動車 1 台更新 (8 台運用)
- ◇総務担当次長 松本 力退任、後任に中村清就任。北消防署長 大塚善成が防災担当次長兼指令管制課長に就任。南消防署長 上村秀久が北消防署長に就任。南消防署長に森山秀明就任。
- ◇女性消防吏員 1 名採用、女性消防吏員合計 1 名、女性消防団員 15 名を任用。
- ◇4 月 2 日 阪神高速道路延伸に伴い、池田市、伊丹市、川西市との間の相互応援協定の一部改正を行った。
- ◇5 月 15 日 消防訓練場 (原田中 1-43-1、敷地面積 2,510.16 m²) を開設。照明灯を設置し夜間訓練可能。
- ◇第 42 回大阪府消防操法大会 3 位 (ポンプ車操法の部)
- ◇消防職員 401 名・消防団員 575 名
- ◇消防ポンプ自動車 31 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付消防ポンプ自動車 4 台・はしご付消防自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 11 台・起震車 1 台
- ◇火災 134 件・救急 14,583 件

平成 11 年

- ◇高規格救急自動車 1 台更新 (9 台運用)。全救急隊 (9 隊) が高規格救急自動車を運用することとなる。
- ◇4 月 1 日 消防防災情報システム完成
平成 3 年 4 月に導入した 2 代目消防指令管制システムの機器を更新し、機能の拡充を図り、前システムの機能を踏襲しつつ、新たにカーロケーションシステム、地図情報システム、消防職・団員召集システムを導入した。
- ◇4 月 7 日 共同住宅・商店街 (庄内栄町) 出火。焼損面積 1,300 m²、損害額 45,230 千円、死者 2 名。
- ◇4 月 12 日 機構改革により総務課が消防総務課に、職員係が総務係に統合され、警防課機械係が警備計画係に統合、また予防課危険物係、設備係が指導係となり、署については、予防広報課が廃止となり、予防係と業務係を統合した予防広報係に改められた。
- ◇消防職員実数 400 名となる。
- ◇(株) フクトから消防本部玄関ホール展示ショーケースの寄贈を受ける。
- ◇豊中中央ライオンズクラブから消防音楽隊用楽器等の寄贈を受ける。
- ◇7 月 30 日 共同住宅 (庄内幸町) 全焼。焼損面積 576 m²、損害額 18,000 千円、死者 9 人、負傷者 6 人。(年間の焼死者 16 名となる)
- ◇原田訓練場に消防訓練塔 (A 棟) が完成。訓練塔は、鉄骨造 3 階建、延床面積 110.79 m²、市内で発生するあらゆる災害に的確に対応し、市民の安心・安全を確保するための実災害に即した主体的な訓練が可能となった。
- ◇大阪府消防協会 竿頭綬を受章
- ◇消防職員 401 名・消防団員 575 名
- ◇消防ポンプ自動車 31 台・水槽付消防ポンプ自動車 7 台・はしご付消防ポンプ自動車 4 台・はしご付消防自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車 11 台・起震車 1 台
- ◇火災 157 件・救急 14,820 件

◇消防本部次長に中村清、次長兼指令管制課長に大塚喜成就任

平成12年

- ◇高規格救急自動車1台更新(10台運用)
- ◇消防吏員5名採用(うち1名女性消防吏員、女性消防吏員合計2名となり、消防職員398名)
- ◇消防団長 村岡慰詮退任、後任に西田 勇就任
- ◇7月1日 欠員補助のため2名採用(消防職員数397名となる)
- ◇7月16日 第15回「大阪の消防大賞」において、救急事案に出場し、呼吸及び心拍が停止した病者に対して、特定行為を実施しながらドクターカーの協力を得て、心拍を再開させ社会復帰させた功績により南消防署本署救急隊が消防大賞を受賞する。
- ◇8月28日 高規格救急自動車1台更新(11台全て高規格救急自動車となる)
- ◇12月23日 豊中央ライオンズクラブから消防音楽隊にマーチング用横断幕及び女性隊員用制服等の寄贈を受ける。
- ◇消防職員401名・消防団員575名
- ◇消防ポンプ自動車31台・水槽付消防ポンプ自動車7台・はしご付消防ポンプ自動車4台・はしご付消防自動車3台・化学消防ポンプ自動車4台・小型動力ポンプ付水槽車1台・救助工作車2台・救急自動車11台・起震車1台
- ◇火災171件・救急15,897件

平成13年

- ◇消防長 木村俊郎退任、後任に中村 清就任、次長兼消防総務課長に上村秀久、次長兼指令管制課長に梅田幸治、北消防署長に森山秀明、南消防署長に脇 康清就任。
- ◇消防吏員13名採用(うち女性消防吏員1名採用、女性消防吏員合計3名となる。消防職員398名)
- ◇消防署、指令管制課指令管制係の交替制勤務を2交替制から3交替制に変更する。また、消防署の組織にグループ制を採用、大規模災害時に瞬時に対応できる体制とし、同時に近年の救急需要の増加に対応する

ため、救急隊全隊(9隊)の専任化を図った。

- ◇4月1日 国際消防救助隊に救助隊員8名登録
- ◇原田消防訓練場に、訓練塔(B棟)鉄骨造3階建、延床面積131.40㎡が完成。これまでの訓練に加え、消防用設備等を活用した訓練などが可能となった。
- ◇高規格救急自動車(災害対応型)1台更新
- ◇消防ポンプ自動車を災害対応特殊消防ポンプ自動車に1台更新
- ◇小型動力ポンプ2台更新
- ◇9月7日 大阪府・豊能地区3市2町合同防災訓練を実施。(服部緑地公園にて)
- ◇10月23日 新千里出張所改修工事着工
- ◇第45回大阪府消防操法大会3位(ポンプ車操法の部)
- ◇消防職員401名・消防団員575名
- ◇消防ポンプ自動車31台・水槽付消防ポンプ自動車7台・はしご付消防ポンプ自動車4台・はしご付消防自動車3台・化学消防ポンプ自動車4台・小型動力ポンプ付水槽車1台・救助工作車2台・救急車自動11台・起震車1台
- ◇火災157件・救急16,468件

平成14年

- ◇豊中央ライオンズクラブから消防音楽隊用の楽器等の寄贈を受ける。
- ◇消防吏員6名採用(消防職員398名)
- ◇高規格救急自動車(災害対応型)2台更新
- ◇消防ポンプ自動車を災害対応特殊ポンプ自動車に1台更新
- ◇藤田元衛氏より救急訓練用資機材(外部心臓マッサージ教育用マネキン等)及び救急活動用資機材(半自動除細動器具血中酸素飽和度測定センサー等)の寄贈を受ける。
- ◇豊中南ライオンズクラブから応急手当普及啓発車の寄贈を受ける。
- ◇第17回「大阪の消防大賞」受賞(女性消防団員)
- ◇小型動力ポンプ3台更新
- ◇消防職員401名・消防団員575名
- ◇消防ポンプ自動車31台・水槽付消防ポンプ自動車6台・はしご付消防ポンプ自動車5台・化学消防ポンプ自動車4台・小型動

力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・
救急自動車(高規格救急自動車) 11 台・起
震車 1 台

◇火災 176 件・救急 16,745 件

平成 15 年

◇消防吏員 8 名採用(うち女性消防吏員 1 名
採用、女性消防吏員合計 4 名)

◇(定数)消防職員 399 名、消防団員 575 名

◇高規格救急自動車(災害対応型) 2 台更新

◇指揮車 1 台更新

◇消防ポンプ自動車 1 台更新

◇小型動力ポンプ 2 台更新

◇一声訪問事業を実施

市域内の高齢者や重度障害者など災害時
要援護者に対して、具体的で効果的な避難
誘導を行うため定期的な訪問を開始する。

◇6 月 19 日 市民救命サポーター制度発足
救急隊が到着するまでの病院前救護体制
として、市内 31 の給油所に市民救命サポ
ーターを委嘱した。

◇7 月 19 日 第 18 回「大阪の消防大賞」に
おいて、救急事案で出場し、心疾患により
心肺停止状態に陥った病者に対して、高度
救命処置を行い、心拍を再開し社会復帰さ
せた功績により、北消防署本署救急隊が消
防大賞を受賞する。

◇第 32 回消防救助技術近畿地区指導会にお
いて、「引揚救助」で第 2 位となり、全国
大会に出場し入賞した。

◇3 月 5 日 NBC 特殊災害対策専門班発足
蛍池出張所に N(RI)災害対策、新千里出張
所に B(バイオ・生物剤)災害対策、服部
出張所に C(毒劇物・化学剤)災害対策班
を発足させ、それぞれの出張所が NBC 災
害に対して専門的な知識を習得し、あらゆ
る特殊災害に備える体制を構築。

◇自治体消防発足 55 周年

◇日本消防協会 表彰旗を受章

◇消防ポンプ自動車 31 台・水槽付消防ポン
プ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車
3 台・はしご付消防自動車 2 台・化学消防
ポンプ自動車 4 台・小型動力ポンプ付水槽
車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車(高規
格救急自動車) 11 台・起震車 1 台

◇火災 140 件・救急 17,288 件

◇次長兼消防総務課長上村秀久退任、次長兼
指令管制課長に森山秀明、北消防署長に脇
康清、南消防署長に辻幸雄就任

平成 16 年

◇消防吏員 17 名採用(うち女性消防吏員 1
名採用、女性消防吏員合計 5 名)

◇高規格救急自動車(災害対応型) 1 台増強

◇指揮車、司令車各 1 台更新

◇消防ポンプ自動車 1 台更新

◇小型動力ポンプ 2 台更新

◇調査係の一元化

北・南署へ配置していた調査係を、指令管
制課へ配置し、本部機構として一元化を図
るとともに、指令管制課を指令情報課に改
めた。

◇豊中央ライオンズクラブから消防音楽
隊用楽器搬送車の寄贈を受ける。

◇第 33 回消防救助技術近畿地区指導会にお
いて、「はしご登はん」(個人)で第 2 位と
なり、全国大会に出場し入賞した。

◇緊急消防援助隊として初の出場

台風 23 号による集中豪雨により、兵庫県
豊岡市で円山川が決壊、周辺流域に住民約
800 名が孤立したため、緊急消防援助隊の
大阪府隊(計 44 隊)として 10 月 21 日・
22 日の両日 2 隊 10 名(ポンプ隊、救助工
作車)が出場し救助活動を行った。

◇(社)日本外交協会を通じ、ボリヴィア共
和国へはしご車(15m級)1 台を寄贈。

◇消防ポンプ自動車 31 台・水槽付消防ポン
プ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車
1 台・はしご付消防自動車 3 台・化学消防
ポンプ自動車 3 台・小型動力ポンプ付水槽
車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車(高規
格救急自動車) 12 台・起震車 1 台

◇火災 153 件・救急 18,022 件

◇次長兼消防総務課長に寺西平四郎就任、北
消防署長脇康清退任、後任に辻幸雄、南消
防署長に菅野喜三郎就任

平成 17 年

◇次長兼指令情報課長森山秀明退任、南消防
署長菅野喜三郎 次長兼予防課長に就任、
南消防署長に阿草一郎就任、北消防署長辻
幸雄退任、後任に芝本真児就任

- ◇消防職員 条例定数 398 名、実員 396 名
- ◇消防吏員 12 名採用（うち女性消防吏員 2 名採用、女性消防吏員合計 7 名）
- ◇高規格救急自動車 1 台更新
- ◇消防作業車 2 台更新
- ◇小型動力ポンプ（台車付）1 台更新
- ◇高度救助用資機材購入（画像探索機Ⅰ型・画像探索機Ⅱ型・地中音響探知機・熱画像直視装置・夜間用暗視装置）
- ◇緊急消防援助隊として出場
兵庫県尼崎市 J R 福知山線列車脱線事故で、緊急消防援助隊大阪府隊（計 38 隊）として 4 月 25 日救急隊 1 隊 3 名が出場し救急活動を行った。
- ◇6 月 30 日 消防士長福島祐貴殉職、同日付消防司令補に昇進
- ◇関西インドネシア友好協会を通じ、インドネシア共和国ティムール・テンガラ・セラタン県へ救急自動車 1 台寄贈
- ◇消防ポンプ自動車 31 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 1 台・はしご付消防自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 3 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 2 台・救急自動車(高規格救急自動車) 12 台・起震車 1 台
- ◇火災件数 140 件・救急件数 19,148 件

平成 18 年

- ◇消防長中村清退任、後任に次長兼予防課長菅野喜三郎就任、次長兼消防総務課長寺西平四郎退任、南消防署長阿草一郎次長兼予防課長に就任、後任に本郷進就任、参事兼消防総務課長に谷口伸夫就任
- ◇消防職員 条例定数 398 名、実員 398 名
- ◇消防吏員 10 名採用
- ◇消防ポンプ自動車 1 台更新
- ◇高規格救急自動車 1 台更新
- ◇救助工作車 1 台増強
- ◇豊中市社会福祉協議会より高規格救急自動車の寄贈を受ける。
- ◇豊中防火安全協会より小型動力ポンプ積載車（ミニ消防車）の寄贈を受ける。
- ◇救急振興財団より救急普及啓発車の寄贈を受ける。

- ◇三國製薬工業株式会社より乗用車及び作業車、心肺蘇生訓練用人形（リトルアン）の寄贈を受ける。
- ◇洲到止会より消防ポンプ自動車（消防団用）の寄贈を受ける。
- ◇8 月 22 日 一時間あたりの降水量 110 ミリという集中豪雨により、市内で床上浸水 64 戸、床下浸水 186 戸、道路冠水 23 ヶ所の被害を受ける。
- ◇消防ポンプ自動車 32 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 1 台・はしご付消防自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 3 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 3 台・救急自動車(高規格救急自動車) 13 台・起震車 1 台
- ◇火災件数 101 件・救急件数 19,143 件

平成 19 年

- ◇理事に阿草一郎就任、次長兼消防総務課長に谷口伸夫就任、北消防署長芝本眞児退任、後任に本郷進就任、南消防署長に梶山栄就任
- ◇消防職員 条例定数 398 名、実員 398 名
- ◇消防吏員 21 名採用（4 月採用 9 名（うち女性消防吏員 1 名採用）、10 月採用 12 名（うち女性消防吏員 1 名採用）、女性消防吏員合計 8 名（1 名退職））
- ◇消防ポンプ自動車 1 台更新
- ◇高規格救急自動車 1 台更新
- ◇化学消防ポンプ自動車 1 台更新
- ◇水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新
- ◇消防人員搬送車 1 台更新
- ◇小林正利氏より救急訓練用資機材（蘇生法教育簡易モデル 1 体等）の寄贈を受ける。
- ◇豊中ライオンズクラブより豊中市消防音楽隊発足 30 周年記念演奏会開催関係費用一式の寄付を受ける。
- ◇日本外交協会を通じコロンビア共和国へ消防ポンプ自動車 1 台無償譲渡
(社)豊中青年会議所を通じタイ共和国へ救急自動車 1 台無償譲渡
- ◇第 51 回大阪府消防操法訓練大会 2 位（ポンプ車操法の部）
- ◇10 月 25 日 第 18 回全国女性消防操法大会で豊中市女性消防隊が優秀賞（銅メダル）、3 番員が優秀選手賞を獲得する。

- ◇11月9日 第10回消防広報コンクールで豊中市消防本部ホームページが入選する。
- ◇消防防災協力事業所登録制度発足（11月）地震などの大規模災害発生時において、現有消防力では対応できない場合に、事業所の自主的な判断により保有する資機材を活用し、人命救助活動などに協力していただく制度
- ◇消防ポンプ自動車 32 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 1 台・はしご付消防自動車 3 台・化学消防ポンプ自動車 3 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 3 台・高規格救急自動車 13 台・起震車 1 台
- ◇火災件数 103 件・救急件数 18,434 件

平成20年

- ◇消防長 菅野喜三郎退任、後任に谷口伸夫就任、次長兼警防課長に岸田治雄就任、北消防署長本郷進退任、後任に梶山栄就任、南消防署長に小東史明就任。消防団長 西田勇退任、後任に関正継就任
- ◇消防職員 条例定数 392 名、実員 400 名
- ◇消防吏員 21 名採用（4 月採用 8 名、10 月採用 13 名）
- ◇再任用制度開始 10 名採用
団塊の世代の大量退職に対応するため、退職者の再任用を実施する。
- ◇2月17日 消防音楽隊 30 周年記念演奏会開催（市民会館大ホール）
- ◇3月7日 自治体消防制度 60 周年記念式典に本郷署長、西田団長、鶴川副団長出席
- ◇消防ポンプ自動車 1 台更新
- ◇化学消防ポンプ自動車 1 台更新
- ◇水槽付ポンプ自動車 1 台更新
- ◇消防司令車 1 台更新
- ◇支援車 1 台更新
- ◇消防ポンプ自動車 32 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 1 台・はしご付消防自動車 2 台・化学消防ポンプ自動車 3 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 3 台・高規格救急自動車 13 台
- ◇火災 103 件・救急 17,383 件

平成21年

- ◇理事 阿草一郎退任、後任に岸田治雄就任、次長兼消防総務課長に能島穂積就任、次長兼予防課長に岩間東二就任、北消防署長 梶山栄退任、後任に小東史明就任、南消防署長に荒木秀夫就任
- ◇消防職員 条例定数 392 名、実員 402 名
- ◇消防吏員 22 名採用（4 月採用 10 名、10 月採用 12 名）
- ◇再任用職員 9 名採用
- ◇2月25日 豊中市消防団が消防庁長官から消防団等地域活動表彰を受賞する。
- ◇10月1日 北消防署桜井谷出張所救助隊運用開始
- ◇豊中中央ライオンズクラブより北摂4市消防音楽隊合同演奏会開催にあたり協賛を受ける。
- ◇レンタカー会社と提携した、災害時におけるレンタカーによる救急搬送体制を確立
- ◇豊中千里ロータリークラブより CPR&AED パーソナルトレーニングキットの寄贈を受ける。
- ◇救助工作車（Ⅲ型）1 台更新
- ◇はしご付消防自動車（35m）1 台更新
- ◇高規格救急自動車 2 台更新
- ◇消防ポンプ自動車（常備）1 台更新
- ◇予防広報車 1 台更新
- ◇高度救助用資機材（地震警報器）1 器購入
- ◇水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新
- ◇調査車 1 台更新
- ◇消防ポンプ自動車 32 台・水槽付消防ポンプ自動車 6 台・はしご付消防ポンプ自動車 1 台・はしご付消防自動車 2 台・化学消防ポンプ自動車 3 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 3 台・高規格救急自動車 13 台
- ◇火災 114 件・救急 17,368 件

平成22年

- ◇理事 岸田治雄退任、次長に向井次男就任、北消防署長 小東史明退任、後任に荒木秀夫就任、南消防署長に田中輝雄就任
- ◇消防職員 条例定数 390 名、実員 403 名
- ◇消防吏員 24 名採用（4 月採用 10 名、10 月採用 14 名）
- ※再任用職員 15 名採用

- ◇1月10日 豊中市長により「救命力世界一宣言」がなされる。
- ◇ジュニア救命サポーター制度発足（4月）
市内の小学5年または6年生を対象に「命の大切さ」「心肺蘇生法やAEDなどの救命技術」を学んでいただき、学童期から救急手当の重要性と必要性を根付かせることで、「救命力」の向上につなげる制度
- ◇第39回消防救助技術近畿地区指導会において、「引揚救助」で第2位となり、全国大会に出場し入賞した。
- ◇9月5日 大阪府消防操法大会において豊中市消防団がポンプの部で優勝し、全国大会に出場した。
- ◇9月11日 豊中市民会館において「救命力世界一シンポジウム」を開催した。
- ◇豊中千里ロータリークラブより CPR&AED パーソナルトレーニングキットの寄贈を受ける。
- ◇日本消防協会 竿頭綬を受章
- ◇第54回大阪府消防操法大会優勝（ポンプ車操法の部）
- ◇はしご付消防自動車（35m）1台更新
- ◇高規格救急自動車1台更新
- ◇消防ポンプ自動車（常備）1台更新
- ◇消防司令車1台更新
- ◇応急手当普及啓発車1台増強
- ◇消防ポンプ自動車（非常備）3台更新
- ◇小型動力ポンプ（常備）2台更新
- ◇消防ポンプ自動車32台・水槽付消防ポンプ自動車6台・はしご付消防自動車3台・化学消防ポンプ自動車3台・小型動力ポンプ付水槽車1台・救助工作車3台・高規格救急自動車13台・小型動力ポンプ39台
- ◇火災116件・救急18,551件

平成23年

- ◇次長 向井次男退任、次長に田中輝雄就任、北消防署長 荒木秀夫退任、後任に葭田勝康就任、南消防署長に上田弘昭就任
- ◇消防職員 条例定数383名、実員406名
消防吏員11名採用（4月採用4名、10月採用7名）
※再任用職員24名採用
- ◇4月1日 市の組織・機構改革により、消防総務課を消防総務室とし、消防総務室に

消防総務チーム及び消防企画チームを設置した。

また、北・南消防署の予防広報担当を予防広報課に、第1・2・3警備担当を第1・2・3警備課とした。

◇緊急消防援助隊として出場

3月11日14時46分、三陸沖の深さ24kmを震源として、我が国観測史上最大のマグニチュード9.0の地震が発生し、東北地方を中心とした広範な地域に甚大な被害をもたらした。本市からは、緊急消防援助隊大阪府隊（計105隊・403名）として、3月11日、消火隊4隊17名、救助隊2隊10名、救急隊4隊12名、後方支援隊2隊6名の計12隊、延べ45名が出場し、津波により甚大な被害を受けた岩手県大槌町において、人命検索・救助活動及び救急活動を行った。

◇3月26日～31日 大阪府食料物資班として、東北地方太平洋沖地震の被災地へ職員1名を派遣、自治体支援業務を実施した。

◇8月20日～24日 消防音楽隊が東日本大震災で被災した岩手県沿岸部の4市町（大槌町・陸前高田市・大船渡市・宮古市）の小・中学校を訪問し、「豊中市消防音楽隊 東日本大震災応援きやらばん隊」として演奏活動を行った。

◇10月15日 豊島公園において「救命力世界一」チャレンジ防災フェスタを開催し、救命講習に3,250名の市民が参加し、応急手当を学んだ。

◇豊中千里ロータリークラブより CPR&AED パーソナルトレーニングキットの寄贈を受ける。

◇豊中中央ライオンズクラブより、本市消防音楽隊の東日本大震災復興応援演奏会開催にあたり協賛を受ける。

◇救助工作車（小型水槽付）1台更新

◇高規格救急自動車1台更新

◇化学消防ポンプ自動車1台更新

◇消防ポンプ自動車（常備）2台更新

◇消防ポンプ自動車（非常備）3台更新

◇小型動力ポンプ（常備）2台更新

◇小型動力ポンプ（非常備）1台更新

◇消防ポンプ自動車32台・水槽付消防ポンプ自動車6台・はしご付消防自動車3台・

化学消防ポンプ自動車 3 台・小型動力ポンプ付水槽車 1 台・救助工作車 3 台・高規格救急自動車 13 台・小型動力ポンプ 39 台
◇火災 110 件・救急 19,017 件

平成 24 年

- ◇次長 田中輝雄退任、次長兼消防総務室長に井ノ本学就任、北消防署長 葭田勝康退任、後任に瀬古博也就任、南消防署長 上田弘昭退任、後任に古山巖就任
- ◇消防職員 条例定数 383 名、実員 406 名
消防吏員 16 名採用（4 月採用 5 名、10 月採用 11 名）
※再任用職員 23 名採用
- ◇2 月 9 日 岩手県大船渡市立第一中学校の生徒 25 名と教師 2 名、計 27 名が、平成 23 年に消防音楽隊が訪問演奏活動を行ったお礼に、消防本部を訪問し、音楽隊と交流活動を行った。
- ◇4 月 1 日 本市の中核市移行に合わせ、高度救助隊（愛称「HEAVY RESCUE TEAM（ヘビー・レスキュー・チーム）」が発隊した。
- ◇第 27 回「大阪の消防大賞」において、平成 23 年 11 月 9 日に吹田市で発生した火災において、危険をかえりみず室内にいた要救助者を救出した功績により、南消防署主幹野村俊之消防司令長が消防大賞を受賞
- ◇全国消防団員意見発表会 優良賞を受賞
- ◇豊中中央ライオンズクラブより、本市消防音楽隊の定期演奏会開催にあたり協賛を受ける。
- ◇9 月 19 日 株式会社タニモトから災害用組立式シャワー 1 基の寄贈を受ける。
- ◇11 月 9 日 市民（柳田満智子氏）より、ジュニア救命サポーター事業応急手当普及啓発指導モデル式の寄贈を受ける。
- ◇豊中千里ロータリークラブより CPR&AED パーソナルトレーニングキットの寄贈を受ける。
- ◇神戸インドネシア友好協会を通じインドネシア共和国へ消防ポンプ自動車 1 台、救助工作車 1 台、救急自動車 1 台を有償譲渡
- ◇高規格救急自動車 2 台更新
- ◇消防ポンプ自動車（常備）2 台更新

◇消防ポンプ自動車（非常備）3 台更新
◇はしご付消防ポンプ自動車 1 台更新
◇水槽付消防ポンプ自動車 1 台更新
◇予防広報車 1 台更新
◇火災 109 件・救急 19,464 件

平成 25 年

- ◇消防職員 条例定数 381 名、実員 407 名
消防吏員 17 名採用（4 月採用 9 名、10 月採用 8 名）
※再任用職員 26 名採用
- ◇4 月 1 日 ベテラン救急救命士で構成する「119 救命サポートチーム」が発足
- ◇消防庁長官表彰 竿頭綬を受賞
- ◇第 28 回「大阪の消防大賞」において、平成 22 年の「救命力世界一」宣言の所管課として、救命力世界一推進に係る一連の功績により、救急救命課が消防大賞を受賞
- ◇7 月 8 日 池田市と「豊中市と池田市における消防指令業務の共同運用に関する確認書」を取り交わす。
- ◇8 月 25 日 大雨により、市内で床上浸水 3 戸、床下浸水 121 戸、道路冠水 34 ヶ所の被害を受ける。
- ◇9 月 3 日 池田市消防本部、能勢町と「消防の広域連携に関する確認書」を取り交わす。
- ◇9 月 21 日 防災救急フェスタ 2013 が野田中央公園で実施され、約 1,500 人が参加した。
- ◇第 57 回大阪府消防操法大会 優勝（ポンプ車操法の部）
- ◇第 1 回大阪府下警防技術指導会 優秀賞を受賞
- ◇三栄源エフ・エフ・アイ株式会社から高規格救急自動車 1 台の寄贈を受ける。
- ◇豊中千里ロータリークラブより CPR&AED パーソナルトレーニングキットの寄贈を受ける。
- ◇高規格救急自動車 2 台更新
- ◇消防ポンプ自動車（常備）1 台更新
- ◇消防ポンプ自動車（非常備）1 台更新
- ◇小型動力ポンプ（常備）3 台更新
- ◇小型動力ポンプ（非常備）2 台更新
- ◇火災 117 件・救急 20,175 件

平成26年

- ◇消防長 谷口伸夫退任、後任に井ノ本学就任、次長能島穂積退任、次長兼消防総務室長に中川和也就任、次長兼警防課長に竹本太吉就任、次長兼救急救命課長に濱西正吉就任、北消防署長 瀬古博也退任、後任に古山巖就任、南消防署長に下村義和就任。消防団長 関正継退任、後任に田中照浩就任
- ◇消防職員 条例定数 379 名、実員 407 名 消防吏員 35 名採用（4 月採用 7 名、10 月採用 28 名）
※再任用職員 28 名採用
- ◇4 月 1 日新千里西町に移転改築した北消防署新千里出張所新庁舎の運用開始
- ◇4 月 1 日特別消火隊を発隊。「消火に関する特別な隊」という意味と、迅速な消火というスピード感から「FAST（ファスト：Fire Attack Special Team）」の愛称を付ける。
- ◇第2回大阪府下警防技術指導会 優秀賞を受賞
- ◇10 月 3 日 能勢町と「能勢町と豊中市との間における消防事務の委託に関する協議書」を締結
- ◇豊中千里ロータリークラブより乳児 CPR 学習キットミニベビーの寄贈を受ける。
- ◇豊中央ライオンズクラブから本市消防音楽隊に楽器の寄贈を受ける。
- ◇能勢町に化学消防ポンプ自動車 1 台、高規格救急自動車 1 台、小型動力ポンプ付水槽車、小型動力ポンプ 2 台を無償譲渡する。
- ◇高規格救急自動車 1 台更新
- ◇消防ポンプ自動車（常備）3 台更新
- ◇化学消防ポンプ自動車 1 台更新
- ◇小型動力ポンプ付水槽車 1 台更新
- ◇予防広報車 1 台更新
- ◇小型動力ポンプ（常備）4 台更新
- ◇小型動力ポンプ（非常備）3 台更新
- ◇火災 110 件・救急 20,839 件

平成27年

- ◇次長兼警防課長竹本太吉退任、次長兼救急救命課長濱西正吉退任、次長に古山巖就任、次長兼指令情報課長に堀部純司就任、北消

防署長に下村義和就任、南消防署長に池尾浩就任

- ◇消防職員 条例定数 397 名、実員 430 名 消防吏員 14 名採用（4 月採用 9 名、10 月採用 5 名）
※再任用職員 34 名採用
- ◇2 月 23 日 池田市と「豊中市・池田市消防指令業務共同運用に係る消防応援協定」を締結
- ◇4 月 1 日 「能勢町と豊中市との間における消防事務の委託に関する協定」を締結し、能勢町の消防業務を開始、豊中市北消防署能勢町分署を開設
- ◇4 月 1 日 豊中市・池田市消防指令業務の運用開始
- ◇4 月 1 日 広域的な業務を開始したことを契機に、消防組織の名称を「豊中市消防局」に変更
- ◇4 月 1 日 池田市、箕面市、豊能町及び能勢町と「大阪府豊能地域広域消防相互応援協定」を締結
- ◇4 月 1 日 京都中部広域消防組合、能勢町及び亀岡市と「京都中部広域消防組合・能勢町・亀岡市・豊中市消防相互応援協定書」を締結
- ◇4 月 1 日 川西市及び能勢町と「豊中市・川西市・能勢町消防相互応援協定」を締結
- ◇4 月 1 日 能勢町及び猪名川町と「能勢町・猪名川町・豊中市消防相互応援協定」を締結
- ◇4 月 1 日 篠山市及び能勢町と「篠山市・能勢町・豊中市消防相互応援協定」を締結
- ◇7 月 4 日 第 30 回「大阪の消防大賞」において、平成 26 年 12 月に吹田市で発生した救急事案において、他のバイスタンダーと連携して応急救護を実施し、傷病者を社会復帰に導いた功績により、北消防署主事 中島慶太消防士長が消防大賞を受賞
- ◇第 44 回消防救助技術近畿地区指導会（7 月 19 日）において、「障害突破」で第 2 位となり、全国大会（8 月 29 日）に出場し入賞した。
- ◇11 月 25 日 第 3 回大阪府下警防技術指導会で最優秀賞を受賞
- ◇豊中千里ロータリークラブより乳児 CPR 学習キットミニベビーの寄贈を受ける。

◇豊中中央ライオンズクラブから本市消防音楽隊に楽器の寄贈を受ける。

◇高規格救急自動車 1 台更新

◇消防ポンプ自動車（常備）1 台更新

◇小型動力ポンプ（台車付）（常備）4 台更新

◇火災 94 件・救急 22,094 件

平成 28 年

◇次長古山巖退任、次長兼指令情報課長堀部純司退任、次長に井上誠就任、次長に下村義和就任、北消防署長に池尾浩就任、南消防署長に野村俊之就任

◇消防職員 条例定数 403 名、実員 426 名
消防吏員 11 名採用（4 月採用 6 名、10 月採用 5 名）

※再任用職員 26 名採用

◇4 月 1 日 消防・救急救命体制の充実強化を図る事業に活用するため、「消防・防災救命基金」を設置し、基金の愛称を「“守る力” 救命力世界一基金」とした。

◇緊急消防援助隊として出場

4 月に熊本県熊本地方で発生した地震は、14 日と 16 日の 2 回震度 7 を記録する前例のない災害になった。本市からは、緊急消防援助隊大阪府隊として、4 月 16 日から、救助隊 2 隊 10 名、救急隊 6 隊 18 名、後方支援隊 2 隊 6 名の計 10 隊、延べ 34 名が出場し、甚大な被害を受けた熊本県阿蘇郡南阿蘇村において、人命検索・救助活動及び救急活動を行った。

◇尾西良一氏から軽消防自動車 9 台の寄贈を受ける。

◇豊中防火安全協会から「マチカネくん」消防バージョンの着ぐるみ及び自動火災報知設備演習用パネルの寄贈をうける。

◇豊中千里ロータリークラブから小児 CPR トレーニング用マネキンの寄贈を受ける。

◇豊中中央ライオンズクラブから本市消防音楽隊に音楽隊演奏服の寄贈を受ける。

◇第 60 回大阪府消防操法訓練大会 2 位（ポンプ車操法の部）

◇高規格救急自動車 2 台更新

◇原付バイク 3 台更新

◇能勢町に軽トラック（小型動力ポンプ積載可能）1 台購入

◇火災 92 件・救急 22,673 件

平成 29 年

◇次長下村義和退任、次長兼消防総務課長に小倉博就任

◇消防職員 条例定数 401 名、実員 430 名
消防吏員 8 名採用（4 月採用 4 名、10 月採用 4 名）※再任用職員 30 名採用

◇全国消防音楽隊フェスティバルの開催
豊中市制 80 周年記念事業の一環として、「安全で安心して暮らしができるまちづくり」の推進と「音楽あふれるまちとよなか」全国に発信することを目的として、「つながる ひろがる とよなか 〜響かせよう防火・防災の輪〜」をテーマに 3 月 18 日、19 日の 2 日間にわたり開催した。

◇国際消防救助隊（IRT-JF）への隊員派遣
平成 29 年 9 月 20 日 3 時 14 分頃（日本時間）に発生したメキシコ地震災害に対して、日本政府が派遣した国際緊急援助隊・救助チーム（総員 72 名）の一員として、本市は国際消防救助（IRT-JF）に登録している救助隊員 1 名を派遣した。メキシコに派遣された国際消防救助隊は東京消防庁のほか 7 消防本部の救助隊員 17 名で構成され、9 月 21 日（日本時間）に出発し、現地に到着した後、直ちに活動を始め、同月 26 日に活動を終了するまで、首都メキシコシティー中心部の被災地 3 箇所において、検索・救助活動を実施した。

◇豊中市社会福祉協議会より高規格救急自動車の寄贈を受ける。

◇豊中千里ロータリークラブから乳児 CPR トレーニング用マネキンの寄贈を受ける。

◇豊中中央ライオンズクラブから本市消防音楽隊にテナーサクソフォン及び P A ミキサー一式の寄贈を受ける

◇能勢町の高規格救急自動車 1 台更新

◇消防ポンプ自動車（常備）1 台更新

◇小型動力ポンプ（台車付）（常備）1 台更新

◇原付バイク 3 台更新

◇火災 95 件・救急 23,827 件

平成30年

◇次長井上誠退任、次長に池尾浩就任、北消防署長に野村俊之就任、南消防署長に片岡邦恭就任

◇消防職員 条例定数 402 名、実員 426 名
消防吏員 14 名採用（4 月採用 6 名、10 月採用 8 名）※再任用職員 28 名採用

◇大阪府北部を震源とする地震発生

6 月 18 日午前 7 時 58 分頃、大阪府北部において震度 6 弱、マグニチュード 6.1 という大規模な地震が発生、本市でも震度 5 強を観測し、災害対策本部を設置した。

（市内の被害状況(令和元年 6 月 11 日時点)）

- ・負傷者 39 名
- ・全壊 3 件
- ・大規模半壊 1 件
- ・半壊 30 件
- ・一部損壊 2,711 件

◇緊急消防援助隊として出場

「平成 30 年 7 月豪雨」の被災地・広島県に緊急消防援助隊大阪府大隊として、7 月 6 日から 8 月 1 日までの間、本市から、18 隊、延べ 69 名が出場し、救急、救助及び後方支援活動を行った。

◇台風 21 号

9 月 4 日に 25 年ぶりに「非常に強い」勢力で日本に上陸し、近畿地方を中心に甚大な被害を出し、本市でも災害対策本部を設置した。

（市内の被害状況(令和元年 6 月 11 日現在)）

- ・死者 1 名
- ・負傷者 13 名
- ・全壊 1 棟
- ・大規模半壊 1 棟
- ・半壊 43 棟
- ・一部破損 3,125 棟

◇豊中千里ロータリークラブから SAM ターケット（止血帯） - EMS 用の寄贈を受ける。

◇豊中央ライオンズクラブから本市消防

音楽隊にクラリネット及びバスドラム一式の寄贈を受ける。

◇高規格救急自動車 1 台更新

◇消防ポンプ自動車（常備）1 台更新

◇火災 74 件・救急件数 24,808 件

令和元年

◇消防局長 井ノ本学退任、後任に小倉博就任、次長中川和也退任、次長兼消防指令センター長に池尾浩就任、次長兼消防総務課長に片岡邦恭就任、次長兼警防課長に入佐桂司就任、北消防署長 野村俊之退任、後任に乾文雄就任、南消防署長に中井正平就任、新千里消防署長に常松幸雄就任。

◇消防職員 条例定数 408 名、実員 426 名
消防吏員 11 名採用（4 月採用 9 名、10 月採用 2 名）※再任用職員 17 名採用

◇2 月 27 日 豊中防火安全協会・福盛康友会長が一日消防局長を実施。

◇4 月 1 日 新千里消防署を設置
北消防署新千里出張所を新千里消防署とし、北消防署の管轄であった東泉丘出張所と桜井谷出張所を新千里消防署の管轄とした。

◇4 月 1 日 指揮調査隊の発足
北・南消防署に各 1 隊配置の指揮隊と消防局警防課に配置の調査隊を「指揮調査隊」に一局化した。

◇4 月 1 日 特別消火隊の再編成
北・南消防署に各 1 隊配置されていた特別消火隊を北消防署本署の 1 隊に再配置した。

◇4 月 1 日 「指令情報課」から「消防指令センター」に名称を変更する。

◇4 月 1 日 特殊災害対策専門班の再編成
新千里消防署開設に伴い、市内全ての消防出張所で担当していたそれぞれの専門班を 3 管轄署所での担当とした。

◇6 月 28 日・29 日に G20 大阪サミットが大阪市内で開催されたことに伴い、6 月 24 日から 6 月 30 日までの間、本市職員 73 名を含む約 450 人の体制で、主に大阪国際空港と高速道路の警備及び予防にあたった。

- ◇第 48 回消防救助技術近畿地区指導会（7 月 20 日）において、「障害突破」で第 2 位となり、全国大会に出場し入賞した。
- ◇第 63 回大阪府消防操法大会 2 位（ポンプ車操法の部）
- ◇豊中防火安全協会から消防署旗等の寄贈を受ける。
- ◇豊中千里ロータリークラブから救急訓練用 AED の寄贈を受ける。
- ◇豊中中央ライオンズクラブから本市消防音楽隊にトランペットの寄贈を受ける。
- ◇高規格救急自動車 2 台更新
- ◇消防ポンプ自動車（常備）1 台更新
- ◇火災 71 件・救急件数 25,025 件

令和 2 年

- ◇次長兼消防指令センター長 池尾浩退任、消防指令センター長に田中慎也就任、南消防署長 中井正平退任、後任に山本政明就任。
- ◇消防職員 条例定数 411 名、実員 424 名
消防吏員 7 名採用（4 月採用 6 名、10 月採用 1 名）※再任用職員 18 名採用
- ◇1 月 29 日 新型コロナウイルス感染症に係る「豊中市危機管理対策本部」設置
- ◇4 月 7 日 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言（同年 5 月 21 日まで）
- ◇4 月 7 日 「豊中市新型コロナウイルス感染症対策本部」設置
- ◇第 49 回全国消防救助技術大会及び第 49 回消防救助技術近畿地区指導会が新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴い延期となる。
- ◇12 月 4 日 新型コロナウイルス感染状況により、大阪府「レッドステージ（非常事態）」に移行
- ◇3 月 2 日 株式会社ミズノマリから水難救助用ボート 2 艇の寄贈を受ける。
- ◇5 月 15 日 豊中防火安全協会から不織布マスク 1 万枚の寄贈を受ける。
- ◇5 月 26 日 豊建商事株式会社から創業 90 周年事業として、応急手当普及啓発車 1 台の寄贈を受ける。

- ◇6 月 26 日 市民から 1 千万円の寄附を受け、高規格救急自動車購入資金に充てる。
- ◇8 月 19 日 大塚製薬株式会社から熱中症予防ステッカーの寄贈を受ける。
- ◇豊中千里ロータリークラブから点滴静注シミュレータの寄贈を受ける。
- ◇豊中中央ライオンズクラブから本市消防音楽隊にテナーバストロンボーン及びフルートの寄贈を受ける。
- ◇救助工作車 1 台更新
- ◇高規格救急自動車 1 台更新
- ◇消防ポンプ自動車（常備）1 台更新
- ◇小型動力ポンプ（台車付）（非常備）1 台更新
- ◇火災 83 件・救急 22,659 件
- ◇35 年ぶりに火災による死者が 0 人となる。

令和 3 年

- ◇北消防署長 乾文雄退任、後任に末次博之就任、南消防署 山本政明退任、後任に三好秀也就任。
- ◇消防職員 条例定数 411 名、実員 424 名
消防職員 7 名採用（4 月採用 4 名、10 月採用 3 名）※再任用職員 23 名採用
- ◇1 月 1 日 昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染状況により、大阪府「レッドステージ（非常事態）」継続
- ◇2 月 1 日 豊中市・吹田市・池田市・箕面市・摂津市消防通信指令事務協議会設置
- ◇4 月 1 日 北消防署能勢町分署新庁舎の運用開始
- ◇4 月 5 日 改築した桜塚分団屯所（地域共生センター併設）の運用開始
- ◇4 月 13 日 豊中防火安全協会 福盛康友会長逝去
- ◇6 月 26 日 西口定雄氏が豊中防火安全協会会長に就任
- ◇7 月 3 日 大雨で増水した川の激流から要救助者を救助した功績により北消防署第 2 救助係が第 36 回「大阪の消防大賞」を受賞した。
- ◇第 49 回全国消防技術大会及び第 49 回消防救助技術近畿地区指導会が新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止となる。

- ◇7月28日 市民から4千万円の寄附を受け、高規格救急自動車購入資金に充てる。
- ◇豊中千里ロータリークラブから CPR トレーニング用マネキン(乳児用、小児用)の寄贈を受ける。
- ◇豊中中央ライオンズクラブから本市消防音楽隊にピッコロ及びトロンボーンの寄贈を受ける。
- ◇高規格救急自動車1台更新
- ◇小型動力ポンプ(台車付)(非常備)2台更新
- ◇火災82件・救急22,509件

令和4年

- ◇北消防署長 末次博之退任、後任に常松幸雄就任、新千里消防署 田中慎也就任。
- ◇消防職員 条例定数411名、実員424名
消防職員6名採用(4月採用5名、10月採用1名)※再任用職員21名採用
- ◇7月28日 「豊中市消防局新型インフルエンザ等消防業務対応マニュアル」に基づき、人員計画を発動
- ◇9月20日 上記人員計画の解除
- ◇10月27日 花王グループマーケティング株式会社と連携した感染症予防啓発ステッカーによる広報開始
- ◇第50回全国消防救助技術大会及び第50回消防救助技術近畿地区指導会が3年ぶりに開催される。
- ◇豊中千里ロータリークラブからショルダータイプ噴霧器の寄贈を受ける。
- ◇豊中中央ライオンズクラブから本市消防音楽隊にグロッケンシュピールの寄贈を受ける。
- ◇高規格救急自動車3台更新(内、能勢町1台)
- ◇災害対応特殊化学車1台更新
- ◇機材搬送車1台更新
- ◇小型動力ポンプ(常備)2台更新
- ◇小型動力ポンプ積載車(非常備)1台更新
- ◇火災80件・救急27,493件

令和5年

- ◇次長兼警防課長 入佐桂司退任 南消防署長 三好秀也退任、後任に田中慎也就任、新千里消防署 高津貞夫就任
- ◇消防職員 条例定数412名、実員420名
消防職員9名採用(4月採用7名、10月採用2名)
- ◇豊中市災害対応ドローン隊「K I T E(カイト)」発隊。
- ◇第51回消防救助技術近畿地区指導会(7月22日)において、「ほふく救出」で第1位となり、北海道札幌市で行われた全国大会に出場。
- ◇3月12日 本市消防音楽隊の発隊45周年記念及び春の火災予防運動の一環として、「音楽あふれるまちとよなか 防火・防災フェスティバル〜豊中市消防音楽隊45周年記念演奏会〜」を開催する。
- ◇4月1日 令和7年10月まで行われる建築・設備審査研修(大阪・関西万博コース)へ職員1名を派遣。
- ◇5月8日 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行
- ◇5月8日 「豊中市新型コロナウイルス感染症対策本部」廃止
- ◇5月31日 第7回予防業務優良事例表彰において豊中市消防局が優秀賞を受賞
- ◇6月14日 田中照浩消防団長が大阪府消防協会会長に就任
- ◇6月22日 田中照浩消防団長が日本消防協会副会長に就任
- ◇9月9日 本市出身のピアニスト、西村由紀江氏を1日消防署長として任命し「救急の日」音楽フェスタを開催
- ◇11月3日 吉本興業所属のミサイルマン西代洋氏を1日消防署長として任命し消防ふれあいフェスタを開催
- ◇高規格救急自動車1台更新
- ◇消防ポンプ自動車(常備)2台更新
- ◇火災98件 救急27,810件

令和6年

- ◇参事兼消防指令センター長 高橋信一就任。
- ◇消防団長 田中照浩退任、後任に佐藤正敏就任。
- ◇消防職員 条例定数 412 名、実員 420 名
消防職員 10 名採用（4 月採用 3 名、10 月採用 7 名）※再任用職員 12 名採用
- ◇豊中市（能勢町）・吹田市・池田市・箕面市（豊能町）・摂津市の 5 市による「北大阪消防指令センター」の共同運用開始。
- ◇緊急消防援助隊として出場
「能登半島地震」の被災地・石川県に緊急消防援助隊大阪府大隊として、1 月 1 日から 2 月 2 日までの間、本市から、13 隊、延べ 53 名が出場し、救急、救助活動を行った。
「奥能登豪雨」の被災地・石川県輪島市に緊急消防援助隊大阪府土砂風水害機動支援部隊として、9 月 21 日から 10 月 3 日までの間、本市から 2 名が出場し、救助活動を行った。
- ◇平日の昼間帯に活動する本署救急隊創設。
- ◇第 68 回大阪府消防操法大会 2 位（ポンプ車操法の部）
- ◇3 月 31 日 改築した蛍池分団屯所の運用開始。
- ◇4 月 1 日 大阪府下広域消防相互応援協定を再締結。
- ◇8 月 1 日 池田市、箕面市と「火災調査業務の相互応援に係る申し合わせ」を締結。
- ◇11 月 1 日 指導機関員制度創設
- ◇高規格救急自動車 2 台更新
- ◇消防ポンプ自動車（常備）2 台更新
- ◇消防ポンプ自動車（非常備）6 台更新
- ◇消防作業車 1 台更新
- ◇火災 76 件・救急 28,473 件

令和7年

- ◇次長兼救急救命課長 片岡邦恭退任、後任に次長兼消防総務課長 高橋信一就任、参事兼消防指令センター長 寺岡洋就任。
- ◇消防職員 条例定数 413 名、実員 422 名

- 消防職員 14 名採用（4 月採用 11 名、10 月採用 3 名）※再任用職員 11 名採用
- ◇大阪・関西万博の開催に伴い 7 名の職員を派遣。災害対応及び火災予防業務に従事した。
- ◇令和 7 年度救急医療功労者表彰式において、松下消防司令が大阪府医師会長表彰を受賞。
- ◇第 10 回大阪府下警防技術指導会において特別消火隊が優秀賞を受賞。
- ◇5 月 29 日 消防団入団促進を目的に、市内阪急バスにラッピングを施し、市民向け広報を開始。
- ◇5 月 31 日 豊中市少年消防クラブ（通称マチカネ消防隊）発隊。
- ◇10 月 1 日 マイナ保険証から傷病者の情報を取得し、救急業務の円滑化を図るマイナ救急の実証事業開始。
- ◇10 月 12 日 豊中市災害対応ドローン隊が WRS（ワールドロボットサミット）に出場、トンネル事故対応の展示を実施。
- ◇11 月 18 日 関西エアポートオペレーションサービス株式会社と空港消防隊員派遣研修に関する協定締結。
- ◇高規格救急自動車 2 台更新
- ◇消防作業車 1 台更新
- ◇小型動力ポンプ（非常備）11 台更新
- ◇火災 69 件・救急 27,777 件

消 防 年 報

令和 7 年（2025 年）版
令和 8 年（2026 年）7 月

編集・作成 豊中市消防局 消防総務課
TEL 06-6846-8475 FAX 06-6843-0119
shosoumu@city.toyonaka.osaka.jp